

事務事業名	市民生涯学習推進講座（家庭教育学級）			
-------	--------------------	--	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	昭和 41 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	生涯学習活動の促進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	ライフステージに対応した多様な学習機会の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	幼稚園または小学校に通う幼児や児童を持つ保護者が、子育てに関する教養を深めることにより、家庭における教育力を高めることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 幼稚園または小学校に通う幼児や児童を持つ保護者が行う学習活動を支援する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・昨年度に実施したアンケートをもとに、様式の改善等を行う。 ・4月下旬に幼稚園及び小学校に家庭教育学級の運営依頼を行う。 ・夏と秋に講演会（全体学習会）を行う。 ・11月に活動展を開催する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 幼稚園または小学校に通う幼児や児童を持つ保護者

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	364	209	364	364	176	364
	合計		364	209	364	364	176	364

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
幼稚園・小学校、保護者の連携による各学級の学習会のほか、講演会（全体学習会）、活動展を行った。 【学級数】12学級（小学校8学級、幼稚園4学級） 【家庭教育講演会】2回 参加者31人 【活動展】4学級参加 開催場所：登別市民会館	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	実施学級数（小学校）	学級	8	8	8	8	8
指標・実績②	実施学級数（幼稚園）	学級	4	4	4	4	4
指標・実績③	各学級（小学校）学習会開催数	回	30	27	24	23	26
指標・実績④	各学級（幼稚園）学習会開催数	回	15	14	17	15	15
指標・実績⑤	各学級（小学校）学習会参加人数	人	333	362	304	286	321
指標・実績⑥	各学級（幼稚園）学習会参加人数	人	958	1,056	730	1,185	982
指標・実績⑦	家庭教育講演会（夏）参加人数	人	30	11	8	12	20
指標・実績⑧	家庭教育講演会（秋）参加人数	人	30	46	28	19	20
指標・実績⑨	活動展参加学級数（小学校）	学級	5	5	4	3	8
指標・実績⑩	活動展参加学級数（幼稚園）	学級	1	1	1	1	4
成果指標	学習会開催数	回	45	41	41	38	41

課題等の状況【Check】		
(事務事業の実施における課題点等)		
改善	【1次評価】 ・家庭教育について知り、また、考える機会とするため、多くの学級の参加のもと、活動展を実施する必要がある。	財源の検討（補助金・交付金の活用等） ・北星学園大学社会福祉学部地域社会貢献事業（講師派遣） ・北海道金融広報委員会講師派遣 ・消費者教育啓発セミナー開催事業
	【2次評価】 今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
	【3次評価】 ・活動展は、会場を市民会館とし、日程も決定したうえで実施していたが、家庭教育学級に参加していない保護者にも見ていただく機会として、期間を長く設定し、期間内に各学級の学校または幼稚園を会場にそれぞれ実施してもらえるように改善する。	今後の方向性【Plan】 幼稚園または小学校に通う幼児や児童を持つ保護者が行う学習活動を支援する。

事務事業名	市民生涯学習推進講座（市民マイプラン講座）		
-------	-----------------------	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 3 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	生涯学習活動の促進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	ライフステージに対応した多様な学習機会の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	市内の団体が自主的に行う学習会に対し、講師を派遣することにより、市民の学習意欲を喚起し、生涯学習の推進を図ることを目的とする。	前回評価	改善
----	---	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 学習会等の活動を支援することで、市民の学習意欲を喚起する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・約3か月ごとに広報で事業の周知を行う。 ・市内団体が多く集まるイベント等でチラシを配布する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 市民マイプラン講座実施要綱	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 市民団体、サークル

P l a n d o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	150	50	150	150	70	150
	合 計		150	50	150	150	70	150

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
市民が自主的に企画し、複数人規模で行う学習等の活動に講師を派遣した。 【講師料】5,000円 【利用団体】14団体 【講座内容】ハーモニカ練習、初心者ヨガ教室、アロマブローチ作り等	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	講座参加人数	人	620	418	193	231	300
指標・実績②	講師派遣数	人	26	20	10	14	30
指標・実績③	実施講座数（利用団体数）	回	26	20	10	14	30
指標・実績④	制度について、広報紙での周知回数	回	4	4	4	4	4
指標・実績⑤	制度について、公式Webサイトでの周知回数	回	1	1	1	1	1
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	実施講座数（利用団体数）	団体	26	20	10	14	30

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・利用団体数が減少している。 ・社会教育委員の会にて、講師料が一律5,000円のため、価格帯の高い講師を選択できないなど学習企画の幅がせまいとの意見がある。	行政評価会議及び総合 今後の取り組みに記載のとおり検討を行うとともに、利用促進を図るため、講座の実施方法を工夫するなど事業改善を行ってください。	
改善			
【2次評価】	今後の取組【Action】 ・講師の選択の幅を広げるため、講師料等の見直しを行う。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】 学習会等の活動を支援することで、市民の学習意欲を喚起する。	
改善			

事務事業名		市民生涯学習推進講座（登別ときめき大学）		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 23 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	生涯学習活動の促進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	ライフステージに対応した多様な学習機会の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	社会、経済、自然、歴史、文化など多分野を学ぶことにより、それぞれの知識の充実を図るとともに、まちづくりを担う人材を育成することを目的とする。	前回評価	改善
----	--	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 地域住民に社会、経済、自然、歴史、文化などの多分野を学ぶ機会を提供する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・4月に受講の登録を呼びかける。 ・昨年度の講座アンケート結果を参考に4月に今年度講座を決定する。 ・5月から月1回程度基礎コース講座を開催する。 ・2月頃に年度末講座を開催し、併せて次年度の受講生を募集する。 ・5月、8月、1月に市内で行われる講演会等を連携コース講座として団体に登録を呼びかけ、登録した講座を受講生に案内する。 ・団体等が実施する講演会等を連携コースに登録するよう随時呼びかけを行う。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別ときめき大学設置要綱	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 登別ときめき大学受講者

P l a n d o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他	登別ときめき大学参加負担金	千円	90	91	90	90	87	87
一般財源		千円	285	162	285	285	288	288
	合 計		375	253	375	375	375	375

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
登別ときめき大学事務局主催の基礎コースと他団体主催の連携コースで、それぞれ講座を行った。 【基礎コース】「アイヌ神謡集超入門」「健康につながる食育」「南極での生活と食について」 他 (全9講座) 【連携コース】ミズバショウ観察会、初心者英会話教室、きずなシンポジウム 他 (全122講座)	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	受講者数（基礎コース年間）	人	264	482	384	313	360
指標・実績②	登別ときめき大学登録者数	人	87	85	91	87	90
指標・実績③	基礎コース講座実施数	講座	8	9	9	9	8
指標・実績④	連携コース講座登録数	講座	81	96	117	122	130
指標・実績⑤	基礎コース最終講座兼体験入学講演会参加者数	人	67	205	130	73	116
指標・実績⑥	連携コース更新版冊子配布回数	回	2	2	2	2	2
指標・実績⑦	連携コース登録団体数	団体	19	22	36	35	35
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	生涯学習事業への参加者人数（平成37年度目標：2,500人）	人	2,235		1,647	2,046	2,500

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・講座参加者数を増やすため、受講者の意見を反映した講座を企画する必要がある。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	・基礎コース講座実施時にアンケートを行い、アンケート結果を参考にし、運営委員会に諮る。
【3次評価】	
継続	今後の方向性【Plan】 地域住民に社会、経済、自然、歴史、文化などの多分野を学ぶ機会を提供する。

事務事業名	登別市文化・スポーツ振興財団事業補助金	
-------	---------------------	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 8 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	1	生涯学習活動の促進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	ライフステージに対応した多様な学習機会の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	文化やスポーツ活動の振興を図る一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団の実施する事業を支援することにより、文化振興及びスポーツ推進を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 文化振興やスポーツ推進を図るため、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団の実施する事業を支援する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団からの交付申請に対し、内容の精査を行い、助成金を交付する。 ・同団体から提出された事業報告書及び収支決算書に基づき、助成金が目的に沿って活用されているかを精査し、助成額を確定する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

Plan Do (財源内訳)	名称	単位	H28当初	H28決算	H29当初	H29最終	H29決算	H30当初
			予算		予算	予算		予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	4,909	4,909	4,909	4,909	4,887	4,950
	合計		4,909	4,909	4,909	4,909	4,887	4,950

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に対して、文化・スポーツ活動へのきっかけとなる初心者向けの教室や芸術鑑賞事業、スポーツ大会などの実施に要する経費の一部を補助した。	
【文化振興事業】	
・文化教室（初心者英会話教室外8事業）	128名
・芸術鑑賞（道新ジュニアクラシック外1事業）	1,231名
・共催事業（市民文化祭外2事業）	818名
【スポーツ振興事業】	
・スポーツ教室（初心者レディースゴルフ教室外8事業）	642名
・スポーツ大会（市民ソフトボール大会外3事業）	257名
・共催事業（市民ミニバレー大会）	94名

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	文化振興事業・文化教室事業の参加者数	人	105	115	133	128	153
指標・実績②	文化振興事業・文化教室事業数	事業	7	7	7	9	9
指標・実績③	文化振興事業・芸術鑑賞事業の参加者数	人	1,073	1,067	1,049	1,231	1,730
指標・実績④	文化振興事業・芸術鑑賞事業数	事業	3	3	3	2	3
指標・実績⑤	スポーツ振興事業・スポーツ教室事業の参加者数	人	198	1,259	499	642	1,356
指標・実績⑥	スポーツ振興事業・スポーツ教室事業数	事業	10	12	11	9	10
指標・実績⑦	スポーツ振興事業・スポーツ大会事業の参加者数	人	367	296	276	257	312
指標・実績⑧	スポーツ振興事業・スポーツ大会事業数	事業	5	5	5	4	4
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	文化振興事業・芸術鑑賞事業及びスポーツ振興事業・スポーツ教室事業の参加人数（延べ）	人	2,227	3,025	2,748	3,170	4,475

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	効果的な事業を行うため、事業内容の精査が必要。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・文化及びスポーツの振興を図るため、引き続き補助する。 ・市民ニーズを的確に把握し、より良い事業を行うため、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団と事業内容について協議、検討を行う。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		文化振興やスポーツ推進を図るため、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団の実施する事業を支援する。	

事務事業名		登別市文化・スポーツ振興財団運営補助金		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 8 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	生涯学習活動の促進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	ライフステージに対応した多様な学習機会の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	文化やスポーツ活動の振興を図る一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団の運営を支援することにより、質の高い文化やスポーツの場を提供することを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民に質の高い文化やスポーツの場を提供するため、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団の運営を支援する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団からの交付申請に対し、内容の精査を行い、助成金を交付する。 ・同団体から提出された事業報告書及び収支決算書に基づき、助成金が目的に沿って活用されているかを精査し、助成額を確定する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	11,739	11,279	11,749	11,749	10,953	11,766
合計			11,739	11,279	11,749	11,749	10,953	11,766

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
運営管理に係る改善点や問題点など適宜確認する。	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	役員数（理事・幹事）	人	10	10	10	10	10
指標・実績②	役員数（評議員）	人	8	8	8	8	8
指標・実績③	理事会開催数	回	4	4	4	3	2
指標・実績④	評議員会開催数	回	1	1	1	1	1
指標・実績⑤	登別市文化・スポーツ振興財団運営補助金の額の推移（決算ベース）	千円	11,405	11,525	11,279	10,953	11,766
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	従事者数	人		4	4	4	4

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	運営管理に係る改善点や問題点など適宜確認する。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・文化及びスポーツの振興を図るため、引き続き補助する。 ・一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団と運営管理に係る改善点や問題点等について、適宜確認する場を設ける。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		市民に質の高い文化やスポーツの場を提供するため、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団の運営を支援する。	

事務事業名	生涯学習の推進
-------	---------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 元 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	1	生涯学習活動の促進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	主体的な生涯学習活動に向けた情報の提供	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	市民一人ひとりが自ら学び、学習成果を活用して新たな学びを得ることにより、豊かな心と生きがいを持つことのできる生涯学習循環型社会の構築を目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民が自発的かつ継続的に生涯学習活動を行える機会を提供する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・7月に市民会館を利用する団体へ市民会館サークル展の参加を案内する。 ・10月に市民会館サークル展を開催する。 ・3か月毎に人材バンクの利用及び登録について市広報紙で呼びかける。 ・市民会館サークル展実施時に人材バンク登録の呼びかけを行う。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 市民

Plan D o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	0	0	0	0	0	0
	合計		0	0	0	0	0	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
市民の自発的かつ継続的な生涯学習活動を行うことができるよう発表の場を設けるとともに、学習指導者等の情報の提供を行った。 【市民会館サークル展】年1回 【人材バンク】個人講師登録件数 79件、団体講師登録件数 43件、仲間募集登録件数 69件 【生涯学習事業 実績と点検評価】年1回発行	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	市民会館サークル展展示数	点	275	333	398	285	320
指標・実績②	人材バンク個人講師登録件数	件	76	77	78	79	80
指標・実績③	人材バンク団体講師登録件数	件	43	43	43	43	44
指標・実績④	人材バンク仲間募集登録件数	件	66	67	69	69	70
指標・実績⑤	生涯学習事業 実績と点検評価冊子発行回数	回	1	1	1	1	1
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	市民会館サークル展の参加団体数	団体	15	10	12	10	12

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・市民会館サークル展について、見学者を増やすため、より周知を行う必要がある。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・市内公共施設等へポスターの掲示を行う。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		市民が自発的かつ継続的に生涯学習活動を行える機会を提供する。	

事務事業名	婦人研修の家管理経費				
-------	------------	--	--	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	市民生活部市民協働G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	昭和 52 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	生涯学習施設の確保と充実	大型事業推進プラン	非登録事業

目的	婦人の生活文化や教養の向上を図るとともに、地域住民の活動拠点として住民同士の連携を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市内の婦人研修の家の運営管理及び老朽化した箇所の修繕を行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 施設を維持管理するための委託料を支払うこと及びその施設の細かな問題等について指定管理者と密に連絡を取る。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市婦人研修の家条例、登別市婦人研修の家条例施行規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 婦人研修の家、指定管理者

P l a n n o (事業費 財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	1,337	1,260	1,582	1,582	1,553	3,975
	合計		1,337	1,260	1,582	1,582	1,553	3,975

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
町内会等が指定管理者となっている8箇所の婦人研修の家の維持管理を行ったほか、施設修繕を実施した。 【修繕実績】 若草婦人研修の家 和室床修繕	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	登別市婦人研修の家 栄婦人研修の家利用者数	人		1,290	948	1,236	1,300
指標・実績②	登別市婦人研修の家 新川婦人研修の家利用者数	人		1,669	1,598	2,351	2,400
指標・実績③	登別市婦人研修の家 常盤婦人研修の家利用者数	人		842	626	699	700
指標・実績④	登別市婦人研修の家 若草婦人研修の家利用者数	人		6,403	5,693	5,695	5,700
指標・実績⑤	登別市婦人研修の家 カルルス婦人研修の家利用者数	人		82	21	34	100
指標・実績⑥	登別市婦人研修の家 美園婦人研修の家利用者数	人		1,099	1,358	2,683	2,700
指標・実績⑦	登別市婦人研修の家 桜木婦人研修の家利用者数	人		3,130	3,439	3,011	3,100
指標・実績⑧	登別市婦人研修の家 柏木婦人研修の家利用者数	人		3,014	2,892	2,572	2,600
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	婦人研修の家利用者数	人	19,081	17,529	16,575	18,281	18,600

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・ 婦人研修の家は、地域に密着した集会施設として、老人クラブ・町内会などで頻繁に利用されている。 ・ 上記の点から改修等を計画的に行い維持していくことが必要である。	行政評価会議及び総合	
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】		
【3次評価】	施設の老朽化が進んでいるため、指定管理者と協議のうえ必要箇所の修繕を行うとともに、指定管理者への適切な維持管理を促す。	今後の方向性【Plan】 指定管理者である町内会等と連携し、適切な維持管理に努める。	
継続			
継続			

事務事業名	公民館運営管理経費
-------	-----------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	昭和 60 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	生涯学習施設の確保と充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	地域住民に交流・研修の場を提供することにより、生涯学習の環境の充実を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 地域住民に安心して使用できる交流・研修の場を提供する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・補修が必要な箇所を日常的に把握し計画的に補修する。 ・突発的な補修箇所について迅速に対応する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市公民館条例、登別市公民館条例施行規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 公民館利用者

P l a n d o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他	行政財産使用料、公民館使用料、私用電話使用料	千円	97	85	101	101	102	97
一般財源		千円	367	364	1,011	1,011	991	990
	合計		464	449	1,112	1,112	1,093	1,087

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
登別公民館、登別温泉公民館の運営管理及び鷺別公民館も含めた各公民館の老朽箇所の補修や備品の整備を実施した。	
【補修箇所】	
・鷺別公民館：自動ドア装置取替修繕	
・登別温泉公民館：誘導灯交換修繕、トイレ臭気抜き修繕、登別温泉支署事務室照明器具修繕、トイレ手洗い器撤去	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	登別公民館利用者数（市主催）	人	964	1,793	788	1,665	1,300
指標・実績②	登別公民館利用者数（一般）	人	0	6	13	7	7
指標・実績③	登別公民館利用者数（減額団体）	人	0	0	0	0	0
指標・実績④	登別公民館利用者数（免除団体）	人	282	265	250	50	50
指標・実績⑤	登別温泉公民館利用者数（市主催）	人	393	225	204	61	220
指標・実績⑥	登別温泉公民館利用者数（一般）	人	187	16	10	48	65
指標・実績⑦	登別温泉公民館利用者数（減額団体）	人	294	140	301	0	0
指標・実績⑧	登別温泉公民館利用者数（免除団体）	人	250	232	325	280	270
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	公民館利用人数	人	2,370	2,677	1,891	2,111	1,912

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・消防署支署の移設に伴い、登別、温泉公民館の今後のあり方について検討する必要がある。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・公民館の利用人数、ランニングコスト等を集約し、存廃について検討する。		
【3次評価】			
継続		<b>今後の方向性【Plan】</b> 地域住民に安心して使用できる交流・研修の場を提供するとともに、公民館の今後の在り方について検討する。	



事務事業名		教育施設運営管理経費		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 18 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	生涯学習施設の確保と充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	市民が活発に文化・スポーツ活動を行うことができる環境を整えることにより、市民の健全な心身の育成を図ることとする。	前回評価	継続
----	--	------	----

P l a n 概 要	目 標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民の健全な心身の育成を図るために、市民が活発に文化・スポーツ活動を行うことができる環境を整える。							
	計 画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・指定管理者である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に対し、施設の管理に対する委託料を支払う。 ・同団体から提出された事業報告書及び関係書類を確認し、管理業務等の評価を行う。							
	根 拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市民会館条例、登別市民会館条例施行規則、登別市公民館条例、登別市公民館条例施行規則、登別市総合体育館条例、登別市総合体育館条例施行規則、登別市体育施設設置条例、登別市体育施設設置条例施行規則、登別市公の施設の指定管理者の手續等に関する条例	対 象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 教育施設利用者					
P l a n D o (財源内訳) 事業費	名 称		単 位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
	道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源		千円	63,562	63,562	63,562	63,562	63,562	63,562
合 計				63,562	63,562	63,562	63,562	63,562	63,562

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
指定管理者への委託により社会教育施設の運営管理を行う。(対象施設：市民会館、鷺別公民館、総合体育館、陸上競技場) 【平成28～32年度指定管理者】 一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団	

指標の状況【Check】									
指標の区分	指標の名称	単 位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標		
指標・実績①	市民会館利用人数	人	67,084	71,806	63,126	54,404	54,000		
指標・実績②	市民会館開館日数	日	359	360	359	359	359		
指標・実績③	鷺別公民館利用人数	人	30,902	32,785	27,979	26,296	26,000		
指標・実績④	鷺別公民館開館日数	日	359	360	359	359	359		
指標・実績⑤	総合体育館利用人数	人	58,408	22,924	55,750	58,736	57,000		
指標・実績⑥	総合体育館開館日数	日	358	147	358	358	359		
指標・実績⑦	陸上競技場利用人数	人	15,130	13,397	8,192	3,963	4,000		
指標・実績⑧	陸上競技場利用日数	日	206	235	203	156	200		
指標・実績⑨									
指標・実績⑩									
成果指標	施設利用人数	人	171,524	140,912	155,047	143,399	141,000		

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
【1次評価】	・施設を利用する市民からの要望等に迅速に対応できるよう適切に管理を行う。 ・今後の市民会館の利用者増加に向けた指定管理者と協議を行う。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	行政評価会議及び総合
【3次評価】	・市民からの要望等に迅速に対応できるよう指定管理者である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団と適宜協議する場を設け、施設の修繕や備品等の取替など速やかに行う。
継続	今後の方向性【Plan】 市民の健全な心身の育成を図るために、市民が活発に文化・スポーツ活動を行うことができる環境を整える。

事務事業名	鷺別公民館整備事業		
-------	-----------	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 22 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ハード事業
主要な施策	1	生涯学習施設の確保と充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	老朽化が進む鷺別公民館を計画的に整備することで、施設の長寿命化を図るとともに、利用者の安全・安心・快適な施設利用を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください)	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください)	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入)
		登別市公民館条例、登別市公民館条例施行規則	鷺別公民館

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円						
	合 計		0	0	0	0	0	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
未実施	

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標の区分	指標の名称						
指標・実績①	開館日数	日	359	360	359	359	359
指標・実績②	1日当たりの延べ利用者数	人	86	91	78	73	72
指標・実績③	年間利用件数	件	2,632	2,785	2,708	2,585	2,500
指標・実績④	1日当たりの利用件数	件	7	8	8	7	7
指標・実績⑤	年間減額利用件数	件	1,512	1,511	1,362	1,423	1,400
指標・実績⑥	年間免除利用件数	件	826	992	972	843	800
指標・実績⑦	減額・免除率	%	89	90	86	88	88
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	鷺別公民館利用者数	人	30,902	32,785	27,979	26,296	26,000

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
(事務事業の実施における課題点等)			
【1次評価】	・これまで、緊急的な修繕については公共施設当経費、老朽化等による交換・修繕については整備事業費で維持管理を行ってきたが、今後も施設の長寿命化を図るため計画的な改修が必要である。 ・空調排気口については老朽化により、外部カバーの基礎に亀裂が入り、内部も破損しており、落下の恐れもあることから利用者の安全性を確保するため平成28年3月に応急処置を実施している。		
継続		行政評価会議及び総合	
【2次評価】	今後の取組【Action】 ・これまでの管理状況や修繕状況、市民ニーズなどを踏まえ、緊急性や必要性を考慮し、施設の長寿命化に向けた検討を行う。		
継続		今後の方向性【Plan】	
【3次評価】		利用者の安全・安心・快適な施設利用を図るため、老朽化が進む鷺別公民館を計画的に整備する。	
継続			

事務事業名	図書館運営管理事業		
-------	-----------	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会図書館
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 ー 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	図書館機能の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	図書館資料の整備と読書推進事業の実施、配本所の機能強化に努めることにより、市民の教育文化の向上に寄与することを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 地域を支える情報拠点としての役割を認識し「地域の社会関係資本」「教育的資源」としての機能を積極的に果たす。						
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・図書館への興味関心を高めて頂き、市民の方々が本に親しめる環境を創るため、各種事業や展示を継続的に展開する。 ・どなたでも利用しやすい図書館とするため、施設の維持整備を行う。						
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 図書館法、登別市図書館条例、登別市図書館条例施行規則、登別市立図書館処務規程	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 図書館利用者				
P l a n d o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円	31	20	31	31	21	31
	一般財源	千円	7,644	7,150	7,529	7,929	7,358	8,048
合計			7,675	7,170	7,560	7,960	7,379	8,079

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
図書館資料の整備と市民の求める資料の提供に努めるとともに、すべての市民を対象にした読書推進事業を行った。	
【事業実績】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児の読書感想画募集 応募件数 258件</li> <li>・小中学生の読書感想文、感想画コンクール 応募件数 449件（文）、78件（画）</li> <li>・外部講師による講演会等 8回実施、参加人数合計 235人</li> <li>・「図書館通信」発行（月1回）、「じどうしつだより」発行（年9回）、「ブックリスト」（小学生向けのお薦め本）発行（年2回）</li> <li>・ピピリオバトル（共催事業、年6回 36人参加）</li> <li>・ボランティア団体によるおはなし会等 3団体 合計32回、参加人数合計 372人</li> <li>・職員によるおはなし会（10回 115人参加）、ロビー展示 19回）</li> <li>・団体貸出、施設搬送（27施設・団体、8小学校）</li> </ul>	
【施設整備】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登別市関係者著作コーナーの充実、閲覧室（3階）の文庫架配置直し</li> <li>・館内ブラインドの一部修繕</li> </ul>	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	貸出登録者数	人	22,073	23,059	27,970	24,974	25,000
指標・実績②	貸出冊数	冊	227,228	239,977	218,954	203,612	210,000
指標・実績③	年長児の読書感想画応募件数	件	245	221	265	258	260
指標・実績④	小中学生の読書感想文コンクール応募件数	件	470	491	422	449	450
指標・実績⑤	小中学生の読書感想画応募件数	件	66	82	64	78	85
指標・実績⑥	外部講師による講演会開催数	回	7	7	4	8	8
指標・実績⑦	外部講師による講演会参加者数	人	274	242	123	235	250
指標・実績⑧	図書館通信発行回数	回	12	12	12	12	12
指標・実績⑨	職員によるお話し会開催回数	回	9	9	8	10	10
指標・実績⑩	職員によるお話し会参加人数	人	56	46	62	115	130
成果指標	図書館を利用した市民の割合（平成37年目標：15.0）	%	10.7	10.8	10.7	10.2	11.0

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	平成28年度まちづくり意識調査において、次の課題を見出した。 ・市民の7割以上が図書館をほとんど利用していない ・その主な理由は、本（図書館）に興味がない、遠い、図書館のことがよく分からない等であった また、平成29年度の利用状況において、次の課題を見出した。 ・新規登録者 前年度比13%程度減少 ・貸出冊数、利用者数ともに前年度比7～8%程度減少		
継続		行政評価会議及び総合	
【2次評価】	今後の取組【Action】		
継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館が身近になるよう、魅力や有用性などを積極的に発信、周知する。</li> <li>・市内の配本所（各支所内）やアーニス分館での予約及び受取、3市で取り組んでいる広域図書館についても周知を図る。</li> <li>・読書のみならず、地域や個人の問題や課題を解決するための支援（資料提供）を行っていく。</li> </ul>		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域に根ざした図書館」「市民と共につくる図書館」を目指し、市民が能動的に図書館活動に関われる環境を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域の社会関係資本」「教育的資源」としての機能を積極的に果たすため、市民のニーズに応えられるよう多様な資料の収集・提供に努めるとともに、本に親しむ機会を創出する事業を企画・展開する。</li> </ul>	

事務事業名 移動図書館運行业務委託事業

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会図書館
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 18 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 29 年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	図書館機能の充実	大型事業推進プラン	非登録事業

目的	市民が地域で図書館サービスを利用できる環境を整えることにより、市民の教育文化の向上を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市内全ての地域を網羅した全域サービスをより一層強化する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 移動図書館車の効率的な運行と巡回サービスの向上を図るため、運行业務を委託する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 移動図書館利用者

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	5,095	5,087	5,087	5,087	5,087	0
	合計		5,095	5,087	5,087	5,087	5,087	0

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

移動図書館車の効率的な運行と巡回サービスの向上を図るため、運行业務を委託した。  
【契約期間（債務負担行為）】  
平成28年度～平成29年度（2年間）

移動図書館車の老朽化に対応するため、平成29年度において車両を更新した。  
なお、委託契約期間満了にあたっての庁内検討において、平成30年度より移動図書館運行业務を市の直営方式に切り替えることとなったため、業務委託は平成29年度をもって終了した。

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	移動図書館車 稼働日数	日	226	225	223	223	
指標・実績②	移動図書館車 ステーション数	箇所	64	64	64	64	
指標・実績③	移動図書館車 総貸出冊数（団体貸出含）	冊	23,906	23,660	21,258	20,183	
指標・実績④	移動図書館車 総利用者数（団体含）	人	9,733	9,586	8,929	8,309	
指標・実績⑤	移動図書館車 有効登録車数（団体含）	人	204	204	180	167	
指標・実績⑥	移動図書館車 新規登録車数（団体含）	人	26	20	14	14	
指標・実績⑦	移動図書館車 予約受付冊数（団体含）	冊	220	134	1,377	1,579	
指標・実績⑧	移動図書館車 一日平均利用者数（団体含）	人	43	43	40	37	
指標・実績⑨	移動図書館車 蔵書冊数	冊	5,755	5,855	5,714	5,817	
指標・実績⑩	移動図書館車 新刊資料受入数	冊	1,416	1,291	1,170	1,257	
成果指標	移動図書館車個人貸出冊数	冊	23,898	23,654	21,241	20,131	

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	・効率的な運行方法と巡回ルート、ステーションについて検討する必要がある。	
終了		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
終了	平成30年度より運行业務を直営方式に切り替える。これにより、業務委託は平成29年度をもって終了とする。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
終了		

事務事業名	図書・資料等購入費
-------	-----------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会図書館
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 ー 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	図書館機能の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	図書館の蔵書を充実させるため、図書・資料等を収集・整理保存し、市民の利用に供することを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 多様なニーズに応える資料の収集整備を行うとともに、適正な蔵書数による魅力ある書架を創造する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・市民からのリクエストを随時受け付ける。 ・選書会議（週1回）を開催し、収集資料の選定を行う。 ・蔵書の飽和状態を解消するため、除籍と整理に取り組む。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 図書館利用者

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初	H28決算	H29当初	H29最終	H29決算	H30当初
			予算		予算	予算		予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	9,085	9,077	9,085	9,085	9,085	9,142
	合計		9,085	9,077	9,085	9,085	9,085	9,142

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

市民の利用に供するための図書・資料等の購入を実施するとともに、蔵書の飽和状態を解消するため、老朽化の著しい図書や複数所蔵している図書の除籍を進めた。  
 なお、除籍資料のうち再利用が可能な状態であるものについては、アーニス分館及び市民活動センターにリサイクルコーナーを設置して市民に提供した。

【購入冊数】  
 ・書籍 4,969冊、雑誌 1,126冊

【除籍冊数】  
 ・書籍 2,469冊、雑誌 1,066冊

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	蔵書冊数（全館合計・全資料）	冊	173,732	158,592	157,493	160,684	160,000
指標・実績②	新聞所蔵数	紙	13	13	13	12	13
指標・実績③	雑誌・逐次刊行物 所蔵タイトル数	誌	161	161	152	153	153
指標・実績④	常設リサイクルコーナー設置数	箇所	0	1	2	2	2
指標・実績⑤	貸出冊数	冊	227,228	239,977	218,954	203,612	210,000
指標・実績⑥	利用者数	人	61,233	63,889	59,149	55,471	60,000
指標・実績⑦	予約冊数	冊	22,086	24,216	22,726	23,730	24,000
指標・実績⑧	市民一人当たり蔵書冊数	冊	3	3	3	3	4
指標・実績⑨	貸出密度（一人当たり貸出冊数）	冊	5	5	4	4	5
指標・実績⑩	市民一人当たり資料費	円	189	184	185	187	188
成果指標	購入図書冊数	冊	5,335	4,884	4,781	4,969	4,980

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	蔵書の飽和状態を解消、魅力ある書架を構築することが登別市立図書館の最重要課題である。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>本館2階書庫及び閉架書庫に保管している資料の除籍と整理を行う。</li> <li>リサイクルコーナーを活用し、除籍資料の有効活用を図る。</li> <li>これまで同様、市民からのリクエスト受付及び選書会議により魅力ある所蔵資料の充実に取り組む。</li> </ul>	
【3次評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の課題解決に役立つ資料の収集・整備に努める。</li> <li>登別や北海道に関する地域資料の充実を図る。</li> </ul>	今後の方向性【Plan】
継続		多様なニーズに応える資料の収集整備を行うとともに、適正な蔵書数による魅力ある書架を創造する。

事務事業名 図書館ネットワークサービス広域化事業費

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会図書館
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 23 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	図書館機能の充実	大型事業推進プラン	非登録事業

目的	近隣市との図書館相互利用を可能にすることにより、市民が図書館を利用しやすい環境を整えることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 相互利用の根幹となる「安定した物流体制」を構築する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・週1回、三市が一堂に会して予約本及び返却本の受渡を行う。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別・室蘭・伊達の3市の市民

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初	H28決算	H29当初	H29最終	H29決算	H30当初
			予算		予算	予算		予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	644	634	648	648	636	645
	合計		644	634	648	648	636	645

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

- ・定住自立圏の連携事業として、登別・室蘭・伊達の3市の図書館情報システムや図書資料等を一体で運用・利用した。
- ・平成24年1月から室蘭市・伊達市の2市で行っていた本事業に当市も参加した。
- ・物流作業を短時間で完了できるよう集合場所は室蘭市白鳥台分室とし、職員2名体制で物流作業に当たった。

**指標の状況【Check】**

指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	週あたり 3市物流稼働日数	日	1	1	1	1	1
指標・実績②	登録市以外で本を借りた件数 (3市合計)	冊	18,241	20,123	18,365	19,904	20,000
指標・実績③	所蔵館以外で貸出された件数 (3市合計)	冊	48,578	52,414	49,621	52,066	52,500
指標・実績④	資料が流通した件数 (3市合計)	冊	140,453	155,577	156,651	157,558	158,000
指標・実績⑤	3市物流業務担当職員数	人	1	1	2	2	2
指標・実績⑥	室蘭・伊達に配送した登別の図書	冊	24,085	28,646	29,286	28,916	29,000
指標・実績⑦	登別市貸出登録者数	人	22,073	23,059	27,970	24,974	25,000
指標・実績⑧	貸出冊数	冊	227,228	239,977	218,954	203,612	210,000
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	図書館を利用した市民の割合 (平成37年目標: 15.0%)	%	10.7	10.8	10.7	10.2	11.0

**課題等の状況【Check】**

(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討 (補助金・交付金の活用等)

【1次評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互利用の状況は高く推移しており、システム運用面でも有益である。</li> <li>・相互利用の増加に伴い、流通書籍の量も増加している。</li> <li>・Windows 7のサポート終了に伴い、業務用端末及び図書館システムの更新が必要となる。</li> </ul>	行政評価会議及び総合
【2次評価】	<p><b>今後の取組【Action】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年々増加している相互利用に対応するため、物流の回数や方法等を三市で継続的に協議していく。</li> <li>・Windows10への対応にかかるシステム更新について三市で協議するとともに、システム設計を共同で進める。</li> <li>・平成31年度に向けて、業務用端末の更新を進める。</li> </ul>	
【3次評価】	<p><b>今後の方向性【Plan】</b></p> <p>利用者の利便性の更なる向上を図るため、弾力的に物流業務を進める。 また、Windows10への対応のため、PC及びシステムの更新を進める。</p>	

事務事業名	アーニス分館運営管理経費
-------	--------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会図書館
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成27年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成—年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	図書館機能の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	図書館アーニス分館を運営することにより、図書等の充実、バリアフリー化、夜間及び祝日の開館による利便性の向上を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 蔵書の種類、開館日や開館時間を本館と差別化する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・大活字本や雑誌資料を重点的に配置する。 ・休館日を木曜日とし、開館時間は20時までとする。(本館：月曜及び祝日休館、開館時間は18時まで)	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 図書館利用者

Plan （財源内訳） 事業費	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
	道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他	複写業務収入	千円	132	96	132	132	93	120
	一般財源		千円	5,203	5,089	5,169	5,169	5,124	5,195
	合計				5,335	5,185	5,301	5,301	5,217

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
図書館分館を運営し、高齢者を対象とした大活字本の充実、雑誌資料の拡充、インターネットを活用したデジタル資料・データベースの提供を行った。 休館日及び開館時間については、計画どおり運営した。(休館日：木曜日、開館時間：20時まで)	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	分館貸出冊数	冊		17,929	18,326	16,551	16,550
指標・実績②	分館利用者数	人		10,225	9,578	8,600	8,600
指標・実績③	分館蔵書数(図書)	冊		7,310	7,704	8,208	8,200
指標・実績④	分館蔵書数(雑誌)	冊		1,051	1,316	1,474	1,480
指標・実績⑤	分館蔵書数(視聴覚資料)	点		618	618	645	650
指標・実績⑥	分館蔵書数(大活字本)	冊		93	126	155	170
指標・実績⑦	分館蔵書数(紙芝居)	冊		46	46	46	46
指標・実績⑧	市民閲覧用PC設置台数	台		8	8	8	8
指標・実績⑨	アーニス分館だより発行回数	回		0	12	12	12
指標・実績⑩	分館PC利用回数	回		6,041	5,420	4,618	5,000
指標・実績⑪	分館特集展示回数	回		12	12	12	12
指標・実績⑫	分館事業数(まちゼミ開催数等)	回		1	1	1	1
成果指標	年間開館日数	日		291	293	290	290

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
【1次評価】	休館日や所蔵資料等について、今後も利用者ニーズを的確に把握していく必要がある。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】 行政評価会議及び総合
継続	・利用者からの要望を取りまとめ、必要に応じてアーニス事務局等と協議しながら分館の運営にあたる。
【3次評価】	今後の方向性【Plan】 蔵書の種類、開館日や開館時間を本館と差別化し、市民ニーズに応えられるよう努める。
継続	

事務事業名		ブックスタート・ライブラリースタート事業		
区分	No.	名称		部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち		教育委員会図書館
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる		一般会計
施策	1	市民の主体的な学習の推進		開始年度 平成 27 年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実		終了年度 平成 ー 年度
主要な施策	3	図書館機能の充実		事業区分 ソフト事業
				大型事業推進プラン 非登録事業

目的	本にふれる機会を提供することにより、乳幼児の読書意欲の向上と図書館の利用を促進することを目的とする。	前回評価	改善
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 良質な図書の情報提供に加え、これまで図書館を利用したことがない方へ図書館利用の機会を創出する。		
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 【ブックスタート】 ・平成27年から子育てGの所管事業としていたブックスタート事業を図書館の所管として取り組む。 ・4か月検診時の会場で絵本3冊とコットンバッグを配布する。 【ライブラリースタート】 ・3歳児検診の会場で事業について説明し、図書館へ来館時（後日）に希望の絵本を選んで頂く。（絵本は郵送）		
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 第2次登別市子ども読書活動推進計画	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 4か月児とその保護者（ブックスタート） 3歳児とその保護者（ライブラリースタート）

P l a n n o （ 財 源 内 訳 ） 事 業 費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	1,455	982	1,028	1,028	870	1,028
	合計		1,455	982	1,028	1,028	870	1,028

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
【ブックスタート】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4か月児健診時に絵本3冊と絵本リストやアドバイス集、コットンバッグを配布した。</li> <li>・事業移管時に対象者を4か月児のみとした。（これまでは4か月、10か月、1歳半）</li> <li>・平成29年度利用者数 291名</li> </ul>
【ライブラリースタート】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児健診時に事業を説明したチラシを配付し、その後来館した際に、施設のサービスや事業、利用方法等を紹介するとともに、本1冊を提供した。</li> <li>なお、平成29年度より、こぐま号やアーニス分館、各配本所でも受付を行うよう改善した。（従来は本館のみでの受付）</li> <li>・平成29年度利用者数 121名</li> </ul>

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	ブックスタート 配布率	%		99.3	100.0	100.0	100.0
指標・実績②	ブックスタート 実施回数	回		9	12	12	12
指標・実績③	ブックスタート 配布用作成資料数	種類		5	5	5	5
指標・実績④	ライブラリースタート チラシ配布対象者数	人		336	321	299	300
指標・実績⑤	ライブラリースタート 新規利用カード作成者数	人		37	45	41	50
指標・実績⑥	ライブラリースタート アンケート回答数	人		31	46	78	100
指標・実績⑦	ライブラリースタート 図書受領者	人		67	88	121	150
指標・実績⑧	ライブラリースタート 実施率（図書配布率）	%		20	27	41	50
指標・実績⑨	ライブラリースタートのおはなし会 実施回数	回					12
指標・実績⑩							
成果指標	図書館を利用した市民の割合（平成37年度目標：15.0%）	%	10.7	10.8	10.7	10.2	11.0

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	対前年度比で配布率は向上しているものの、更なる向上を目指して事業の趣旨や性格を考慮の上で配布法を再検討する必要がある。
改善	
【2次評価】	今後の取組【Action】
改善	<p>平成30年度より「ライブラリースタートのおはなし会」を毎月実施し、読み聞かせと併せて事業の説明や図書館の利用案内を行うこととする。</p> <p>行政評価会議及び総合</p> <p>事業の改廃も含め、若年層へのアプローチ方法など図書館の利用促進を図るよう取り組みを検討し、事業改善を行ってください。</p>
【3次評価】	今後の方向性【Plan】
改善	<p>事業対象者への周知方法の改善を図り配布率の向上に努める。また新たな図書館利用者の掘り出しや利用喚起に繋がる事業や取り組みを検討する。</p>



事務事業名 図書館便所改修事業

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会図書館
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成29年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成29年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ハード事業
主要な施策	3	図書館機能の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	図書館の便所を改修することにより、施設利用者の利便性と快適性の向上を図ることを目的とする。	前回評価
----	---	------

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 本館2階及び3階の和式便所の洋式化を図る。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・2階和式便器3基（男性用1基、女性用2基）及び3階和式便器3基（男性用1基、女性用2基）を全て洋式便器に改修する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 図書館法、登別市立図書館条例、登別市立図書館条例施行規則、登別市立図書館処務規程	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別市立図書館

Plan D 事業費 (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算	
	国庫支出金			千円						
道支出金			千円							
地方債			千円							
その他			千円							
一般財源			千円			1,892	1,892	1,836	0	
合計					0	0	1,892	1,892	1,836	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
7月の特別整理休館期間において改修を実施し、計画どおり合計6基の便器を洋式化した。このことにより、館内全ての便所が洋式便器となった。	

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	洋式化箇所数	基	0	0	0	6	0
指標・実績②	蔵書冊数（全館合計・全資料）	冊	173,732	158,592	157,493	160,684	160,000
指標・実績③	新聞所蔵数	紙	13	13	13	12	13
指標・実績④	雑誌・逐次刊行物 所蔵タイトル数	誌	161	161	152	153	153
指標・実績⑤	常設リサイクルコーナー設置数	箇所	0	1	2	2	2
指標・実績⑥	貸出冊数	冊	227,228	239,977	218,954	203,612	210,000
指標・実績⑦	利用者数	人	61,233	63,889	59,149	55,471	60,000
指標・実績⑧	予約冊数	冊	22,086	24,216	22,726	23,730	24,000
指標・実績⑨	市民一人当たり蔵書冊数	冊	3	3	3	3	4
指標・実績⑩	貸出密度（一人当たり貸出冊数）	冊	5	5	4	4	5
指標・実績⑪	市民一人当たり資料費	円	189	184	185	187	188
成果指標	図書館を利用した市民の割合（平成37年目標：15.0%）	%	10.7	10.8	10.7	10.2	11.0

課題等の状況【Check】		
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	・利用者への影響が少ない作業日程を確保することが必要であった。	
終了		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
終了	・館内の便所が洋式化されたことを利用者に周知するため、積極的に情報を発信する。なお、平成29年度においては修繕完了後の図書館通信において記事を掲載し、周知に努めた。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
終了		

事務事業名 デジタル資料提供事業

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会図書館
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 26 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	図書館機能の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	アーニス分館のIT機能を活用し、インターネットを活用したデジタル資料・データベースの提供を行う。 このことにより、近年書籍形態から電子媒体に移行しているレファレンス資料の動向に対応し、レファレンス機能を強化することを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 地域や住民が抱える問題の解決、疑問の解消、知的好奇心の充足を支援する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・デジタル資料を提供する。 ・オンラインデータベースを提供する。 ・利用者の求めに応じて学習や研究調査に必要な情報や資料を提供する「レファレンスサービス」の充実を図る。 ・利用者が「自立した情報利用者」となることを支援するサービスを行う。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 図書館利用者

P l a n D o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	620	620	623	623	623	626
	合 計		620	620	623	623	623	626

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
・	国立国会図書館デジタル化資料送信サービスや歴史的音源など、国立国会図書館のデジタル資料の提供を行った。
・	第一法規法情報総合データベース、ジャパンナレッジLib、北海道新聞記事データベースなどのオンラインデータベースの提供を行った。
・	登別ときめき大学の関連事業として、オンラインデータベース講習会を実施した。

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	データベース講習会実施回数	回		2	2	2	2
指標・実績②	データベース講習会参加者数	人		14	9	8	15
指標・実績③	データベース利用可能PC台数	台		9	9	9	9
指標・実績④	新聞DVD所蔵数	本		3	3	3	3
指標・実績⑤	データベース利用可能場所	箇所		2	2	2	2
指標・実績⑥	国立国会図書館デジタル化資料閲覧サービス提供コンテンツ数	種類		2	2	2	2
指標・実績⑦	アーニス分館PC利用回数	回		6,041	5,420	4,618	5,000
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	提供データベース数	種類	3	3	3	3	3

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
【1次評価】	オンラインデータベースへのアクセスについて、ライセンス数に制限がある。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	デジタル資料の利用状況を継続的に分析し、必要に応じて種類やライセンス数を見直していく。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		地域や住民が抱える問題の解決、疑問の解消、知的好奇心の充足を支援する。	

事務事業名 移動図書館車車両更新事業

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会図書館
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	1	生涯にわたって学び続ける社会をつくる	開始年度	平成 28 年度
施策	1	市民の主体的な学習の推進	終了年度	平成 29 年度
基本的な方向	2	生涯学習環境の充実	事業区分	ハード事業
主要な施策	3	図書館機能の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	市民が各地域で図書館サービスを利用できる移動図書館車運行业務を実施するにあたり、車両の老朽化が著しいことから車両の更新を行うことを目的とする。	前回評価	終了
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 老朽化が著しい移動図書館車の車両更新を行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・こぐま号の車両更新業務を進める。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別市移動図書館車

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初	H28決算	H29当初	H29最終	H29決算	H30当初
			予算		予算	予算		予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円			12,600	11,600	11,600	
	一般財源	千円			1,132	384	383	
	合計		0	0	13,732	11,984	11,983	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】

移動図書館車の車両の老朽化が著しいことから車両を更新した。  
また、購入費用のご寄附を頂いた室蘭信用金庫様と共催で記念事業を実施したほか、日本工学院様の協力により車両のラッピングデザインをしていただいた。

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	こぐま号更新 記念事業実施数	回				5	
指標・実績②	こぐま号更新 記念事業参加者数	人				715	
指標・実績③	こぐま号更新 記念事業周知メディア数	種類				4	
指標・実績④	こぐま号更新 記念事業周知回数	回				4	
指標・実績⑤	車両更新にあたり蔵書積み替えに要した日数	日				2	
指標・実績⑥	平成29年度までの運行业務委託金額（決算ベース）	千円	4,193	4,193	5,087	5,087	
指標・実績⑦	移動図書館車 稼働日数	日	226	225	223	223	
指標・実績⑧	移動図書館車 ステーション数	箇所	64	64	64	64	
指標・実績⑨	移動図書館車 総貸出冊数（団体貸出含）	冊	23,906	23,660	21,258	20,183	
指標・実績⑩	移動図書館車 総利用者数（団体含）	人	9,733	9,586	8,929	8,309	
成果指標	図書館を利用した市民の割合（平成37年目標：15.0%）	%	10.7	10.8	10.7	10.2	11.0

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	平成29年度の車両更新に向けて、仕様の決定や記念事業に係る調整等を計画的に進める必要があった。	
終了		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
終了	平成29年度に入札執行、記念事業を実施するとともにデザインをラッピングして事業完了となった。	
【3次評価】		
終了		今後の方向性【Plan】

事務事業名		指導方法の工夫改善				
区分	No.	名称				部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち				教育委員会学校教育G
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む				会計種別
施策	1	子どもたちの生きる力を育む				開始年度
基本的な方向	1	確かな学力の向上				平成 ー 年度
主要な施策	1	基礎・基本の定着				終了年度
						事業区分
						ソフト事業
						大型事業推進プラン
						非登録事業

目的	子どもたちの生きる力を育むための確かな学力の向上を目的とする。	前回評価	継続
----	---------------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 子どもたちの学習の理解度や習熟度に応じた指導方法の工夫や改善を図りながら基礎・基本の定着に努め、学び続ける意欲を醸成する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・指導方法工夫改善に不可欠な教職員定数加配について、胆振教育局からの通知を各学校に周知し、計画書を取りまとめ提出する。 ・計画書提出の際は、要項等に沿った内容であるかを確認し、必要に応じて指導及び助言する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学習指導要領、指導方法工夫改善実施計画調書作成要領	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 児童生徒

P l a n n o  (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	0	0	0	0	0	0
	合計		0	0	0	0	0	0

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

各学校において個に応じた指導の充実に努め、教職員定数加配（指導方法工夫改善）を活用し、チーム・ティーチング（TT～複数人指導）や習熟度別（学級改編指導）の指導方法による工夫に努めた。

指標の状況【Check】								
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標	
指標・実績①	習熟度別指導実施校（指導方法工夫改善加配）	校	11	10	11	11	10	
指標・実績②	指導方法工夫改善加配教員数	人	16	15	16	14	12	
指標・実績③	指導時数（習熟度）	時間	5,781	6,214	6,692	6,599	6,675	
指標・実績④	指導時数（チームティーチング）	時間	7,537	4,843	5,269	3,798	1,724	
指標・実績⑤								
指標・実績⑥								
指標・実績⑦								
指標・実績⑧								
指標・実績⑨								
指標・実績⑩								
成果指標	習熟度別指導実施校の割合（指導方法工夫改善加配）（平成37年度目標：80.0%）	%	84.6	76.9	84.6	84.6	76.9	

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	TTや習熟度別の指導を行うためには、基準定数を上回る加配枠での教員の配置が必要となるが、道教委の予算枠等の関係もあるため、必ずしも加配枠が確保できるとは限らない。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	行政評価会議及び総合
【3次評価】	今後の方向性【Plan】
継続	子どもたちの学習の理解度や習熟度に応じた指導方法の工夫や改善を図りながら基礎・基本の定着に努め、学び続ける意欲を醸成する。

事務事業名	教育課程の編成・実施・評価				
-------	---------------	--	--	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 ー 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	確かな学力の向上	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	思考力、判断力、表現力等の育成	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	子どもたちの生きる力を育むため、確かな学力の向上・豊かな人間性・たくましく生きるための健康や体力づくりに資する教育課程編成を目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 各学校で特色ある教育課程の編成を行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・学習指導要領に示されている「社会に開かれた教育課程」の示す理念の理解 ・カリキュラム・マネジメントの観点から、校長のリーダーシップを基に、全教職員が教育課程編成に関わる体制づくりの推進 ・編成した教育課程の実施及び学校評価等に基づく評価・改善	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法、学習指導要領	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 児童生徒、教員

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	0	0	0	0	0	0
合 計			0	0	0	0	0	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
子どもたちの確かな学力の向上や豊かな人間性の育成、たくましく生きるための健康や体力づくりなどの「生きる力」を育む特色のある教育課程の編成・実施・評価及び改善を進め、思考力・判断力・表現力や問題解決能力等の育成に繋がった。	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	教育課程編成を実施した学校数	校	13	13	13	13	13
指標・実績②	学校評価等を生かした教育課程に係る評価を実施した学校数	校	13	13	13	13	13
指標・実績③	小学校児童数	人	2,402	2,395	2,239	2,186	2,166
指標・実績④	中学校生徒数	人	1,145	1,139	1,185	1,128	1,119
指標・実績⑤	市内小中学校数	校	13	13	13	13	13
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	一斉学校公開日の来校者に占める地域住民の割合（平成37年度目標：14%）	%	7.00	9.42	8.49	9.05	9.50

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・学校評価等を活かした改善への動きに学校間で差がある。 ・学校により、全教職員が関与した組織的な編成・評価体制が十分ではない。	行政評価会議及び総合 指導方法の工夫改善と統合する。	
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】		
【3次評価】	・新学習指導要領の理念のさらなる共通理解を図る。 ・教育課程編成等への全教職員の関与につながる体制づくりを行う。	今後の方向性【Plan】 社会に開かれた教育課程の実現等、新学習指導要領に係る理解を一層深め、組織的な取組となるよう教職員個々の意識向上を図る。	
統合			

事務事業名	校内研修の充実
-------	---------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 ー 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	確かな学力の向上	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	思考力、判断力、表現力等の育成	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	子どもたちの生きる力を育むための確かな学力の向上を目的とする。	前回評価	継続
----	---------------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 児童生徒の実態、社会の要請、地域や保護者等の願いを踏まえた研修内容の設定・推進を図る。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 各学校複数年計画で、独自性を発揮した研修計画の立案 次期学習指導要領の内容を意識した研修の実施	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 教育基本法、教育公務員特例法	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 教職員

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	0	0	0	0	0	0
合 計			0	0	0	0	0	0

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

・各学校において、方針や重点目標を設定し、年間計画に沿って、研修（全体研修、ブロック研修等）を行った。研修資料の掲示や研修内容の情報交換を行い、意欲喚起や研究推進に努めた。また指導主幹・胆振教育局指導主事等による学校訪問等を活用し、各学校の校内研修充実に組織的に取り組んだ。

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	市内教職員数 ※本務職員数（小中学校合計）	人	265	271	277	273	
指標・実績②	市内小学校教職員数	人	169	173	175	175	
指標・実績③	市内中学校教職員数	人	96	98	102	98	
指標・実績④	小学校児童数	人	2,402	2,395	2,239	2,186	2,166
指標・実績⑤	中学校生徒数	人	1,145	1,139	1,185	1,128	1,119
指標・実績⑥	市内小中学校数	校	13	13	13	13	13
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	習熟度別指導実施校の割合（指導方法工夫改善加配）（平成37年度目標：80.0%）	%	84.6	76.9	84.6	84.6	76.9

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	・研修資料の掲示や研修内容の情報交換、指導主幹・胆振教育局指導主事等による学校訪問等を活用し、引き続き各学校の校内研修充実に努める。 ・研修課題や到達目標等は、学校ごとに管理職を含めた教職員全体で協議し設定している。結果として、課題や到達目標の難易度等についても、それぞれの学校で異なるため、統一的な基準で効果測定や比較を行うことが困難となっている。	
継続		行政評価会議及び総合
【2次評価】	今後の取組【Action】 ・研究実践の積み上げと各学校における効果の検証を行う必要がある。 ・学校現場との情報交換を密にし、年度当初の研修計画を把握するだけでなく、その進捗状況や必要な支援についても把握し、本事業の効果測定を行いたい。	指導方法の工夫改善と統合する。
継続		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】 次期学習指導要領の視点である児童生徒に身に付けさせる3つの資質・能力の実現を目指した研修計画を立案する。
統合		

事務事業名		学校図書館司書配置事業		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 25 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	豊かな心を育む教育の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	学校図書館司書を配置することにより、学校図書館の機能向上を図ることを目的とする。	前回評価	改善
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 学校図書館司書を活用し、子どもたちの読書への興味関心を増進させる。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・学校図書館のレイアウト、本の整理等を行い環境を整備する。 ・選書や授業関連本の準備を行い、図書の実用とその効果的な活用を図る。 ・児童の読書活動を推進するため、各校で独自の取組を実施する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校図書館法、学習指導要領	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 児童

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	80	71	104	104	86	109
	合計			80	71	104	104	86

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

- ・学校図書館司書を4名配置し、学校図書館の運営に参画することで、児童が利用しやすい学校図書館を実現するための環境整備を図るとともに、児童の読書活動を推進するため多様な支援活動を行った。
- ・平成29年度から長期休業中における学校図書室開放を本格実施。（平成27年度・平成28年度は試行実施）
- ・平成29年度の冬季休業における学校図書室開放の際に英語指導助手（ALT）を活用し、英語での読み聞かせ等を実施。
- ・全小学校に1校あたり週2～3日配置
- ・書籍の陳列方法や内容紹介の工夫
- ・季節や行事に適した図書室環境整備
- ・読書推進のためのイベントの企画及び実施
- ・長期休業中の図書室開放を実施
- ・学校図書館司書間や図書館担当者との連携会議による情報交換
- ・図書ボランティアと協働による図書室内の飾り付けや新着本の装備、読み聞かせ

指標の区分		指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	学校図書貸出冊数（小学校）	冊	28,375	36,344	42,104	42,474	43,000	
指標・実績②	学校図書貸出冊数（中学校）	冊	2,046	2,859	3,133	3,993	4,000	
指標・実績③	学校図書貸出人数（小学校）	人	16,099	21,673	24,733	28,398	30,000	
指標・実績④	学校図書貸出人数（中学校）	人	932	1,372	1,384	1,814	2,000	
指標・実績⑤	学校司書連絡会議開催回数	回		4	4	7	10	
指標・実績⑥	夏季休業中の図書室開放利用人数（小学校）	人		75	125	213	250	
指標・実績⑦	冬季休業中の図書室開放利用人数（小学校）	人		114	107	144	200	
指標・実績⑧	研修参加人数	人		2	3	4	1	
指標・実績⑨								
指標・実績⑩								
成果指標	配置校における図書館利用児童数	人	12,366	21,673	24,733	28,398	30,000	

**課題等の状況【Check】**

(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）

【1次評価】	継続	・小学校での司書配置の効果を中学校にも波及できるよう、平成28年度に学校司書と中学校担当で協議をしたが、各中学校の実態を熟知しなければ効果的な支援ができないことがわかり、平成29年度は中学校図書担当との連携会議は実施しなかった。 ・子どもが学校を卒業すると図書ボランティアをやめる方が多い。 ・両親共働きの家庭が多く、新規図書ボランティアを確保することが難しい。	行政評価会議及び総合
【2次評価】	継続	今後の取組【Action】	
【3次評価】	継続	・引き続き児童の読書活動を推進できるような環境づくりを行い、中学校でも読書への興味関心を維持できるようにする。	
		今後の方向性【Plan】	児童が図書への興味関心を維持できるよう継続する。

事務事業名	要保護・準要保護就学援助費（小学校）
-------	--------------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	昭和 62 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	豊かな心を育む教育の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	教育の機会均等の理念に基づき、義務教育を円滑に推進することを目的とする。	前回評価	継続
----	--------------------------------------	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 援助が必要であると認められた世帯に、就学に必要な経費の一部を援助する。							
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 5月、8月、12月の3回にわたり、学用品費や給食費等の就学に必要な経費の一部を援助する。4月に認定を行い、5月以降の援助の申請には、随時認定を行う。							
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 教育基本法（第4条）、学校教育法第19条、登別市就学援助事務処理運用基準	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 経済的支援が必要な児童の保護者					
P l a n D o 事業費 (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	要保護児童生徒援助費補助金	千円	95	72	73	73	55	64
	道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源		千円	31,940	31,468	32,103	36,554	33,661	36,887
	合計			32,035	31,540	32,176	36,627	33,716	36,951

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・低所得により援助が必要であると認められた児童の保護者に対し、就学に必要な学用品等の経費の一部を援助した。</li> <li>【補助内容】 給食費、学用品費、通学費、医療費、修学旅行費、校外活動費、PTA会費</li> <li>・平成29年度より援助の対象世帯を生活保護基準の1.2倍から1.3倍まで引き上げた。</li> <li>・保護者等より要望が多かった新入学準備金について、4月入学予定の早期支給希望者に対し、3月に前倒しして支給した。</li> </ul>	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	準要保護児童数	人	387	414	421	433	444
指標・実績②	要保護児童数	人	51	42	44	37	43
指標・実績③	支給対象費目数	費目	8	8	8	8	8
指標・実績④	支給対象児童のうち給食費支給対象児童数	人	387	414	421	433	444
指標・実績⑤	支給対象児童のうち学用品費支給対象児童数	人	387	414	421	433	444
指標・実績⑥	支給対象児童のうち医療費支給対象児童数	人	69	78	89	89	89
指標・実績⑦	支給対象児童のうち修学旅行費支給対象児童数	人	80	86	88	64	64
指標・実績⑧	市内児童数	人	2,402	2,395	2,239	2,186	2,166
指標・実績⑨	市内小学校数	校	8	8	8	8	8
指標・実績⑩							
成果指標	支給対象児童数	人	438	456	465	470	470

課題等の状況【Check】		
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	事業実施中に不断の事務改善に努めており、現在のところ特に課題となる状況はない。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	今後も、新入学準備金を早期に支給し、児童の保護者に対し継続して就学に必要な学用品等の経費の一部を援助していく。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
継続		児童の保護者への経済的支援として、就学に必要な学用品等経費の一部を援助する。



事務事業名	要保護・準要保護就学援助費（中学校）
-------	--------------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	昭和 62 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	豊かな心を育む教育の充実	大型事業推進プラン	非登録事業

目的	教育の機会均等の理念に基づき、義務教育を円滑に推進することを目的とする。	前回評価	継続
----	--------------------------------------	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 援助が必要であると認められた世帯に、就学に必要な経費の一部を援助する。							
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 5月、8月、12月の3回にわたり、学用品費や給食費等の就学に必要な経費の一部を援助する。4月に認定を行い、5月以降の援助の申請には、随時認定を行う。							
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 教育基本法（第4条）、学校教育法第19条、登別市就学援助事務処理運用基準	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 経済的支援の必要な生徒の保護者					
P l a n D o 事業費 (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	要保護児童生徒援助費補助金	千円	143	157	429	429	277	201
	道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源		千円	29,704	28,518	29,742	33,564	33,176	32,910
	合計			29,847	28,675	30,171	33,993	33,453	33,111

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・低所得により援助が必要と認められた生徒の保護者に対し、就学に必要な学用品等の経費の一部を援助した。</li> <li>【補助内容】 給食費、学用品費、通学費、医療費、修学旅行費、校外活動費、PTA会費</li> <li>・平成29年度より援助の対象世帯を生活保護基準の1.2倍から1.3倍まで引き上げた。</li> <li>・保護者等より要望が多かった新入学準備金について、4月入学予定の早期支給希望者に対し、3月に前倒しして支給した。</li> </ul>	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	準要保護生徒数	人	252	246	233	257	241
指標・実績②	要保護生徒数	人	25	32	33	27	31
指標・実績③	支給対象費目数	費目	8	8	8	8	10
指標・実績④	支給対象生徒のうち給食費支給対象生徒数	人	252	246	233	257	241
指標・実績⑤	支給対象生徒のうち学用品費支給対象生徒数	人	252	246	233	257	241
指標・実績⑥	支給対象生徒のうち通学費支給対象生徒数	人	4	5	4	3	3
指標・実績⑦	支給対象生徒のうち医療費支給対象生徒数	人	25	17	27	18	18
指標・実績⑧	支給対象生徒のうち修学旅行費支給対象生徒数	人	81	94	92	64	64
指標・実績⑨	生徒数	人	1,145	1,139	1,185	1,128	1,119
指標・実績⑩	市内中学校数	校	5	5	5	5	5
成果指標	支給対象生徒数	人	277	278	266	284	284

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	文部科学省等より生徒会費やクラブ活動費の支給を要請されている。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、新入学準備金を早期に支給し、生徒の保護者に対し継続して就学に必要な学用品等の経費の一部を援助していく。</li> <li>・文部科学省等より要請されていた生徒会費やクラブ活動費を平成30年度より支給することとした。</li> </ul>		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		生徒の保護者への経済的支援として、就学に必要な学用品費等経費の一部を援助する。	

事務事業名	体験活動等特色ある教育活動の充実
-------	------------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 ー 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	豊かな心を育む教育の充実	大型事業推進プラン	

目的	子どもたちに生きる力を育むため、豊かな人間性の育成に資することを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 特色ある教育活動の展開により児童生徒の資質・能力を育成し、併せて学校教育の質的改善を図る。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 各学校の教育課程に位置付けた体験的活動の意図的・計画的な実施	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法、学習指導要領	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 児童生徒

Plan D 事業費 (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
	道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源		千円	0	0	0			
合計				0	0	0	0	0	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
学校教育全体を通して体験活動等を積極的に取り入れ、心の教育の充実に努めた。	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	宿泊学習参加人数	人	453	433	365	411	396
指標・実績②	学校別宿泊学習参加人数（登別小学校）	人	32	30	18	38	38
指標・実績③	学校別宿泊学習参加人数（幌別小学校）	人	63	59	60	237	37
指標・実績④	学校別宿泊学習参加人数（幌別東小学校）	人	15	12	15	16	16
指標・実績⑤	学校別宿泊学習参加人数（青葉小学校）	人	65	58	52	66	66
指標・実績⑥	学校別宿泊学習参加人数（富岸小学校）	人	111	71	70	90	90
指標・実績⑦	学校別宿泊学習参加人数（若草小学校）	人	58	65	56	58	58
指標・実績⑧	学校別宿泊学習参加人数（富岸小学校）	人	56	50	49	51	51
指標・実績⑨	学校別宿泊学習参加人数（若草小学校）	人	53	46	45	55	55
指標・実績⑩	炊事遠足参加人数	人	191	200	215	171	158
指標・実績⑪	体験学習実施回数（日帰り）	回	2	2	2	2	2
指標・実績⑫	体験学習実施回数（宿泊）	回	8	8	8	8	8
成果指標	体験学習実施回数（合計）	回	10	10	10	10	10

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	活動による教育的効果の検証（毎年実施の取組でも、評価改善サイクルを機能させ、次年度改善へつなげること）
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】 行政評価会議及び総合
継続	特色ある教育活動がもたらす効果の検証とカリキュラムの質的改善を進める。
【3次評価】	今後の方向性【Plan】
継続	社会に開かれた教育課程の実現に向け、従前の地域との連携・協働を推進し、自然等の教育環境や教育資源の整備に努める。

事務事業名	道徳授業の改善		
-------	---------	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 ー 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	豊かな心を育む教育の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	子どもたちによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目的とする。	前回評価	継続
----	--------------------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 各学校の道徳教育全体計画を基にした年間指導計画に基づく授業を確実に行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・日々の授業づくりや授業実践等授業研究の推進、積み上げ ・教科化に伴う評価の在り方の検討	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法施行規則、学習指導要領	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 教員

P l a n n o (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
	道支支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源		千円	0	0	0	0	0	0
合 計				0	0	0	0	0	0

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**  
 道徳の時間の全体計画、指導計画及び別業を作成し、校内研修における学習指導案の検討や授業公開等、各学校の実践研究推進が図られた。

指標の状況【Check】								
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標	
指標・実績①	年間配当時数通り授業を実施した学校数	校	13	13	13	13	13	
指標・実績②	年間指導計画の評価・改善を行った学校数	校	13	13	13	13	13	
指標・実績③								
指標・実績④								
指標・実績⑤								
指標・実績⑥								
指標・実績⑦								
指標・実績⑧								
指標・実績⑨								
指標・実績⑩								
成果指標	道徳の時間全体計画の策定学校数	校	13	13	13	13	13	

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	継続 ・「考え、議論する道徳」の実現に向けた内容理解と授業実践によるさらなる研究。 ・各学校の道徳教育推進教師の校内での位置付けと主体的動き。 ・評価に係る研究。
【2次評価】	継続 今後の取組【Action】 校長のリーダーシップのもと、道徳教育推進教師が中心となり、校内の道徳の授業づくりを牽引し、組織的な活性化を図る。
【3次評価】	継続 今後の方向性【Plan】 教科化に伴う授業づくり及び評価に関わる実践的な研修を継続する。

事務事業名	読書活動の推進	
-------	---------	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 一 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	豊かな心を育む教育の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	子どもたちの生きる力を育むための豊かな人間性の育成を目的とする。	前回評価	継続
----	----------------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 子どもの読書習慣の確立や生活の中に読書が位置付くような手立てを立案し、推進する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・従来の朝読書等の取組の質的充実 ・司書教諭と学校司書との連携 ・市立図書館児童担当との連携	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 子どもの読書活動の推進に関する法律	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 児童生徒

P l a n n o (事業費 財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	0	0	0	0	0	0
	合計		0	0	0	0	0	0

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

- 各学校の朝読書等の読書活動推進計画や学校図書館運営計画に基づき、読書活動の充実に努めた。
- 小学校では司書教諭と学校司書が連携し、購入図書の選定や授業に必要な図書の準備を行った。
- 市立図書館児童担当と連携し、おすすめ本の紹介や市立図書館の団体貸出しを利用した。

指標の状況【Check】		指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	朝読書実施校（小学校）	校			8	8	8	8
指標・実績②	朝読書実施校（中学校）	校			5	5	5	5
指標・実績③	学校図書貸出冊数（小学校）	冊	28,375	36,344	42,104	42,474	43,000	
指標・実績④	学校図書貸出冊数（中学校）	冊	2,046	2,859	3,133	3,993	4,000	
指標・実績⑤	学校図書貸出人数（小学校）	人	16,099	21,673	24,733	28,398	30,000	
指標・実績⑥	学校図書貸出人数（中学校）	人	932	1,372	1,384	1,814	2,000	
指標・実績⑦	学校司書を配置している学校数（小学校）	校	4	8	8	8	8	
指標・実績⑧	学校司書を配置している学校数（中学校）	校	0	0	0	0	0	
指標・実績⑨								
指標・実績⑩								
成果指標	学校図書館貸出冊数（小中学校合計）	冊	30,421	39,203	45,237	46,467	47,000	

**課題等の状況【Check】**

(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）

【1次評価】	・各校の取組の整理と内容向上に向けた具体的手立ての立案 ・市立図書館と学校司書間での更なる情報交換等	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】 学校図書館が有する教育センター的役割等の充実に図る。	行政評価会議及び総合
継続		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】 子どもの生活における豊かな読書環境づくりをさらに進める。
継続		

事務事業名		不登校・いじめ対策経費		
区分	No.	名称		部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち		教育委員会学校教育G
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む		一般会計
施策	1	子どもたちの生きる力を育む		開始年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成		平成 7 年度
主要な施策	2	生徒指導、不登校・いじめ対策の充実		終了年度
				平成 - 年度
				事業区分
				ソフト事業
				大型事業推進プラン
				非登載事業

目的	不登校やいじめ等を未然に防止するとともに、それらの問題に早期かつ適切に対応することを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 教育相談や各種啓発により不登校やいじめ等を未然防止・早期発見し、研修等により不登校やいじめに関する教職員のスキルを向上させる。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・教育指導専門員を配置し、教育相談及びいじめ相談電話を随時受け付ける ・「不登校・いじめ対策会議」、「ふれあいサポート懇談会」の開催、教職員を対象とした研修会を実施する ・小中学校にいじめ学習資料等を配布する ・不登校の児童生徒を対象に自然体験を実施する	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法 いじめ防止対策推進法	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 児童生徒とその保護者、教職員

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	228	151	218	218	171	199
	合計			228	151	218	218	171

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
教育指導専門員による教育相談や教職員研修会の開催、学習資料・広報紙による啓発等を実施した。	
【事業内容（事業実績）】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育指導専門員2名配置（月～金・9時～17時）</li> <li>・教育相談及びいじめ相談電話（5件）随時受付</li> <li>・校長会・教頭会の代表、各小中学校教諭等と構成する「不登校・いじめ対策会議」開催（2回）</li> <li>・教職員を対象とした研修会（2回）</li> <li>・「いじめ学習資料」等の配布（各小中学校に1回配布）</li> <li>・広報紙「手をつなぐ親と子」（1回発行）教育広報に登載</li> <li>・ふれあいサポート懇談会（2回）</li> <li>・自然体験（鷲別岳登山）（1回）</li> <li>・不登校等支援関係者情報交流懇談会（1回）</li> </ul>	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	教育相談来室者数	人	5	11	5	1	5
指標・実績②	教育相談来室者のうち、不登校に関する相談件数	件	3	11	5	0	1
指標・実績③	いじめ相談電話件数	件	6	9	2	4	3
指標・実績④	いじめ相談電話のうち、いじめ・嫌がらせに関する相談件数	件	2	4	0	1	1
指標・実績⑤	不登校児童出現件数	件	5	4	1	2	1
指標・実績⑥	不登校児童出現率	%	0.21	0.17	0.04	0.09	0.03
指標・実績⑦	不登校生徒出現件数	件	23	22	18	19	15
指標・実績⑧	不登校生徒出現率	%	2.01	1.93	1.52	1.86	1.50
指標・実績⑨	いじめ認知件数（児童）	件	3	11	5	0	0
指標・実績⑩	いじめ認知件数（生徒）	件	2	4	0	1	0
成果指標	不登校・いじめ対策会議：年2回、ふれあいサポート懇談会：年2回、教職員研修会：年2回	回	6	6	6	6	5

課題等の状況【Check】		
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	いじめや不登校の背景には家庭、学校、地域社会のそれぞれの要因が複雑に絡み合っており、対処にあたっては対応するスキルや各機関の連携が必要である。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	教職員向けの研修と併せて、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、心の教室相談員の連携を深め、適応指導教室、体験教室による指導を中心に取り組んでいく。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
継続		不登校やいじめ問題の解決には、児童生徒、保護者、学校、関係機関等との相互連携が不可欠であることから、教職員のスキル向上のための継続的な研修等を実施する。

事務事業名	いじめ調査委員会経費			
-------	------------	--	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	総務部総務G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 29 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	生徒指導、不登校・いじめ対策の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	いじめ防止対策推進法の規定に基づき、いじめによる重大事態に係る調査内容について調査審議を行うことにより、当該調査の公平性、中立性及び透明性を確保することを目的とする。	前回評価
----	---	------

P l a n 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 登別市いじめ調査委員会を設置するとともに、同委員会に諮問することにより、いじめによる重大事態の調査結果の公平性、中立性及び透明性を確保する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 市立の小・中学校において、万が一いじめに係る重大事態が発生した際に、いじめ防止対策推進法の規定により、重大事態への対処、再発防止等に必要な取組について再調査を行う。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) いじめ防止対策推進法、登別市重大事案対策委員会及び登別市いじめ調査委員会条例	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 小・中学生とその保護者、教職員

P l a n D o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円			99	99	24	99
	合計			0	0	99	99	24

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
登別市いじめ調査委員会を設置するとともに、委員長及び副委員長を選任するため、委員会を開催した。	
【事業実績】	
・会議開催数：1回	
・出席委員数：5人	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	委員数	人				5	5
指標・実績②	委嘱状交付式開催回数	回				1	
指標・実績③	委嘱状交付式出席者数（累計）	人				10	
指標・実績④	委嘱状交付式資料作成枚数（累計）	枚				10	
指標・実績⑤	委員会開催回数	回				1	
指標・実績⑥	委員会出席者数（累計）	人				8	
指標・実績⑦	委員会資料作成枚数（累計）	枚				10	
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	再調査案件数	件				0	0

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
【1次評価】 事業実施にあたり、適宜事務改善を検討しておりますが、事業内容に大きな変更はありません。	
継続	経費は、委員報酬と費用弁償であり、補助金・交付金の活用は見込めない。
	【2次評価】 今後の取組【Action】
	行政評価会議及び総合
【3次評価】	市立の小中学校において、いじめに係る重大事態が発生した際に、いじめ防止対策推進法の規定により、重大事態への対処、再発防止等に必要な取組について再調査を行う。
継続	今後の方向性【Plan】
	いじめに係る重大事態が発生した際には、委員会を開催し、いじめによる重大事態に係る調査について調査審議を行う。

事務事業名	いじめ重大事案対策委員会経費
-------	----------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 29 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	生徒指導、不登校・いじめ対策の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	いじめによる重大事案発生時における調査等を行う組織を設置することで、重大事案の対処および再発防止を図ることを目的とする。	前回評価	
----	--	------	--

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) いじめによる重大事案への対処や再発防止等について調査審議する	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・専門的知識及び経験を有する方などから登別市重大事案対策委員会委員を選任し委嘱する ・重大事案発生時において、速やかに委員会を招集し事実関係や再発防止に向けて調査審議を行う	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法 いじめ防止対策推進法 登別市重大事案対策委員会及び登別市いじめ調査委員会条例	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 登別市重大事案対策委員会委員

P l a n n o (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
道支出金		千円							
地方債		千円							
その他		千円							
一般財源		千円				91	91	0	96
合 計				0	0	91	91	0	96

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
教育、心理、人権擁護等の専門的知識及び経験を有する方などから4人を選任し、登別市重大事案対策委員会委員を委嘱した。なお、5人については、委員会招集時に登別市PTA連合会より選任することとしている。	
【事業実績】	
・委嘱期間：平成29年6月1日～平成31年5月31日（1人） 平成29年6月1日～平成32年5月31日（3人）	
・重大事案発生件数：0件	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	不登校児童出現件数	件	5	4	1	2	1
指標・実績②	不登校児童出現率	%	0.21	0.17	0.04	0.09	0.03
指標・実績③	不登校生徒出現件数	件	23	22	18	19	15
指標・実績④	不登校生徒出現率	%	2.01	1.93	1.52	1.86	1.50
指標・実績⑤	いじめ認知件数（児童）	件	3	11	5	0	0
指標・実績⑥	いじめ認知件数（生徒）	件	2	4	0	1	0
指標・実績⑦	重大事案対策委員会招集回数	回				0	0
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	不登校児童生徒の割合（平成37年度目標：0.5%）	%		0.7	0.6	0.6	0.5

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・対策委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができないため、確実に招集する必要がある。 ・スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、心の教室相談員と連携し、いじめによる重大事案の未然防止を図る必要がある。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	万が一の委員会の招集に備え、年1回程度、委員に対し当市のいじめ・不登校に関する状況について情報提供する。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		万が一の重大事案の発生時には、速やかに委員会を招集し調査審議を行う。	

事務事業名 **スクールカウンセラー活動経費**

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 8 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	教育相談の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	不登校やいじめ等を未然に防止するとともに、それらの問題に早期かつ適切に対応することを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 不登校傾向など集団に対する不適応を示す児童生徒及び保護者に対し、個別のカウンセリングや改善に向けたアドバイスを行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・学級担任や生徒指導担当教諭・養護教諭から、発達障害や集団への不適応傾向がある児童生徒の情報を収集・整理し、必要に応じて個別の面談を行う。 ・希望する保護者に対し個別のカウンセリングを実施し、家庭における子どもとの関わり方や生活習慣の改善等について助言をする。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法、スクールカウンセラー活用事業実施要項	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 児童生徒、保護者

P l a n n o	事業費 (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
		国庫支出金	千円						
道支支出金	千円								
地方債	千円								
その他	千円								
一般財源	千円			78	49	50	50	44	50
合 計				78	49	50	50	44	50

事務事業の成果・改善の状況【Do】

臨床心理士の資格を持つスクールカウンセラー3人を学校に配置し、児童生徒等の相談に対応しカウンセリング体制の充実を図った。

【事業実績】

- ・幌別中学校、緑陽中学校、鷲別中学校の3校を拠点校とし、必要に応じ市内各小中学校のカウンセリングに対応した。
- ・1校あたり年28日、週当たりの勤務時間は4時間程度。
- ・学級担任や生徒指導担当教諭と連携し、不登校傾向の児童生徒や保護者に対してカウンセリングを実施した。
- ・集団に対する不適応傾向や発達に課題のある児童生徒に対して個別のカウンセリングを実施した。
- ・学級担任や生徒指導担当教諭・養護教諭と情報の共有化を図ったことで、特に不登校傾向の児童生徒に対して、組織的な対応を推進することができた。

指標の状況【Check】

指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	不登校にかかる相談件数	件	316	280	198	185	190
指標・実績②	不登校小学校児童出現件数	件	5	4	1	2	1
指標・実績③	不登校小学校児童出現率	%	0.21	0.17	0.04	0.09	0.03
指標・実績④	不登校中学校生徒出現件数	件	23	22	18	19	15
指標・実績⑤	不登校中学校生徒出現率	%	2.01	1.93	1.52	1.86	1.50
指標・実績⑥	児童生徒の面談件数	件	76	103	80	78	80
指標・実績⑦	保護者の面談件数	件	124	73	55	36	50
指標・実績⑧	教職員の面談件数	件	106	104	63	71	60
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	不登校児童生徒の割合（平成37年度目標：0.5%）	%		0.7	0.6	0.6	0.5

課題等の状況【Check】

（事務事業の実施における課題点等）		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	・スクールカウンセラーの勤務時間に制約があるため、迅速な対応ができず、日程調整が難しい状況がある。また、カウンセリングを希望する児童生徒・保護者の数に対して勤務時間に制約があることから、一人ひとりのカウンセリング希望に十分な時間を割くことができない。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	スクールカウンセラーの勤務については、1校あたり年間28日112時間以内と制約があることから、学級担任や生徒指導担当教諭等と連携を図り、緊急性や優先度を勘案しながら、対応をする。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
継続		児童生徒の抱える問題が多様化し、相談内容も複雑化していることから、引き続き専門家によるカウンセリング機能の充実を図る。



事務事業名		心の教室相談員活動経費				
区分	No.	名称			部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち			会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む			開始年度	平成10年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む			終了年度	平成—年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成			事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	教育相談の充実			大型事業推進プラン	非登載事業

目的	不登校やいじめ等を未然に防止するため、生徒が心にゆとりを持ち、ストレスをためることのない環境をつくることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 生徒が悩み等を気軽に話すことができる環境を整える。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・生徒の心の悩みや人間関係の不安、学校生活上の悩みなどのストレスを和らげるための相談を受けたり、第三者として話し相手になる。 ・生徒、教職員及び保護者が、地域との連携を持つためのパイプ役としての役割を担う。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 生徒

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	178	147	178	178	139	178
合計			178	147	178	178	139	178

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
生徒の悩み相談等に応じる心の教室相談員を各中学校に配置した。	
【事業実績】	
・配置人数：各校1人	
・配置日数：幌別中学校（83日）、西陵中学校（80日）、鷲別中学校（88日）、緑陽中学校（101日）、登別中学校（選考中）	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	相談件数※相談を受けた件数のみ計上	件	24	69	89	34	50
指標・実績②	相談室延べ来室者数	人	1,296	845	732	1,073	1,000
指標・実績③	相談件数	件	24	69	89	34	50
指標・実績④	不登校児童出現件数	件	5	4	1	2	1
指標・実績⑤	不登校児童出現率	%	0.21	0.17	0.04	0.09	0.03
指標・実績⑥	不登校生徒出現件数	件	23	22	18	19	15
指標・実績⑦	不登校生徒出現率	%	2.01	1.93	1.52	1.86	1.50
指標・実績⑧	いじめ認知件数（児童）	件	3	11	5	0	0
指標・実績⑨	いじめ認知件数（生徒）	件	2	4	0	1	0
指標・実績⑩							
成果指標	不登校児童生徒の割合（平成37年度目標：0.5%）	%		0.7	0.6	0.6	0.5

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
【1次評価】	
継続	・生徒が抱える問題が多様化、複雑化している。 ・登別中学校が選考中であり、相談員を配置できていない。
	【2次評価】
	【3次評価】
今後の取組【Action】	
継続	・今後も気軽に相談できる環境を整え不登校やいじめ等を未然に防止し、必要に応じスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を図る。 ・平成30年度より登別中学校にも相談員が配置となった。
今後の方向性【Plan】	
継続	学校生活上の悩みや人間関係の不安等によるストレスを和らげるため、生徒が気軽に相談できるよう、引き続き地域の人材を活用した相談体制の充実を図る。

事務事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業		
-------	-------------------	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 23 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	豊かな人間性の育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	教育相談の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	不登校やいじめ等を未然に防止するとともに、それらの問題に早期かつ適切に対応することを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

P l a n 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 不登校やいじめなどの早期対応、早期解決のために積極的な支援を展開する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・生徒指導にあたっては教員との懇談に重点を置き、学校訪問を充実させる。 ・スクールソーシャルワーカーが参画した連携体制を充実させる。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法、スクールソーシャルワーカー活用事業委託要項	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 児童生徒、教職員等

P l a n D o (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	教育総務費委託金	スクールソーシャルワーカー活用事業委託金	千円					
道支支出金			千円	25	6	25	25	17	25
地方債			千円						
その他			千円						
一般財源			千円						
合 計				25	6	25	25	17	25

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
教育委員会にスクールソーシャルワーカーを2人配置し、不登校やいじめの解決に向け各小中学校へ派遣し支援を行った。 <b>【事業実績】</b> ・学校、家庭、関係機関訪問 ・児童生徒と面談 ・保護者と懇談 ・関係機関実施のケース会議の参加 ・道主催の研修会への参加	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	不登校児童出現件数	件	5	4	1	2	1
指標・実績②	不登校児童出現率	%	0.21	0.17	0.04	0.09	0.03
指標・実績③	不登校生徒出現件数	件	23	22	18	19	15
指標・実績④	不登校生徒出現率	%	2.01	1.93	1.52	1.86	1.50
指標・実績⑤	いじめ認知件数（児童）	件	3	11	5	0	0
指標・実績⑥	いじめ認知件数（生徒）	件	2	4	0	1	0
指標・実績⑦	スクールソーシャルワーカー連絡協議会出席回数	回	2	1	1	2	2
指標・実績⑧	スクールソーシャルワーカー活用事業地域別研修会参加回数	回	1	1	1	1	1
指標・実績⑨	ケース会議参加回数	回	15	26	13	3	10
指標・実績⑩	相談支援対象児童生徒数	人	32	50	29	10	10
成果指標	学校訪問実施校	校	13	13	13	13	13

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	スクールソーシャルワーカーの業務内容が教職員等にも広く認知され、積極的な活動へつながるように、学校に対する普及啓発に努める必要がある。	本事業実施に係る人件費1,461千円のうち897千円は道費、564千円は市費負担。	
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	教員や保護者との懇談に加え、スクールカウンセラーや心の教室相談員との連携についても密にし、支援体制の普及や定着化を図ることで、不登校の児童生徒や家庭環境への効率的な働きかけが行われるよう取り組む。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		生徒指導にあたっては教職員との懇談やケース会議への積極的な参加に重点を置き、家庭と学校間の連携を図る。	

事務事業名	児童生徒健康診断等経費
-------	-------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 ー 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	3	たくましく生きるための健康や体力づくり	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	健康や体力づくりの推進	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	児童生徒の健康保持及び増進を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 児童生徒の健康状態を把握するとともに環境衛生調査の結果を踏まえて環境改善に努める。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・市内小中学校の児童生徒並びに新入学児童の健康診断等を実施する。 （結核検診、尿検査、内科検診、歯科検診、心臓検診、眼科検診、耳鼻科検診） ・市内全小中学校にて、フッ化物洗口を実施する。 ・市内中学生2年生を対象とするピロリ菌検査について、所管である健康推進グループと連携する。 ・環境衛生調査の結果をもとに、施設担当と連携して改善項目について今後の対応を検討する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校保健安全法	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 児童生徒

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	18,617	17,878	18,071	17,831	17,411	17,787
	合計		18,617	17,878	18,071	17,831	17,411	17,787

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
・市内小中学校の児童生徒並びに新入学児童の健康診断等を実施した。 ○全員実施：結核検診、尿検査、内科検診、歯科検診 ○小1・中1：心臓検診、眼科検診、耳鼻科検診 ○新入学児童健康診断受診者：309人 ・市内全小中学校にて、フッ化物洗口を実施した。 ・中学2年生を対象に、ピロリ菌検査を実施した。 【対象者】420名 【同意率】99.8% 【受診率】96.7% (平成28年度は中学1・2年生、平成29年度より中学2年生のみ対象) ・学校薬剤師を調査員とする環境衛生調査（水質、空気、照明等）を実施した。 【実施回数】各校7回 【学校薬剤師委嘱人数】11名	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	新入学児童健康診断受診者数	人	388	334	333	309	344
指標・実績②	フッ化物洗口実施率（小学校）	%	94.8	94.4	93.9	95.0	96.0
指標・実績③	フッ化物洗口実施率（中学校）	%	79.7	85.3	91.3	89.5	90.0
指標・実績④	ピロリ菌検査受診率	%			93.8	96.7	96.0
指標・実績⑤	環境衛生調査実施回数（1校あたり）	回		7	7	7	7
指標・実績⑥	学校医委嘱人数	人	16	16	15	15	15
指標・実績⑦	学校歯科医委嘱人数	人	22	22	22	22	22
指標・実績⑧	学校薬剤師委嘱人数	人	10	10	10	11	11
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	児童生徒の人数	人	3,547	3,534	3,424	3,314	3,229

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・学校への尿検査の結果報告に時間を要した。 ・尿検査において、予備回収日を設定してほしいとの要望があった。 ・複数校が一括で実施する耳鼻咽喉科検診において、学校及び教育委員会の役割分担を詳細に決める必要がある。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】		行政評価会議及び総合
継続	・尿検査の結果送付について、検診実施日を確認し、経由する関係機関と随時連絡を取る。 ・平成30年度より、尿検査の予備回収日を設定した。 ・耳鼻咽喉科検診の実施前に、各学校の養護教諭に当日の動きや要望などを確認する。		
【3次評価】			今後の方向性【Plan】
継続			引き続き、法定健診項目を確実に実施する。また、フッ化物洗口の実施により、児童生徒のう歯の予防に努める。

事務事業名	学校医等表彰経費
-------	----------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	昭和 56 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	3	たくましく生きるための健康や体力づくり	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	健康や体力づくりの推進	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	長年にわたり本市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師として、児童生徒の健康の保持増進と保健教育の振興に貢献した者に対し、その功績を称えることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 被表彰者の選考及び表彰を適切に行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・委任年度一覧等で対象者を確認する。 ・4月に健千窯へ記念品の作成依頼をする。 ・12月開催の定例教育委員会での議決後、表彰状等の準備を行い、年度内に表彰する。	
	根拠	登別市立学校学校医等表彰規程	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 学校医、学校歯科医、学校薬剤師

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	103	102	36	36	30	13
	合 計		103	102	36	36	30	13

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
児童生徒の健康の保持増進と保健教育の振興に貢献した学校医、学校歯科医及び学校薬剤師に対し、その功績を称え表彰した。 【表彰区分】10年以上、20年以上、30年以上 【表彰実績】 ・10年表彰対象者 0人 ・20年表彰対象者 2人 ・30年表彰対象者 0人	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	被表彰者（10年）	人	3	2	0	0	1
指標・実績②	被表彰者（20年）	人	1	0	1	2	0
指標・実績③	被表彰者（30年）	人	2	0	3	0	0
指標・実績④							
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	表彰者数	人	6	2	4	5	1

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	継続
【2次評価】	継続
【3次評価】	継続

・被表彰者が決定してから、表彰状及び記念品の贈呈までに時間を要してしまったため、迅速に対応する必要がある。  
・引き続き、適切な被表彰者の選考及び決定を行う。

今後の取組【Action】  
・被表彰者が決定次第、表彰状及び記念品の贈呈に係る予定調整を迅速に行う。  
・次年度に向け、委任年度一覧の内容更新や修正を年度内のうちに適切に行う。

今後の方向性【Plan】  
登別市立学校学校医等表彰規程に基づき、適切に表彰を行う。

事務事業名	中学校体育連盟助成金
-------	------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	昭和 57 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	3	たくましく生きるための健康や体力づくり	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	健康や体力づくりの推進	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	スポーツを通して生徒の心身の健康を増進するとともに、学校間の親睦と交流を深めることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市内中学校の体育活動振興のために必要な経費の一部を助成する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・登別市中学校体育連盟からの助成金の交付申請に基づき、事業計画等を確認し、助成金を交付する。 ・事業終了後、事業報告及び収支決算書を審査し、標記事業の適正執行について確認する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別市中学校体育連盟

P l a n n o	事業費 (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
		国庫支出金	千円						
道支支出金	千円								
地方債	千円								
その他	千円								
一般財源	千円		1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	
合計				1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
中学校の体育活動振興のために活動する中学校体育連盟に対し、その活動に必要な経費の一部を助成した。 【連盟の活動実績】 ・体育大会の開催（春季、秋季） ・理事会及び専門委員会の開催（計2回） ・胆振西部及び胆振二地区中体連大会への参加等	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	体育大会の開催回数	回	2	2	2	2	2
指標・実績②	理事会及び専門委員会の開催回数	回	2	2	2	2	2
指標・実績③	クラブ活動数（各校累計）	種類	41	39	42	37	35
指標・実績④	生徒数	人	1,145	1,139	1,185	1,128	1,119
指標・実績⑤	部活動部員数	人	878	852	927	915	860
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	部活動加入生徒の割合（平成37年度目標：80.0%）	%	75.6	74.8	78.2	81.1	76.9

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
【1次評価】	事業実施中に不断の事務改善に努めており、現在のところ特に課題となる状況はない。
【2次評価】	今後の取組【Action】
【3次評価】	今後の方向性【Plan】

継続

継続

継続

行政評価会議及び総合

中学校体育連盟が主催する体育大会等は、生徒の部活動等における目標となるものであり、体育振興、健康増進、生徒間交流などに果たす役割は大きいと見られ、引き続き、活動を支援する。

事務事業名	子ども健康・体力改善事業		
-------	--------------	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 26 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	3	たくましく生きるための健康や体力づくり	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	健康や体力づくりの推進	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	市内小学校にスポーツ指導員を派遣し、運動指導や教員の補助等を行うことにより、子どもたちの健康増進と運動能力の向上を図ることを目的とする。	前回評価	改善
----	--	------	----

P l a n 概 要	目 標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 子どもたちの健康増進と運動能力の向上を図るため、全小学校へスポーツ指導員を派遣する。		
	計 画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・特定非営利活動法人おにスポへスポーツ指導員の派遣を委託する。 ・毎年行われる全国体力運動能力調査の結果を踏まえ、指導の内容等を検討するとともに、運動が苦手な子どもたちも楽しく運動できるような全校共通の取組を進める。		
	根 拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	対 象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 市内小学生

P l a n D o (財源内訳) 事業費	名 称	単 位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	5,938	5,938	5,525	5,525	5,506	3,738
	合 計		5,938	5,938	5,525	5,525	5,506	3,738

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
特定非営利活動法人おにスポへの委託により、全小学校の体育授業等にスポーツ指導員を派遣し、教員と連携した運動指導や教員の補助等を実施した。	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単 位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	全国体力運動能力調査数値(小学校5年女子 20mシャトルランのT得点)	点		48.6	47.9	50.8	51.0
指標・実績②	全国体力運動能力調査数値(小学校5年男子 20mシャトルランのT得点)	点		50	49	51	51
指標・実績③	全国体力運動能力調査数値(小学校5年女子 反復横とびのT得点)	点		50	50	52	52
指標・実績④	全国体力運動能力調査数値(小学校5年男子 反復横とびのT得点)	点		53	50	52	52
指標・実績⑤	全国体力運動能力調査数値(小学校5年女子 体力合計点のT得点)	点		49	51	51	51
指標・実績⑥	全国体力運動能力調査数値(小学校5年男子 体力合計点のT得点)	点		50	51	51	51
指標・実績⑦	全国体力運動能力調査数値(小学校5年女子 運動が好き・やや好きの割合)	%		90.5	94.7	90.6	90.6
指標・実績⑧	全国体力運動能力調査数値(小学校5年男子 運動が好き・やや好きの割合)	%		95	93	95	95
指標・実績⑨	1校あたりの年間派遣時間	時間		440	454	423	279
指標・実績⑩	委託先団体のスポーツ指導員人数	人		4	4	4	3
成果指標	指導員派遣時間数(8校累計)	時間		3,529	3,638	3,392	2,232

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
継続	【1次評価】	・学校行事や学校閉鎖等により学校や学級間でスポーツ指導員の派遣時間に差が生じた。 ・学校内での課題の共有がスポーツ指導員と教育委員会の間でできていないところがあった。	
	【2次評価】	今後の取組【Action】	
改善	【3次評価】	行政評価会議及び総合	
	【1次評価】	・学校の体育授業への派遣のほか、子どもや保護者等の地域の方々が参加できる運動教室を放課後に開催する。 ・子どもたちが運動を好きになり、市民が自主的、積極的に参画する地域のスポーツ環境を整えるために、新たな事業を検討する。	
改善	【2次評価】	平成32年度からは、子どもの体力改善、健康づくりに資する新たな事業を検討してください。	
	【3次評価】	今後の方向性【Plan】 学校への運動指導派遣だけでなく、地域の方々も参加できる運動教室等を展開し、地域のスポーツ環境を整える取組を行う。	

事務事業名		学校給食センター改修工事		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会給食センター
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	学校給食事業特別会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 21 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む	終了年度	平成 30 年度
基本的な方向	3	たくましく生きるための健康や体力づくり	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	食育の推進	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	老朽化した施設・設備の補修を計画的に行い、施設及び設備の延命措置を図ることにより安全・安心で衛生的な給食の提供を行うことを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 安全安心な学校給食を提供するため、年次的に施設の改修や調理機器等を更新し衛生管理等の徹底を図る。						
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 学校給食施設内の耐用年数を経過した機器類や劣化の著しい箇所を補修修繕することにより、施設の機能を維持し安全安心な給食を安定的に提供する。						
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校給食法、学校給食衛生管理基準、食品衛生法、労働安全衛生法、ボイラー及び圧力容器安全規則	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 学校給食センター				
P l a n D o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	4,050	4,050	0			0
	合計			4,050	4,050	0	0	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
平成29年度事業実施なし	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	市内小学生児童数	人	2,433	2,419	2,317	2,227	2,166
指標・実績②	市内中学生生徒数	人	1,222	1,192	1,246	1,180	1,119
指標・実績③	市内保育所園児数	人	270	262	262	252	236
指標・実績④	給食センター職員数（正職員）	人	3	3	3	3	3
指標・実績⑤	給食センター職員数（臨時・嘱託）	人	28	28	28	28	28
指標・実績⑥	年間給食提供日数	回	207	207	207	206	206
指標・実績⑦	学校給食センター稼働率（実際の稼働日数÷給食提供計画日数）	%	111.8	111.8	111.8	111.3	111.3
指標・実績⑧	1食あたりの給食費（小学生）	円	270	270	270	270	270
指標・実績⑨	1食あたりの給食費（中学生）	円	322	322	322	322	322
指標・実績⑩	施設及び設備の修繕件数（事業者発注分）	件	0	0	23	26	30
成果指標	給食提供数	食	814,446	810,170	784,078	762,112	

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
【1次評価】	平成21年度の食器洗浄機更新以降、新たな設備の更新については全て先送りとなっており、耐用年数を大幅に超えた設備もあることから早急に対応しなければならない。また、施設については、平成24年度に地下タンクの地上化及び天蓋改修を実施を行ったが、新たに更新が必要な状況になっている。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	行政評価会議及び総合
【3次評価】	今後の方向性【Plan】
継続	新施設の基本構想に併せ、現施設の整備計画を策定する。

事務事業名		栄養士・栄養教諭との連携				
区分	No.	名称			部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち			会計種別	
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む			開始年度	平成 ー 年度
施策	1	子どもたちの生きる力を育む			終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	3	たくましく生きるための健康や体力づくり			事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	食育の推進			大型事業推進プラン	非登載事業

目的	子どもたちに望ましい食習慣を形成し、生涯にわたる健康の保持増進や体力づくりに資することを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 子どもの食習慣の形成・充実、食に関する知識・技能・実践力の向上を図る。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・栄養教諭による給食時の指導 ・日常の給食担当を中心とした食育指導の充実 ・学級担任とのチーム・ティーチング（TT）形態の授業による直接指導	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校給食法、食育基本法	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 児童生徒

P l a n n o （財源内訳）	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	0	0	0	0	0	0
	合計		0	0	0	0	0	0

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

拠点校に配置している2人の栄養教諭による給食の時間の指導や学級担任との食育の授業を通して、食に関する教育の充実が図られた。

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	訪問指導における授業回数（幌別小）	回	12	12	10	12	12
指標・実績②	訪問指導における授業回数（幌別東小）	回	6	6	6	6	6
指標・実績③	訪問指導における授業回数（幌別西小）	回	2	4	4	4	4
指標・実績④	訪問指導における授業回数（若草小）	回	4	1	4	4	4
指標・実績⑤	訪問指導における授業回数（登別小）	回	3	2	2	2	2
指標・実績⑥	訪問指導における授業回数（青葉小）	回	4	4	4	4	4
指標・実績⑦	訪問指導における授業回数（鶯別小）	回	2	3	3	4	4
指標・実績⑧	訪問指導における授業回数（富岸小）	回	6	6	4	4	4
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	栄養教諭による「食の通信」の年間発行回数	回	11	13	12	7	10

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	・日常実践につながったか等の視点による指導内容の検証 ・授業回数、指導機会の確保	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	・各学年における指導計画の整備、確実な位置付けを行う。 ・食育に関する授業の質の向上を図る。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
継続		・小学校での授業の充実を図る。



事務事業名		外国青年招致事業				
区分	No.	名称				部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち				会計種別
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む				開始年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり				終了年度
基本的な方向	1	特色ある教育活動の推進				事業区分
主要な施策	1	時代の変化に伴う教育課題への対応				大型事業推進プラン
						教育委員会学校教育G
						一般会計
						平成 2 年度
						平成 - 年度
						ソフト事業
						非登載事業

目的	英語を使ったコミュニケーション能力の育成を図ることにより、国際化社会で活躍することができる人材を育てることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) ネイティブスピーカーの話す英語や海外文化に触れる機会を増やし、国際交流や国際理解に興味を持たせる。							
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・各小中学校に外国語指導助手（以下、ALT）を週1日以上派遣する。 ・ALTによる外国文化の紹介を行う。							
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法、招致外国青年任用規則、語学指導等を行う外国青年招致事業実施要綱、語学指導等を行う外国青年招致事業募集要項	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 児童生徒、市民					
P l a n D o 事業費 (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
	道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源		千円	18,910	17,369	18,659	18,659	18,060	18,388
	合計				18,910	17,369	18,659	18,659	18,060

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

小学校での外国語活動や中学校での英語指導において、ALTを各学校に週1日以上派遣し、英語を使用したコミュニケーション能力の育成や、地域における国際交流の推進を図った。  
 【配置人数】4名（小学校2名、中学校2名）  
 【学校派遣回数】小学校での外国語活動（計372日）、中学校での英語指導（計372日）  
 ○授業以外での活動  
 ・学校図書館において、ALTによる本の読み聞かせ等を実施  
 ・クラブ活動、部活動への参加  
 ・スピーチコンテストの練習や英語検定の面接対策における講師  
 ○校外活動…国際理解講座の講師、通学合宿へのボランティア参加

指標の状況【Check】									
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標		
指標・実績①	配置人数（小学校）	人	2	2	2	2	2		
指標・実績②	配置人数（中学校）	人	2	2	2	2	2		
指標・実績③	学校派遣日数（小学校）	日	390	356	358	372	372		
指標・実績④	学校派遣日数（中学校）	日	380	375	353	372	372		
指標・実績⑤	国際理解講座の講師派遣人数	人	2	2	1	1	1		
指標・実績⑥	イングリッシュキャンプ（登別明日中等教育学校）講師派遣人数	人			4	2	2		
指標・実績⑦	スーパーサイエンスハイスクール（室蘭栄高等学校）講師派遣人数	人			4	4	4		
指標・実績⑧	イングリッシュ・デイ（室蘭清水丘高等学校）講師派遣人数	人			4	4	4		
指標・実績⑨									
指標・実績⑩									
成果指標	授業実施日数	日	770	731	711	744	744		

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
(事務事業の実施における課題点等)		
【1次評価】	・授業における効果的な活用方法を検討する必要があった。 ・長期休業期間中のALTの活動内容を検討する余地があった。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	・平成32年度からの新学習指導要領の全面实施に向けて、小学校外国語教育の更なる拡充強化を図る。 ・児童生徒が英語に触れられる機会を設定し、グローバル化に対応した人材の育成に努める。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
継続		児童生徒の発達段階に適した国際理解や英語を使ったコミュニケーション能力の育成、外国人と積極的に関わろうとする姿勢の育成を図る。

事務事業名 学校図書システム広域化事業

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 23 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	特色ある教育活動の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	時代の変化に伴う教育課題への対応	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	学校図書システムの運用を西いぶり定住自立圏の連携事業として共同実施することにより、運用経費の縮減、セキュリティの強化、運用の効率化・安定化を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 学校図書システムを室蘭市と共同利用し、運用費用の縮減、セキュリティの強化、運用の効率化・安定化を図る。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・室蘭市と共同で学校図書システムを利用する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 児童生徒

P l a n n o ( 財 源 内 訳 )	名称	単位	H28当初	H28決算	H29当初	H29最終	H29決算	H30当初
			予算		予算	予算		予算
国庫支出金		千円						
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	252	248	260	260	249	261
	合計		252	248	260	260	249	261

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

定住自立圏における連携事業として、室蘭市と共同で学校図書システムの更新及び運用を行うこととし、これに要する費用を室蘭市に負担金として支出した。

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	学校図書館蔵書数（小学校）	冊	66,266	67,197	69,490	70,104	71,365
指標・実績②	学校図書館蔵書数（中学校）	冊	48,936	49,847	51,654	53,234	54,740
指標・実績③	登別市負担金	千円	778	780	248	249	261
指標・実績④	システム大規模改修の回数	回	0	0	0	0	0
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	システムの稼働実績日数	日	365	366	365	365	365

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	（事務事業の実施における課題点等）	
継続	・運用費用の95%を人口按分、残り5%を均等割りして負担金を支払っているが、室蘭市の人口減少が大きいと、負担金の増額が見込まれる。 ・学校司書から現在のシステムが使用しづらいとの声があることから、システム改修を検討する必要がある。	
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	・運用費用の縮減とセキュリティの強化、運用の効率化・安定化を図るため、共同運用を継続する。 ・現在のシステムで改修を検討する必要がある項目について学校司書から意見を聞き、必要経費を把握する。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
継続		運用費用の縮減、セキュリティの強化、運用の効率化・安定化を図るため、共同運用を継続する。

事務事業名 情報教育システム広域化事業

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 23 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	1	特色ある教育活動の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	時代の変化に伴う教育課題への対応	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	情報教育システムの運用を定住自立圏の連携事業として共同実施することにより、運用経費の縮減、セキュリティの強化、運用の効率化・安定化を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 情報教育システムを室蘭市、伊達市、壮瞥町と共同利用し、運用費用の縮減とセキュリティの強化、運用の効率化・安定化を図る。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・室蘭市、伊達市（平成29年度より加入）、壮瞥町と共同で情報教育システムを利用する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 児童生徒、教職員

P l a n D o 事業費 (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	7,386	7,539	6,395	6,395	6,054	6,794
	合 計		7,386	7,539	6,395	6,395	6,054	6,794

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

定住自立圏形成協定の連携事業として、室蘭市、伊達市、壮瞥町と共同実施する情報教育システムの運用に係る費用を負担した。  
 ※当該システムは、WEB、メール、プロキシ、ファイル等のサーバを統合し、3市1町で共同利用しており、サーバの管理及び運用は室蘭市で実施している。室蘭市にヘルプデスクを開設し、ITの専門知識を有する選任の嘱託員が、各小中学校からの照会や不具合対応に係る業務を行った。

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	登別市の人口	人	50,255	49,630	49,090	48,519	48,000
指標・実績②	室蘭市の人口	人	88,793	87,569	86,061	84,655	85,000
指標・実績③	伊達市の人口	人	35,620	35,330	34,871	34,579	35,000
指標・実績④	壮瞥町の人口	人	2,676	2,644	2,614	2,568	2,600
指標・実績⑤	不具合時の現地対応件数（登別市）	件				13	20
指標・実績⑥	不具合時の現地対応件数（室蘭市）	件				74	70
指標・実績⑦	不具合時の現地対応件数（伊達市）	件				1	5
指標・実績⑧	システム運用、更新にかかる経費合計（負担金合計）	千円				21,847	23,401
指標・実績⑨	登別市負担金	千円	7,142	7,619	7,539	6,054	6,516
指標・実績⑩							
成果指標	システムの稼働実績日数	日	365	366	365	365	365

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	・運用費用の95%を人口按分、残り5%を均等割りして負担金を支払っているが、室蘭市の人口減少が大きいため、負担金の増額が見込まれる。 ・運用及び管理を室蘭市が行っているが、機器の更新予定等について情報共有できていない部分がある。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】 ・運用費用の縮減とセキュリティの強化、運用の効率化・安定化を図るため、共同運用を継続する。 ・運用及び管理を行っている室蘭市と連絡を密にとり情報共有するように努める。	行政評価会議及び総合
継続		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】 運用費用の縮減とセキュリティの強化、運用の効率化・安定化を図るため、共同運用を継続する。
継続		

事務事業名		特色ある学校づくり推進経費		
区分	No.	名称		部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち		教育委員会学校教育G
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む		一般会計
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり		開始年度 平成 15 年度
基本的な方向	1	特色ある教育活動の推進		終了年度 平成 ー 年度
主要な施策	2	総合的な学習の時間の充実		事業区分 ソフト事業
				大型事業推進プラン 非登録事業

目的	地域の特性を活かした特色ある教育を行うことにより、豊かな人間性を育むとともに、地域への愛着を育てることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 各小中学校において、地域の特色を生かした体験的な活動をし、児童生徒の主体的な判断力や探究心を引き出す。		
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・地元登別の観光や自然について理解するため、温泉入浴体験を実施する。 ・動物や植物を育て、児童が生き物に触れる機会をつくる。 ・地域の伝統文化や産業について詳しく知る見学学習を実施する。 ・福祉についての理解を深めるため、障がいのある方々との交流や体験学習を実施する。 ・進路選択や働くことと学ぶことの関連について考えるため、生徒の職場体験を行う。		
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学習指導要領	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 児童生徒

P l a n n o (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
道支出金		千円							
地方債		千円							
その他	ふるさとまちづくり応援基金積立金繰入金	千円	1,487	1,487	1,487	3,000	3,000		
一般財源		千円	3,728	2,801	3,893	2,000	1,270	5,235	
	合計		5,215	4,288	5,380	5,000	4,270	5,235	

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
総合的な学習の時間や生活科等において、各学校の特色ある学校づくりを推進するための各種事業を実施した。	
【事業実績】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登別温泉入浴体験事業（各小学校3年生、370人参加）</li> <li>・総合的な学習活動研究推進事業（全小中学校）                     <ul style="list-style-type: none"> <li>講師講演 8件（小学校8件）</li> <li>野外体験学習（小学校）18回（バス借上げ14件）</li> <li>（中学校）4回（バス借上げ4件）</li> <li>職場体験学習等（中学校）6回（バスチケット136枚）</li> </ul> </li> <li>・生活科実施等経費（各小学校1・2年生）</li> <li>花いっぱい運動（一年草購入 43ケース（8校））</li> </ul>	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	温泉入浴体験参加者数	人	367	411	383	370	330
指標・実績②	総合的な学習活動研究推進事業（野外活動体験実施回数）	回	15	19	22	22	21
指標・実績③	総合的な学習活動研究推進事業（職場体験実施回数：中学校分）	回	5	9	7	6	6
指標・実績④	総合的な学習活動研究推進事業（職場体験に伴うバスチケット発行枚数：中学校分）	枚	110	193	117	136	136
指標・実績⑤	生活科実施等経費（花いっぱい運動）実施学校数	校	8	8	8	8	8
指標・実績⑥	生活科実施等経費（花いっぱい運動）にかかる一年草購入実績	ケース	43	43	43	43	43
指標・実績⑦	市内小中学校数	校	13	13	13	13	13
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	一斉学校公開日の来校者に占める地域住民の割合（平成37年度目標：14%）	%	7.00	9.42	8.49	9.05	9.50

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	見学学習先や体験学習の内容は各学校の実状や環境変化に応じて、常に見直していく必要がある。	行政評価会議及び総合	
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】		
継続	産業や自然など地域の素材を活用した体験、交流を通じて、児童生徒の自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力の育成を図っていくため、随時内容を検討しながら実施する。	今後の方向性【Plan】 豊かな人間性、地域への愛着を育むのに有益な事業であることから、事業内容を随時検討しながら実施する。	
【3次評価】			
継続			

事務事業名	特別活動推進経費（小学校）
-------	---------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 14 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	特色ある教育活動の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	体験活動の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	集団活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、自主性や社会性等を育むことを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 特別活動を通して、望ましい人間関係を形成し、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 特別活動に必要な物品等の購入に係る予算を児童数に応じ各小学校へ配分する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 小学校学習指導要領	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 児童

P l a n n e d (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	389	386	240	240	236	240
	合計		389	386	240	240	236	240

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
各学校の特色や児童の発達段階などを踏まえ、児童による自主的・実践的な活動を助長した。 【事業実績】 ・小学校における特別活動 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	市内小学校数	校	8	8	8	8	8
指標・実績②	青葉小学校児童数 (5/1現在)	人	337	343	318	304	
指標・実績③	幌別小学校児童数 (5/1現在)	人	336	318	291	272	
指標・実績④	幌別西小学校児童数 (5/1現在)	人	337	327	306	306	
指標・実績⑤	登別小学校児童数 (5/1現在)	人	169	175	168	158	
指標・実績⑥	鷺別小学校児童数 (5/1現在)	人	287	306	293	296	
指標・実績⑦	富岸小学校児童数 (5/1現在)	人	515	516	457	447	
指標・実績⑧	幌別東小学校児童数 (5/1現在)	人	79	74	80	83	
指標・実績⑨	若草小学校児童数 (5/1現在)	人	342	336	326	320	
指標・実績⑩							
成果指標	市内小学校児童数	人	2,402	2,395	2,239	2,186	2,186

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	児童一人ひとりが、その学年や発達段階に応じた向上を目指すことから、一貫して活動を助長し続けていく必要がある。 各学校へは児童数に応じて予算配分し、特別活動の実施に必要な消耗品等の購入経費として活用している。		
継続		行政評価会議及び総合	
【2次評価】	今後の取組【Action】 特別活動は、文部科学省が告示する教育課程の基準である「小学校学習指導要領（第6章特別活動）」で実施が定められているため、今後もその活動を助長していく。		
継続			
【3次評価】		今後の方向性【Plan】 集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な姿勢の育成を図る。	
継続			

事務事業名	特別活動推進経費（中学校）
-------	---------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 14 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	特色ある教育活動の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	体験活動の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	集団活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、自主性や社会性等を育むことを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 特別活動を通して、望ましい人間関係を形成し、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 特別活動に必要な物品等の購入に係る予算を生徒数や部活動所属人数等に応じ各中学校へ配分する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 中学校学習指導要領	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 生徒

P l a n D o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	3,220	2,968	2,820	2,820	2,517	2,820
	合計		3,220	2,968	2,820	2,820	2,517	2,820

<b>事務事業の成果・改善の状況【Do】</b>	
各学校の特色や生徒の発達段階などを踏まえ、生徒による自主的・実践的な活動を助長した。	
【事業実績】	
・中学校における特別活動 学級活動、生徒会活動、部活動、学校行事	

<b>指標の状況【Check】</b>							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	幌別中学校における部活動所属人数	人	154	141	148	144	144
指標・実績②	西陵中学校における部活動所属人数	人	120	125	131	123	123
指標・実績③	鷺別中学校における部活動所属人数	人	225	209	228	246	246
指標・実績④	登別中学校における部活動所属人数	人	68	70	73	72	72
指標・実績⑤	緑陽中学校における部活動所属人数	人	311	307	347	330	330
指標・実績⑥	幌別中学校における部活動数	部	8	7	7	7	7
指標・実績⑦	西陵中学校における部活動数	部	10	9	12	8	8
指標・実績⑧	鷺別中学校における部活動数	部	8	8	8	8	8
指標・実績⑨	登別中学校における部活動数	部	4	4	4	3	3
指標・実績⑩	緑陽中学校における部活動数	部	11	11	11	11	11
成果指標	市内生徒数	人	1,145	1,139	1,185	1,128	1,128

<b>課題等の状況【Check】</b>	
(事務事業の実施における課題点等)	
財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	生徒一人ひとりが、その学年や発達段階に応じた向上を目指すことから、一貫して活動を助長し続けていく必要がある。 各学校へは生徒数に応じて予算配分し、特別活動の実施に必要な消耗品等の購入経費として活用している。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	特別活動は、文部科学省が告示する教育課程の基準である「中学校学習指導要領（第5章特別活動）」で実施が定められているため、今後もその活動を助長していく。
【3次評価】	今後の方向性【Plan】
継続	集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な姿勢の育成を図る。

事務事業名	自然体験学習推進経費
-------	------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成14年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成—年度
基本的な方向	1	特色ある教育活動の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	体験活動の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	地域の特性を生かした自然体験学習を推進することにより、児童生徒の社会性・自主性を育むことを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 登別周辺の自然に親しみながら、集団行動の大切さを理解する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・宿泊研修（小学校5年生）、炊事遠足（中学校1年生）の実施希望を調査する。 ・6～9月間で、各学校の実施日を設定する。 ・実施場所（ネイチャーセンター）までのバスを手配する。 ・役割分担、目標設定等の事前準備を通して児童生徒の自主性、協調性を育てる。 ・事業実施後、児童生徒が体験・活動を通して学んだこと、感じたことを振り返る機会を設ける、	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 小学校5年生・中学校1年生

Plan Ddo (事業費) (財源内訳)	名称		単位	H28当初予算	H28決算	H29当初予算	H29最終予算	H29決算	H30当初予算
	国庫支出金		千円						
	道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源		千円	1,433	1,302	1,365	1,365	1,289	1,370
	合計				1,433	1,302	1,365	1,365	1,289

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
ネイチャーセンターにおいて、宿泊研修や炊事遠足などの自然体験学習を行った。 【事業実績】 ・参加人数等 小学校5年生（8校、411人参加） 中学校1年生（2校、171人参加） ・実施内容 自然遊び体験、ものづくり体験、屋外調理実習、周辺散策、炊事等	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	宿泊学習参加人数	人	453	433	365	411	411
指標・実績②	学校別宿泊学習参加人数（登別小学校）	人	32	30	18	38	38
指標・実績③	学校別宿泊学習参加人数（幌別小学校）	人	63	59	60	37	37
指標・実績④	学校別宿泊学習参加人数（幌別東小学校）	人	15	12	15	16	16
指標・実績⑤	学校別宿泊学習参加人数（青葉小学校）	人	65	58	52	66	66
指標・実績⑥	学校別宿泊学習参加人数（富岸小学校）	人	111	71	70	90	90
指標・実績⑦	学校別宿泊学習参加人数（若草小学校）	人	58	65	56	58	58
指標・実績⑧	学校別宿泊学習参加人数（幌別西小学校）	人	56	50	49	51	51
指標・実績⑨	学校別宿泊学習参加人数（鷺別小学校）	人	53	46	45	55	55
指標・実績⑩	炊事遠足参加人数	人	191	200	215	171	158
指標・実績⑪	体験学習実施回数（日帰り）	回	2	2	2	2	2
指標・実績⑫	体験学習実施回数（宿泊）	回	8	8	8	8	8
成果指標	体験学習実施回数（合計）	回	10	10	10	10	10

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	平成26年4月より、貸切バスの運賃・料金制度が変更されたため、借上げバスの使用料が高騰している。 ネイチャーセンター職員と引率教員との連携を深める必要がある。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】 校内学習では学ぶことができない体験ができる貴重な機会であることから、可能な限り市バス等を使用し、今後も地域の特性を活かした取組を行う。 教員に対し事前研修を行い、ネイチャーセンター職員と引率教員との連携を深める。
継続	行政評価会議及び総合
【3次評価】	今後の方向性【Plan】 自然体験学習は、教室では学ぶことができない事柄に触れる良い機会であり、児童生徒に学ぶことの楽しさを実感させることができる事業であることから、継続して実施する。
継続	

事務事業名	小中学校情報教育推進事業費				
-------	---------------	--	--	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 12 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	特色ある教育活動の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	4	情報通信機器の効果的な活用	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	情報化社会の中で、様々な情報を主体的に選択・活用することができる能力を育むことを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 児童生徒の情報活用能力の育成及び情報モラルの定着を図る。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) <小学校>・「コンピュータの基本的な操作」を身につけさせる。 ・「情報手段を適切に活用できるようにするための学習活動」を行う。 ・「情報モラル」を理解させる。 <中学校>・「情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための活動」を行う。 ・「情報モラル」を理解させる。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領	対象 児童生徒、教職員

Plan 事業費 (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	32,494	32,428	35,332	33,661	33,570	12,810
	合計		32,494	32,428	35,332	33,661	33,570	12,810

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

パソコン等の情報通信機器を小中学校等に配置し、授業・校務等において積極的に活用することで、情報教育の推進及び校務の効率化を図った。

【事業実績】  
 (小学校)  
 ・国語科のローマ字の学習との関連で、コンピュータのキーボードを使ってローマ字入力・電子ファイルの保存・整理について身につけた。  
 ・社会科や理科では、インターネットを活用した調べ学習で情報収集の仕方を身につけた。  
 ・総合的な学習では、文字入力の実践やインターネットを使用し情報収集し、プレゼンテーションソフトを活用し調べたものをまとめ、発表する力を身につけた。  
 ・情報モラルについては、メール作成等の実践を通してながら道徳と関連付け、ネットワーク上のルールやマナーを守ることを意味などを理解させた。  
 (中学校)  
 ・小学校段階で身につけた基本的な操作に関する知識を深め、インターネットを活用し集めた情報から必要な情報を選び、パワーポイントやワード、エクセルを活用しまとめる力を身につけた。  
 ・情報モラルについては、ネットワーク上のルールやマナーを守ること、危険の回避、人権侵害の防止等について理解させた。

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	中学校パソコン台数	台	205	205	205	205	205
指標・実績②	大型デジタルテレビ整備台数 (小学校)	台		52	56	57	66
指標・実績③	大型デジタルテレビ整備台数 (中学校)	台		19	19	27	30
指標・実績④	実物投影機整備台数 (小学校)	台		35	43	54	56
指標・実績⑤	実物投影機整備台数 (中学校)	台		10	13	21	23
指標・実績⑥	プロジェクター整備台数 (小学校)	台		18	17	15	18
指標・実績⑦	プロジェクター整備台数 (中学校)	台		15	16	19	22
指標・実績⑧	教員用パソコン更新台数	台				90	103
指標・実績⑨	児童生徒用パソコン更新台数	台				157	95
指標・実績⑩							
成果指標	小学校パソコン台数※1校あたり25台	台	200	200	200	200	200

課題等の状況【Check】		財源の検討 (補助金・交付金の活用等)
【1次評価】	・文部科学省が策定した「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(2018~2022年度)」に基づき、学校における情報機器等を整備する必要がある。 ・現在小中学校に配置しているパソコンはWindows7搭載であり、サポート期間が平成32年1月14日に修了することからWindows10搭載パソコンへ移行させる必要がある。 ・教育情報セキュリティポリシーを早急に策定する必要がある。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】 ・教育情報セキュリティポリシーを早急に策定し、文部科学省が策定した「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(2018~2022年度)」に基づき、学校における情報機器等の整備を検討する。 ・Windows7サポート期間終了までにパソコンの更新を行う。	行政評価会議及び総合
継続		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】 情報通信機器を積極的に活用することにより、児童生徒の学習への関心や理解の深化に努めるとともに、情報活用能力の育成及び情報モラルの定着を図る。
継続		



事務事業名	コミュニティスクール活動支援事業費				
-------	-------------------	--	--	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 15 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	2	開かれた学校づくりの推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	地域・家庭との連携促進	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	学校・保護者・地域が一体となった「コミュニティスクール」の活動を支援・推進することにより、三者の意見が反映される「地域とともにある学校づくり」を実現することを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 小中学校において学校運営協議会及び放課後学習サポート（学習指導）を実施し、児童生徒の学力向上、地域の教育力・活力向上につなげる。		
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・全小中学校において、学校運営協議会を実施する。 ・小学校において放課後学習サポート、中学校において放課後学習指導を実施する。		
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律、登別市立学校運営協議会設置要綱	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 児童生徒、市民

P l a n n o （財源内訳）	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	1,165	641	1,150	1,150	636	1,150
合計			1,165	641	1,150	1,150	636	1,150

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
<p>全小中学校にコミュニティスクールを設置し、町内会や社会福祉関係者、PTA役員等を委員に任命し、各校で学校運営に係る会議を開催した。また、放課後の時間を活用し、小学校では地域住民による学習サポート、中学校では退職教員による学習指導を実施した。</p> <p>【学校運営協議会】 委員数：全小中学校 110人 会議開催数：全小中学校 41回 【放課後学習サポート】 講師数：小学校8校 94人 実施回数：小学校8校 97回 【放課後学習指導】 講師数：中学校2校 5人 指導回数：中学校2校 110回</p>	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	学校運営協議会実施校数	校	13	13	13	13	13
指標・実績②	学校運営協議会委員数	人	103	105	109	109	115
指標・実績③	学校運営協議会開催数	回	36	42	42	41	42
指標・実績④	放課後学習サポート実施校数	校	4	6	8	8	8
指標・実績⑤	放課後学習サポート指導者数	人	34	70	91	94	91
指標・実績⑥	放課後学習サポート実施回数	回	26	66	91	97	92
指標・実績⑦	放課後学習指導実施校数	校		2	2	2	2
指標・実績⑧	放課後学習指導指導者数	人		4	4	5	5
指標・実績⑨	放課後学習指導実施回数	回		133	72	110	110
指標・実績⑩							
成果指標	評議員会（運営協議会）委員数	人	103	105	109	109	115

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・各校の学校運営協議会委員について、学校と教育委員会での情報共有を密に行う。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・コミュニティスクールの活動が円滑に運営されるよう支援する。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		子どもの生きる力の育成、地域の教育力・活力の向上のため、継続してコミュニティスクールの活動を支援する。	

事務事業名	P T A 連合会助成金
-------	--------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	昭和 62 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	開かれた学校づくりの推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	地域・家庭との連携促進	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	研修活動や単位 P T A の連携協力等を行う登別市 P T A 連合会を支援することにより、子どもたちの豊かな人間性を育むことを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目 標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 子どもたちの豊かな人間性を育むため、登別市 P T A 連合会の活動を支援する。	
	計 画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・登別市 P T A 連合会からの交付申請に対し、内容の精査を行い、助成金を交付する。 ・同団体からの実績報告に基づき、助成金が目的に沿って活用されているかを精査し、助成額を確定する。	
	根 拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別市 P T A 連合会

P l a n d o ( 財 源 内 訳 事 業 費)	名 称	単 位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	300	300	300	300	300	300
	合 計		300	300	300	300	300	300

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
市内の小中学校及び高校等の P T A で構成される登別市 P T A 連合会に対し、その活動に要する経費の一部を助成した。 【事業内容】 ・ 研究大会、教育講話会・交流会、母親研修会の開催、広報紙の発行等	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単 位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	広報紙発行回数	回	2	2	2	2	2
指標・実績②	研究大会開催回数	回	2	2	2	1	2
指標・実績③	教育講話会開催回数	回	0	1	1	1	1
指標・実績④	母親研修会開催回数	回	0	1	2	2	1
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	登別市 P T A 連合会会員数	人	5,451	4,066	3,992	3,897	3,815

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・本助成金に係る交付要綱がないため、助成の対象事項が明確でないほか、事務決裁等に時間を要していた。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・交付要綱を策定する。	本助成金の交付要綱を策定してください。	
【3次評価】			
継続		今後の方向性【Plan】 子どもたちの豊かな人間性を育むため、登別市 P T A 連合会の活動を支援する。	

事務事業名 教職員住宅整備事業

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会総務G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 21 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実	事業区分	ハード事業
主要な施策	1	学校の適正規模等	大型事業推進プラン	登録事業

目的 教職員住宅の環境改善を図ることを目的とする。

前回評価 継続

概要

目標 (平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください)  
老朽化が著しい、教職員住宅の改修を行う。

計画 (目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください)  
老朽化が著しい教職員住宅等の整備が必要であり、順次準備を進める。

根拠 (根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)  
学校教育法

対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入)  
市内教職員住宅

Plan (事業費)

名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
国庫支出金	千円						
道支出金	千円						
地方債	千円						
その他	千円						
一般財源	千円						
合計		0	0	0	0	0	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】

平成29年度事業実施なし。

指標の状況【Check】

指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	市内教職員住宅管理戸数	戸	82	82	82	62	
指標・実績②	市内教職員数 ※本務職員数（小中学校合計）	人	266	266	275	272	
指標・実績③	市内小学校教職員数	人	172	171	176	176	
指標・実績④	市内中学校教職員数	人	94	95	99	96	
指標・実績⑤	小学校児童数	人	2,402	2,395	2,239	2,186	2,166
指標・実績⑥	中学校生徒数	人	1,145	1,139	1,185	1,128	1,119
指標・実績⑦	市内小中学校数	校	13	13	13	13	13
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	整備実施教職員住宅	戸	0	0	0	0	0

課題等の状況【Check】

(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）

継続

【1次評価】 ・屋根材の劣化や外壁塗装の割れ、剥がれにより、構造躯体に悪影響を与えている。

【2次評価】 今後の取組【Action】 行政評価会議及び総合

継続

・公共施設整備方針を踏まえ、計画的に教職員住宅環境の整備を実施していく。  
・新生教職員住宅K55（鉄筋コンクリート造 4階建24戸）の屋根、外壁の改修及び塗装工事、玄関引き戸の取り替えを行う。  
・物置改修工事を行う。（木造平屋建24戸分）

【3次評価】

継続

今後の方向性【Plan】  
計画的に教員住宅の環境改善を図る。

事務事業名	小中学校校舎改修事業	
-------	------------	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会総務G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 19 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実	事業区分	ハード事業
主要な施策	1	学校の適正規模等	大型事業推進プラン	登録事業

目的	児童などが安全で安心して学校生活を送ることができるよう、教育環境の改善を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目 標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 老朽化が著しい、小中学校の改修を行う。	
	計 画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・老朽化した地下タンクについて、腐食防止措置としてFRP内部コーティング改修工事を実施する。 ・老朽化した校舎屋上防水の改修を実施する。 ・便所和式便器を洋式便器等の改修工事を実施する。	
	根 拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 市内小中学校

P l a n D o (財源内訳)	名 称		単 位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	学校施設環境改善交付金		千円	8,939	8,913	4,515	4,515	4,078
道支支出金			千円						
地方債	学校教育施設等整備事業		千円	31,300	29,300	15,300	15,000	13,300	8,400
その他			千円						
一般財源			千円	4,885	4,273	2,370	2,278	2,224	2,893
	合 計			45,124	42,486	22,185	21,793	19,602	11,293

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
小中学校の校舎の老朽化に伴い校舎等の改修を行った。また、中学校便所の大便器を和式から洋式に改修した。	
【平成29年度工事実績】	
・富岸小学校地下タンクFRPライニング工事	1,404,000円
・西陵中学校屋上防水改修工事	6,976,800円
・登別中学校便所洋式化改修工事	11,221,200円
合 計	19,602,000円

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単 位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	対象小中学校数（トイレ洋式化工事）	校	1	0	1	1	0
指標・実績②	対象小中学校数（給食リフト改修工事）	校	2	0	2	0	0
指標・実績③	対象小中学校数（地下タンクFRPライニング工事）	校	0	0	3	1	2
指標・実績④	小中学校キュービクル取替工事件数	件	0	1	0	0	1
指標・実績⑤	小中学校外壁改修工事件数	件	0	1	0	0	0
指標・実績⑥	小中学校トイレ洋式化工事件数	件	4	0	4	2	0
指標・実績⑦	小中学校給食リフト改修工事件数	件	2	0	2	0	0
指標・実績⑧	小中学校地下タンクFRPライニング工実施件数	件	0	0	2	1	2
指標・実績⑨	小中学校校舎屋上防水工事件数	件	1	0	0	1	0
指標・実績⑩	小中学校給水ポンプ改修工事件数	件	1	0	2	0	0
成果指標	対象小中学校（校舎等改修）	校	5	2	5	3	2

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	老朽化している施設を計画的に改修することにより、教育環境の改善及び向上を図る必要がある。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	公共施設整備方針を踏まえ、今後も児童生徒等が安全で安心な学校生活がおくれるよう、計画的に教育環境の整備を実施していく。
【3次評価】	
継続	今後の方向性【Plan】 児童生徒等が安心して学校生活を送ることが出来るよう、教育環境の改善を図る。

事務事業名	小学校周辺整備事業
-------	-----------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会総務G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 ー 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実	事業区分	
主要な施策	1	学校の適正規模等	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	児童等が安心して学校生活を送ることができるよう、教育環境の改善を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 学校敷地内の老朽化した遊具の取替及び、雨水排水、グラウンドの暗梁排水等の整備を行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください)	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 市内小学校

Plan （財源内訳） 事業費	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
	道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源		千円			1,426	1,426	1,426	
合計				0	0	1,426	1,426	1,426	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
学校敷地内の老朽化した遊具の取替及び、雨水排水、グラウンドの暗梁排水等の整備が必要であり順次準備を進める。	
【平成29年度工事実績】 ・富岸小学校鉄棒取替工事 1,425,600円	

指標の状況【Check】								
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標	
指標・実績①	小学校児童数	人	2,402	2,395	2,239	2,186	2,166	
指標・実績②	中学校生徒数	人	1,145	1,139	1,185	1,128	1,119	
指標・実績③	市内小中学校数	校	13	13	13	13	13	
指標・実績④	登別小学校 周辺整備修繕件数	件	5	2	2	0	1	
指標・実績⑤	幌別東小学校 周辺整備修繕件数	件	2	4	1	0	1	
指標・実績⑥	幌別小学校 周辺整備修繕件数	件	5	1	4	1	1	
指標・実績⑦	幌別西小学校 周辺整備修繕件数	件	1	1	7	1	3	
指標・実績⑧	青葉小学校 周辺整備修繕件数	件	2	5	0	0	3	
指標・実績⑨	富岸小学校 周辺整備修繕件数	件	3	1	2	2	0	
指標・実績⑩	若草小学校 周辺整備修繕件数	件	1	2	2	3	1	
指標・実績⑪	鷺別小学校 周辺整備修繕件数	件	1	1	0	0	2	
成果指標	修繕件数	件	20	17	18	7	12	

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
【1次評価】	老朽化している施設を計画的に改修することにより、教育環境の改善及び向上を図る必要がある。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】 行政評価会議及び総合
継続	公共施設整備方針を踏まえ、今後も児童生徒等が安全で安心な学校生活がおくれるよう、計画的に教育環境の整備を実施していく。
【3次評価】	今後の方向性【Plan】 児童等が安心して学校生活を送ることができるよう、教育環境の改善を図る。
継続	

事務事業名	中学校周辺整備事業	
-------	-----------	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会総務G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 4 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実	事業区分	ハード事業
主要な施策	1	学校の適正規模等	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	生徒等が安心して学校生活を送ることが出来るよう、教育環境の改善を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 学校敷地内の雨水排水、グラウンドの暗梁排水、グラウンドフェンス等の整備を行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください)	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 市内中学校

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						7,400
その他		千円						
一般財源		千円						2,580
合 計			0	0	0	0	0	9,980

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
【工事実績】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度実施 緑陽中学校法面復旧工事</li> <li>・平成29年度事業実績なし</li> </ul>

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	小学校児童数	人	2,402	2,395	2,239	2,186	2,166
指標・実績②	中学校生徒数	人	1,145	1,139	1,185	1,128	1,119
指標・実績③	市内小中学校数	校	13	13	13	13	13
指標・実績④	登別中学校 周辺整備修繕件数	件	0	0	0	0	1
指標・実績⑤	幌別中学校 周辺整備修繕件数	件	0	1	3	3	0
指標・実績⑥	西陵中学校 周辺整備修繕件数	件	1	0	1	4	0
指標・実績⑦	緑陽中学校 周辺整備修繕件数	件	1	2	0	1	0
指標・実績⑧	鷺別中学校 周辺整備修繕件数	件	3	2	0	1	0
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	修繕件数	件	5	5	4	9	1

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	老朽化している施設を計画的に改修することにより、教育環境の改善及び向上を図る必要がある。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	公共施設整備方針を踏まえ、今後も児童生徒等が安全で安心な学校生活がおくれるよう、計画的に教育環境の整備を実施していく。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		生徒等が安心して学校生活を送ることが出来るよう、教育環境の改善を図る。	

事務事業名 鷺別小学校改築事業

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会総務G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 24 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 29 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実	事業区分	ハード事業
主要な施策	1	学校の適正規模等	大型事業推進プラン	登録事業

目的	老朽化した学校施設を改築することにより教育環境の改善、地域コミュニティの場として活用できるよう整備を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 鷺別小学校校舎の改築工事（Ⅱ期）を行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 国の補助制度（危険改築、不適格改築）を利用し、既設建物の解体及びグラウンド等の屋外環境の整備を行う。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法、建物等の耐震改修の促進に関する法律、地震防災対策特別措置法	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 鷺別小学校

P l a n D o (事業費 財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	学校施設環境改善交付金・公立学校整備費国庫負担金		千円	264,889	309,954	61,609	61,609	50,171
道支出金			千円						
地方債	学校教育施設等整備事業		千円	944,100	871,800	354,800	354,800	331,000	
その他			千円						
一般財源			千円	221,128	188,853	6,891	6,891	10,361	
	合計			1,430,117	1,370,607	423,300	423,300	391,532	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】

校舎は、耐震診断（2次診断）及び耐力度調査の結果、危険建物と判定され、屋内運動場については、耐震診断（2次診断）の結果、Is値0.19で耐震補強が困難な建物であると判定された。この結果を踏まえ、校舎と屋内運動場の全面改築を行うとともに、既設建物の解体及びグラウンド等の屋外環境の整備を行う。

■具体的な耐震化の進め方  
【改築】耐震診断（2次診断）又は耐力度調査→基本設計・現況測量・地質調査→実施設計→改築工事  
【平成29年度事業実績】

- 鷺別小学校グラウンド整備等工事 296,676,000円
- 鷺別小学校旧校舎解体工事 94,003,200円
- 実勢価格物価調査委託 852,120円
- 合計 391,531,320円

指標の状況【Check】

指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	校舎建替改築工事件数	件	0	0	6	0	
指標・実績②	屋内運動場改築工事件数	件	3	0	0	0	
指標・実績③	旧校舎解体工事件数	件	0	0	0	2	
指標・実績④	旧体育館解体工事件数	件	0	1	0	0	
指標・実績⑤	プール解体工事件数	件	1	0	0	0	
指標・実績⑥	通路新設工事件数	件	0	0	0	5	
指標・実績⑦	舗装工事件数	件	0	0	0	2	
指標・実績⑧	フェンス設置工事件数	件	0	0	0	2	
指標・実績⑨	工事監理委託件数	件	0	0	1	0	
指標・実績⑩	光ケーブル改修工事	件	0	0	1	0	
成果指標	当該年度事業達成率	%	100	100	100	100	

課題等の状況【Check】

(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）

【1次評価】	平成28年12月に校舎改築工事が完了し、平成29年4月より共用開始となった。平成29年度に旧校舎解体工事及び、グラウンド整備・外構工事を実施した。	
終了		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
終了		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
終了		

事務事業名	児童生徒遠距離通学費補助金	
-------	---------------	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	昭和 51 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	学校の適正規模等	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	バスで通学する児童生徒の保護者の経済的負担の軽減を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	--------------------------------------	------	----

P l a n  概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 遠隔地からバスで通学する児童生徒の通学費を補助することにより、保護者の経済的負担を減らす。						
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 旧温泉中学校校区から登別中学校へ通学する生徒は毎月、その他の遠距離通学の児童生徒は3か月分ずつ4期にわたって、保護者へ通学費を補助する。						
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 教育基本法（第4条）、学校教育法第19条、登別市就学援助事務処理運用基準	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 バス通学の児童生徒の保護者					
P l a n ↓ o  (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	2,400	2,113	2,603	2,603	2,028	2,248
合計		2,400	2,113	2,603	2,603	2,028	2,248	

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
・バスで通学する児童生徒の保護者に対して、通学に要する費用の一部を補助した。	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	遠距離通学児童数	人	5	4	4	5	5
指標・実績②	遠距離通学生徒数	人	87	74	74	61	61
指標・実績③	遠距離通学小学校数	校	2	2	2	2	2
指標・実績④	遠距離通学中学校数	校	3	3	3	3	3
指標・実績⑤	小学校児童数	人	2,402	2,395	2,239	2,186	2,166
指標・実績⑥	中学校生徒数	人	1,145	1,139	1,185	1,128	1,119
指標・実績⑦	市内小中学校数	校	13	13	13	13	13
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	助成人数	人	92	78	78	66	66

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	事業実施中に不断の事務改善に努めており、現在のところ特に課題となる状況はない。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	事業の継続を図り、遠隔地から通学する児童生徒及び保護者の負担の軽減に努めていく。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		児童生徒の通学の安全性を確保し、保護者の経済的負担を軽減するため、引き続き支援を行う。	



事務事業名		スクールバス・スクールタクシー運行事業		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 10 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	学校の適正規模等	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	学校統合に伴い遠隔地から通学する児童生徒の負担及び保護者の経済的負担を軽減することを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 遠隔地から通学する児童生徒の安全の確保及び保護者の経済的負担を軽減するため、スクールバス及びスクールタクシーを円滑に運行する。		
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・スクールバスに乗車する児童名及び乗降場所を確認し、委託業者に報告する。 ・スクールバス及びスクールタクシーの円滑な運行のため、学校と事前に運行計画の確認を行い、委託業者に報告する。		
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 児童生徒

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	12,587	12,029	12,425	11,926	11,588	12,584
	合計		12,587	12,029	12,425	11,926	11,588	12,584

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔地に居住する児童生徒を学校へ送迎するスクールバス・スクールタクシーを運行した。</li> <li>《スクールバス》 カルルス地区・上登別地区・登別温泉地区・中登別地区に居住する児童を登別小学校へ送迎 【対象者数】 登別小学校 28人</li> <li>《スクールタクシー》 札幌市内に居住する児童生徒を幌別小学校、幌別中学校へ送迎 【対象人数】 幌別小学校 2人、幌別中学校 1人</li> </ul>	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	スクールバス利用者数	人	37	34	32	28	26
指標・実績②	スクールタクシー利用者数（児童）	人				2	1
指標・実績③	スクールタクシー利用者数（生徒）	人				1	1
指標・実績④	スクールバス運行日数	日				220	220
指標・実績⑤	スクールタクシー運行回数	回				730	500
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	利用人数	人	37	34	36	31	28

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・美園町の一部地域への転入児童は、スクールタクシーの対象としており、対応が必要である。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・美園地区のスクールタクシーについて、今後対象者が出た場合、対応する。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		対象者を的確に把握し、引き続きスクールバス及びスクールタクシーの運行を実施する。	

事務事業名		中学校耐震化改修事業				部・グループ	教育委員会総務G
区分	No.	名称				会計種別	一般会計
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち				開始年度	平成 21 年度
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む				終了年度	平成 一 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり				事業区分	ハード事業
基本的な方向	3	教育環境の充実				大型事業推進プラン	登録事業
主要な施策	2	児童生徒の安全確保					

目的	地震に対して倒壊等の危険性がある校舎等の耐震化及び改修を行うことにより、安全・安心な教育環境を整備することを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 耐震診断（2次診断）の結果を踏まえて学校施設の耐震性を確保するため、改修工事を行う。							
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 【平成29年度実施事業】 ・登別中学校校舎耐震改修・外壁改修工事 ・登別中学校校舎屋根改修工事 ・登別中学校渡り廊下改築工事							
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法、建物等の耐震改修の促進に関する法律、地震防災対策特別措置法	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 市内中学校					
P l a n n o （財源内訳）	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	学校施設環境改善交付金	千円			25,413	25,413	17,747	
	道支支出金		千円						
	地方債	学校教育施設等整備事業	千円	9,100	7,900	116,300	116,300	106,100	
	その他		千円						
	一般財源		千円	3,126	2,738	90	90	3,107	
合 計				12,226	10,638	141,803	141,803	126,954	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
耐震診断（2次診断）の結果を踏まえ、地震に対して倒壊等の危険性があると推定される建物について、耐震補強や改築等により学校施設の耐震化を図ると共に、併せて施設の内外部の改修を実施する。 【平成29年度工事実績】 ・登別中学校校舎耐震改修・外壁改修工事 74,250,000円 ・登別中学校校舎屋根改修工事 16,470,000円 ・登別中学校渡り廊下改築工事 32,130,000円 ・登別中学校校舎耐震改修工事監理委託 4,104,000円 合 計 126,954,000円	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	耐震診断業務委託件数	件	1	0	0	0	0
指標・実績②	実施設計委託件数	件	0	0	1	0	0
指標・実績③	耐震改修工事件数	件	1	0	0	1	0
指標・実績④	外壁改修工事件数	件	1	0	0	1	0
指標・実績⑤	改築工事件数	件	0	0	0	1	0
指標・実績⑥	屋根改修工事件数	件	0	0	0	1	0
指標・実績⑦	工事監理委託件数	件	1	0	0	1	0
指標・実績⑧	耐震ブレース新設数	面	13	0	0	4	0
指標・実績⑨	耐震壁新設数	面	44	0	0	0	0
指標・実績⑩	設計変更回数	回	1	0	0	1	0
成果指標	対象中学校（耐震改修）	校	1	0	0	1	0

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	耐震化されていない学校施設を計画的に整備する必要がある。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	大型事業推進プランに基づき、計画的に耐震化事業を進める。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		地震に対して倒壊等の危険性がある校舎等の耐震改修を行うことにより、安全・安心な教育環境を整備する。	

事務事業名		小学校耐震化改修事業				
区分	No.	名称			部・グループ	教育委員会総務G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち			会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む			開始年度	平成 22 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり			終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実			事業区分	ハード事業
主要な施策	2	児童生徒の安全確保			大型事業推進プラン	登載事業

目的	地震に対して倒壊等の危険性がある校舎等の耐震改修を行うことにより、安全・安心な教育環境を整備することを目的とする。	前回評価	維持
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 耐震診断（2次診断）の結果を踏まえて学校施設の耐震性を確保するため、実施設計を行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 【平成29年度実施事業】 ・幌別西小学校校舎耐震改修・改築工事実施設計委託 ・富岸小学校校舎耐震改修工事実施設計委託	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 学校教育法、建物等の耐震改修の促進に関する法律、地震防災対策特別措置法	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 市内小学校

P l a n n o （財源内訳）	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算	
	国庫支出金	学校施設環境改善交付金	千円	32,254	30,391			52,275	
	道支支出金		千円						
	地方債	学校教育施設等整備事業	千円	40,400	39,700	17,000	17,000	11,500	234,700
	その他		千円						
	一般財源		千円	3,491	3,371	5,705	5,705	3,923	4,082
	合計			76,145	73,462	22,705	22,705	15,423	291,057

事務事業の成果・改善の状況【Do】

耐震診断（2次診断）の結果を踏まえて、耐震補強などにより学校施設の耐震化等を行う。

【平成29年度実施事業】

- 幌別西小学校校舎耐震改修・改築工事実施設計委託 9,666,000円
- 富岸小学校校舎耐震改修工事実施設計委託 5,756,400円

合計 15,422,400円

※ 今後実施を予定している工事は次のとおり。  
幌別西小学校校舎耐震改修工事（Ⅱ期）、幌別西小学校校舎（レンガ棟）解体工事、幌別西小学校渡り廊下改築工事、幌別西小学校校舎耐震改修工事監理委託（Ⅱ期）、幌別西小学校校舎（レンガ棟）解体・渡り廊下改築工事監理委託、登別小学校校舎耐震改修工事、登別小学校校舎大規模改造（外壁）工事、登別小学校校舎大規模改造（屋根）工事、登別小学校校舎耐震改修工事監理委託、幌別東小学校校舎耐震改修工事実施設計委託

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標の区分	指標の名称						
指標・実績①	耐震診断業務委託件数	件	2	0	0	0	0
指標・実績②	実施設計委託件数	件	1	0	0	2	1
指標・実績③	耐震改修工事件数	件	0	1	0	0	2
指標・実績④	外壁改修工事件数	件	0	1	0	0	2
指標・実績⑤	工事監理委託件数	件	0	1	0	0	2
指標・実績⑥	防水改修工事件数	件	0	1	0	0	1
指標・実績⑦	屋外避難階段取替工事件数	件	0	1	0	0	0
指標・実績⑧	受水槽更新工事件数	件	0	0	1	0	0
指標・実績⑨	耐震ブレース新設数	面	0	15	0	0	9
指標・実績⑩	耐震壁新設数	面	0	24	0	0	10
成果指標	対象小学校（耐震改修）	校	0	1	1	0	2

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
（事務事業の実施における課題点等）		
【1次評価】	耐震化されていない学校施設を計画的に整備する必要がある。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	大型事業推進プランに基づき、計画的に耐震化事業を進める。	
【3次評価】		
継続		今後の方向性【Plan】 地震に対して倒壊等の危険性がある校舎等の耐震改修を行うことにより、安全・安心な教育環境を整備する。

事務事業名		登別市特別支援教育振興協議会交流学習事業補助金		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 15 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	4	特別支援教育体制づくり	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	心身に障がいのある児童生徒の能力と個性を伸ばし、将来における社会人としての自立と社会参加を促すことを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 特別支援教育の指導内容の研究・交流学習に必要な経費の一部を補助した。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・登別市特別支援教育振興協議会からの補助金の申請に基づき、事業計画等を確認し、補助金を交付する。 ・事業終了後、事業報告及び収支決算書を審査し、標記事業が適正に執行されたか確認する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 登別市特別支援教育振興協議会

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	357	362	362	362	362	365
	合計		357	362	362	362	362	365

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
特別支援教育の指導内容の研究・交流事業等を実施した。 【事業実績】 ・小中学校特別支援学級の合同学習を通じた交流事業 ・全道研究集会への参加 ・地区研修交流会への参加 ・地区会報の発行	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	協議会事業（小中学校特別支援学級合同学習を通じた交流事業の実施回数）	回	7	7	7	7	7
指標・実績②	登別市特別支援教育振興協議会 予算額	千円			415	430	430
指標・実績③	登別市特別支援教育振興協議会 決算額	千円			413	429	429
指標・実績④	特別支援教育振興協議会交流学習事業補助金の費目ごと内訳 交通費	千円	246	225	265	176	176
指標・実績⑤	特別支援教育振興協議会交流学習事業補助金の費目ごと内訳 学習費	千円	20	42	1	101	101
指標・実績⑥	特別支援教育振興協議会交流学習事業補助金の費目ごと内訳 研修費	千円	3	17	23	18	18
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	登別市特別支援教育振興協議会会員数	人			51	56	56

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	事業実施中に不断の事務改善に努めており、現在のところ特に課題となる状況はない。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】 行政評価会議及び総合
継続	事業の継続を図り、引き続き特別支援教育の充実を図っていく。
【3次評価】	今後の方向性【Plan】 障がいのある児童生徒の自立と社会参加能力向上のため、特別支援教育の振興を図る。
継続	

事務事業名		特別支援教育就学奨励費（小学校）		
区分	No.	名称		部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち		教育委員会学校教育G
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む		一般会計
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり		開始年度 昭和 45 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実		終了年度 平成 ー 年度
主要な施策	4	特別支援教育体制づくり		事業区分 ソフト事業
				大型事業推進プラン 非登載事業

目的	特別支援学級に就学する児童の保護者の経済的支援を行うことを目的とする。	前回評価	継続
----	-------------------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 特別支援学級に就学する児童の保護者に一部経費を援助し、保護者の経済的負担を減らす。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 9月～10月頃に特別支援学級に就学する保護者より申請を受け、翌年2月頃に対象となった保護者へ支給を行う	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 教育基本法（第4条）、学校教育法第19条、登別市就学援助事務処理運用基準	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 特別支援学級に在籍している児童の保護者

P l a n n o （ 財 源 内 訳 ） 事 業 費	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	特別支援教育就学奨励費補助金		千円	745	479	956	956	722
道支支出金			千円						
地方債			千円						
その他			千円						
一般財源			千円	1,012	479	957	957	723	908
	合 計			1,757	958	1,913	1,913	1,445	1,815

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
特別支援学級の就学に必要な経費の一部を援助した。 【補助内容】 学校給食費、通学に要する交通費（通学費）、交流及び共同学習に要する交通費、修学旅行費、校外活動等参加費、学用品等購入費、新入学児童生徒学用品費等	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	特別支援教育就学奨励費 支給対象費目数	費目	7	7	7	7	7
指標・実績②	特別支援教育就学奨励費のうち学校給食費	千円	799	800	708	1,024	1,024
指標・実績③	特別支援教育就学奨励費のうち通学費	千円	0	4	0	0	0
指標・実績④	特別支援教育就学奨励費のうち修学旅行費	千円	71	101	30	85	85
指標・実績⑤	特別支援教育就学奨励費のうち校外活動等参加費	千円	13	6	8	8	8
指標・実績⑥	特別支援教育就学奨励費のうち学用品等購入費	千円	183	183	162	235	235
指標・実績⑦	特別支援教育就学奨励費のうち新入学児童学用品費	千円	72	31	52	82	82
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	特別支援教育就学奨励費 対象児童数	人	32	34	30	41	41

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	事業実施中に不断の事務改善に努めており、現在のところ特に課題となる状況はない。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	今後も、特別支援学級に在籍している児童の保護者に対して、適切な援助をし、保護者の経済的負担を減らす。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		特別支援教育の普及奨励を図るため、特別支援学級に在籍している児童の保護者に対して、適切な援助を行う。	

事務事業名	特別支援教育就学奨励費（中学校）
-------	------------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	昭和 45 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	4	特別支援教育体制づくり	大型事業推進プラン	非登録事業

目的	特別支援学級に就学する生徒の保護者の経済的支援を行うことを目的とする。	前回評価	継続
----	-------------------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 特別支援学級に就学する生徒の保護者に一部経費を援助し、保護者の経済的負担を減らす。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 9月～10月頃に特別支援学級に就学する保護者より申請を受け、翌年2月頃に対象となった保護者へ支給を行う	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 教育基本法（第4条）、学校教育法第19条、登別市就学援助事務処理運用基準	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 特別支援学級に在籍している生徒の保護者

P l a n n o	事業費 (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
		国庫支出金	特別支援教育就学奨励費補助金	千円	665	575	503	503	444
道支支出金		千円							
地方債		千円							
その他		千円							
一般財源		千円	756	575	503	503	443	720	
合計				1,421	1,150	1,006	1,006	887	1,440

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
特別支援学級への就学に必要な費用の一部を援助した。 【補助内容】 学校給食費、通学に要する交通費（通学費）、職場実習に要する交通費（職場実習交通費）、交流及び共同学習に要する交通費、修学旅行費、校外活動等参加費、学用品等購入費、新入学児童生徒学用品費等	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	特別支援教育就学奨励費 支給対象費目数	費目	7	7	7	7	7
指標・実績②	特別支援教育就学奨励費のうち学校給食費	千円	511	442	617	501	501
指標・実績③	特別支援教育就学奨励費のうち修学旅行費	千円	170	113	171	114	114
指標・実績④	特別支援教育就学奨励費のうち校外活動等参加費	千円	14	18	11	24	24
指標・実績⑤	特別支援教育就学奨励費のうち学用品等購入費	千円	195	168	235	190	190
指標・実績⑥	特別支援教育就学奨励費のうち新入学生徒学用品費	千円	83	48	118	59	59
指標・実績⑦	特別支援学級数	学級	10	10	11	11	12
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	特別支援教育就学奨励費 対象生徒数	人	18	15	21	17	17

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	事業実施中に不断の事務改善に努めており、現在のところ特に課題となる状況はない。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	今後も、特別支援学級に在籍している生徒の保護者に対して、適切な援助をし、保護者の経済的負担を減らす。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		特別支援学級の普及奨励を図るため、特別支援学級に在籍している生徒の保護者に対して適切な援助を行う。	

事務事業名		特別支援教育推進経費（小学校）		
区分	No.	名称		部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち		教育委員会学校教育G
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む		一般会計
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり		開始年度 平成 15 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実		終了年度 平成 ー 年度
主要な施策	4	特別支援教育体制づくり		事業区分 ソフト事業
				大型事業推進プラン 非登載事業

目的	心身に障がいのある児童の自立や社会参加を促進することを目的とする。	前回評価	継続
----	-----------------------------------	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 特別支援学級に在籍する児童の状況に即した教育環境を整備する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 特別支援学級が日常的に必要なとする物品等の購入に係る予算を各小学校へ配分する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 教育基本法、学校教育法	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 特別支援学級に在籍している児童

P l a n D o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	1,456	1,441	1,453	1,453	1,254	1,160
	合 計		1,456	1,441	1,453	1,453	1,254	1,160

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
特別支援学級を設置し、児童一人ひとりの教育的ニーズを踏まえて、自立や社会参加に向けて必要な支援を行った。	
【事業実績】	
・市内小学校における特別支援学級	
知的障害、肢体不自由、自閉症・情緒障害	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	特別支援学級児童数	人	48	50	56	75	75
指標・実績②	特別支援学級設置学校数	校	7	8	8	8	8
指標・実績③							
指標・実績④							
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	特別支援学級数	学級	15	19	21	22	20

課題等の状況【Check】		
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	特別支援学級に在籍する児童一人ひとりの教育的ニーズに対応するためには、一貫して支援を継続していく必要がある。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】 本事業は教育の機会均等の理念に基づくことから、今後も継続して支援を講ずる。	行政評価会議及び総合
継続		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】 児童の状況に即した教育環境を更に整備し、特別支援教育の推進を図る。
継続		

事務事業名 特別支援教育推進経費（中学校）

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 15 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	4	特別支援教育体制づくり	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	心身に障がいのある生徒の自立や社会参加を促進することを目的とする。	前回評価	継続
----	-----------------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 特別支援学級に在籍する生徒の状況に即した教育環境を整備する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 特別支援学級が日常的に必要なとする物品等の購入に係る予算を各中学校へ配分する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 教育基本法、学校教育法	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 特別支援学級に在籍している生徒

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	840	804	660	660	544	873
	合 計		840	804	660	660	544	873

事務事業の成果・改善の状況【Do】

特別支援学級を設置し、生徒一人ひとりの教育的ニーズを踏まえて、自立や社会参加に向けて必要な支援を行った。

【事業実績】

- 市内中学校における特別支援学級

知的障害、肢体不自由、自閉症・情緒障害

指標の状況【Check】		指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	特別支援学級生徒数	人	26	29	32	29	29	
指標・実績②	特別支援学級設置学校数	校	4	4	5	5	5	
指標・実績③								
指標・実績④								
指標・実績⑤								
指標・実績⑥								
指標・実績⑦								
指標・実績⑧								
指標・実績⑨								
指標・実績⑩								
成果指標	特別支援学級数	学級	10	10	11	11	11	

課題等の状況【Check】		課題等の状況	財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	特別支援学級に在籍する生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応するためには、一貫して支援を継続していく必要がある。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	本事業は教育の機会均等の理念に基づくことから、今後も継続して支援を講ずる。		
【3次評価】			
継続		今後の方向性【Plan】	生徒の状況に即した教育環境を更に整備し、特別支援教育の推進を図る。



事務事業名		言語障害通級指導教室運営経費				
区分	No.	名称			部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち			会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む			開始年度	昭和 59 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり			終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実			事業区分	ソフト事業
主要な施策	4	特別支援教育体制づくり			大型事業推進プラン	非登載事業

目的	言語障がい児教育の充実・伸展を図ることを目的とする。	前回評価	拡大
----	----------------------------	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 言語障がい児教育のさらなる充実を図る。						
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ことばの教室で必要とされる各種物品等の購入、指導員の研修旅費の支給等ことばの教室運営のサポートを行う。						
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 教育基本法（第4条）、学校教育法第19条、登別市就学援助事務処理運用基準	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) ことばの教室				
P l a n D o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	179	152	761	761	723	1,060
	合計		179	152	761	761	723	1,060

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

- ・言語治療を必要とする幼児児童を対象に、ことばの教室を開設し、幼児部・小学部の入級判定や保護者との教育相談、言語指導を行った。
- ・平成30年度より鷺別小学校に開設されることばの教室の備品整備を行った。

【指導時間】 週当たり1時間児童51人、週当たり2時間児童11人、週当たり3時間児童3人

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	通級人数（幼児部）	人	43	44	42	41	41
指標・実績②	通級人数（小学部）	人	56	62	66	65	65
指標・実績③	運営経費のうち研修旅費	千円	11	18	22	18	18
指標・実績④	通級児童のうち週あたり1時間通級の児童数	人	56	57	63	51	51
指標・実績⑤	通級児童のうち週あたり2時間通級の児童数	人	0	3	3	11	11
指標・実績⑥	通級児童のうち週あたり3時間通級の児童数	人	0	2	2	3	3
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	『ことばの教室』設置箇所数	箇所	1	1	1	1	2

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	幌別小学校にしか通級児童教室がなく、鷺別方面から通う家庭の負担となっている。
拡大	
【2次評価】	今後の取組【Action】
拡大	行政評価会議及び総合
【3次評価】	今後の方向性【Plan】
拡大	言語治療を必要とする幼児・児童の個別指導への環境を整えながら、言語障がい教育の充実を図る。

事務事業名		登別市教育研究会運営事業費補助金				
区分	No.	名称				部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち				教育委員会学校教育G
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む				一般会計
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり				開始年度 昭和 45 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実				終了年度 平成 ー 年度
主要な施策	5	教員の資質の向上				事業区分 ソフト事業
						大型事業推進プラン 非登載事業

目的	教職員の職務遂行上必要な専門性の維持向上を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	----------------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 教職員の職務遂行上必要な専門性の維持向上を図るための活動に必要な経費の一部を助成する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・登別市教育研究会より補助金の交付申請に基づき、事業計画等を確認し、補助金を交付する。 ・事業終了後、事業報告及び収支決算書を審査し、標記事業の適正執行について確認する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別市教育研究会

P l a n n o	事業費 (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
		国庫支出金	千円						
道支支出金	千円								
地方債	千円								
その他	千円								
一般財源	千円		600	600	600	600	600	600	
合計				600	600	600	600	600	

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

教職員等により構成される登別市教育研究会に対し、各部会活動や研修会等の活動に要する経費の一部を補助した。

【教育研究会の活動実績】

- ・研究部会の開催（計4回）

14部会（事務、養護、進路指導、コンピュータ、特別支援教育、道徳、英語、保健体育、図工・美術、音楽、理科、算数・数学、社会、国語）

- ・運営委員会の開催（計3回）
- ・道内視察研修（参加人数3人）

**指標の状況【Check】**

指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	研究部会数	部会	14	14	14	14	14
指標・実績②	運営委員会 開催回数	回	4	4	3	3	3
指標・実績③	登別市教育研究会 年間予算額	千円	1,456	1,443	1,445	1,467	1,467
指標・実績④							
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	研究部会実施回数（14部会）	回	5	5	4	4	4

**課題等の状況【Check】**

(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）

【1次評価】	事業実施中に不断の事務改善に努めており、現在のところ特に課題となる状況はない。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	今後も事業の継続を図り、教職員の知識、指導力等の資質向上を推進していく。	
【3次評価】		
継続		今後の方向性【Plan】 教職員の知識、指導力等の資質向上を図ることは市全体の教育レベルの向上につながるため、引き続き、登別市教育研究会の活動を支援する。

事務事業名	教育実践研究奨励事業				
-------	------------	--	--	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会学校教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	昭和 45 年度
施策	2	地域に根ざした魅力ある学校づくり	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	3	教育環境の充実	事業区分	ソフト事業
主要な施策	5	教員の資質の向上	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	実践奨励校において教育実践研究を実施し、その成果を小中学校で共有することにより、教育レベルの向上を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 公開研究会等において結果の共有を行い、教職員の資質向上と学校教育の充実を図る。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・新規に実践奨励校を募集し、4月中を目途にそれぞれ実践奨励校として指定する。 ・実践奨励校ごとに研究主題に沿った研究の成果を作成する研究紀要に係る費用を負担する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市教育実践研究奨励校実施要項	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 教職員

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初	H28決算	H29当初	H29最終	H29決算	H30当初
			予算		予算	予算		予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	525	345	521	521	275	476
	合 計		525	345	521	521	275	476

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

実践奨励校ごとに研究主題を定め、その成果を公開研究会で発表するとともに、研究紀要を作成した。

【事業実績】

- 実践奨励校（原則2か年とし、登別市教育委員会が指定）  
平成29年度 10校  
(新規) 幌別西小学校、青葉小学校、鶯別小学校、若草小学校、幌別中学校、登別中学校  
(継続) 幌別小学校、幌別東小学校、登別小学校、緑陽中学校
- 実践奨励校における研究内容  
実践奨励校は、学校独自又は近隣校と共同で組織的、計画的に研究を行う。研究の領域・分野は、学習指導、道徳教育、教育課程など17分野から選択し実施する。  
平成29年度は7校が「学習指導」、3校が「道徳教育」を研究主題に取り上げ、研究に取り組んだ。

**指標の状況【Check】**

指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	研究紀要にかかる経費のうち印刷製本に要する経費	千円	298	420	345	275	275
指標・実績②							
指標・実績③							
指標・実績④							
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	実践研究奨励校数	校	9	10	10	10	10

**課題等の状況【Check】**

(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）

【1次評価】	教育の振興、教育内容・方法の改善や充実のためには、今後も継続して取組を進める必要がある。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】 公開研究会等において結果の共有を行い、教職員の資質向上と学校教育の充実を図る。
継続		

事務事業名		少年の主張大会				
区分	No.	名称				部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち				教育委員会社会教育G
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む				会計種別 一般会計
施策	3	青少年が健やかに地域で育つ環境づくり				開始年度 昭和 58 年度
基本的な方向	1	地域との連携による青少年の健全育成				終了年度 平成 ー 年度
主要な施策	1	青少年の健全育成				事業区分 ソフト事業 大型事業推進プラン 非登載事業

目的	子どもたちが、論理的に考える力や自分の考えを正しく理解してもらい、広い視野と柔軟な発想、創造性を身につけるとともに、青少年の健全育成に対する市民の理解を得ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 登別市内の中学生を対象とした意見主張の場として少年の主張大会を実施する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・開催要項を作成し、市内中学校より代表者2名の選出を依頼する。 ・広報5月号で、事業の周知を図る。 ・開催当日の準備、運営を行う。 ・最優秀者が登別市の代表として、胆振地区大会へ出場する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 市内中学生

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	27	27	27	27	27	27
	合計			27	27	27	27	27

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
中学生が日常生活での体験や日ごろ考えていることなどについて発表を行う少年の主張大会を開催した。 【事業実績】 ・開催日：6月6日（火） 場所：緑陽中学校	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	胆振地区大会参加人数	人	1	1	1	1	1
指標・実績②	全道大会参加人数	人	0	0	0	0	1
指標・実績③							
指標・実績④							
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	発表者人数	人	12	12	12	12	12

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
【1次評価】	・青少年が社会に向けての意見、未来への希望などを発表する機会作りの一助となった。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	引き続き、青少年の意見主張の場として少年の主張大会を実施する。
【3次評価】	
継続	今後の方向性【Plan】 登別市内の中学生を対象とした意見主張の場として少年の主張大会を実施する。

事務事業名	成人祭
-------	-----

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	昭和 29 年度
施策	3	青少年が健やかに地域で育つ環境づくり	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	地域との連携による青少年の健全育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	青少年の健全育成	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	新成人を祝い励ますことにより、新成人の大人としての意識の向上を図ることを目的とする。	前回評価	維持
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 新成人を祝い励ますため、時勢に合った成人祭を開催する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・開催要項を定め、各種団体等へ実行委員の推薦を依頼し、実行委員会を組織する。 ・実行委員会において、成人祭の企画立案を行い、運営方法等について協議する。 ・開催当日に向けての事前準備を行う。 ・実行委員会を中心に、成人祭当日の受付や進行を行う。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別市の新成人

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	378	173	279	279	231	275
	合計		378	173	279	279	231	275

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
市内に勤務する青年や専門学校生、高校生で組織する登別市成人祭実行委員会の主催により成人祭を開催した。	
【事業実績】	
・開催日	1月7日（日）
・場所	登別市民会館
・出席者数	368人（対象者544人、出席率67.64%）
・事業内容	第一部 式典(市長等式辞/議長祝辞/二十歳の誓い) 第二部 アトラクション(卒業中学校担任等ビデオレター/卒業中学校対抗ゲーム/抽選会/集合写真)

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	成人該当者数（全体）	人	561	594	564	544	544
指標・実績②	成人該当者数（男性）	人	314	346	287	268	268
指標・実績③	成人該当者数（女性）	人	247	248	277	276	276
指標・実績④	成人祭参加者数（全体）	人	375	340	361	368	368
指標・実績⑤	成人祭参加者数（男性）	人	197	192	164	160	160
指標・実績⑥	成人祭参加者数（女性）	人	178	148	197	208	208
指標・実績⑦	成人祭実行委員数	人	15	13	15	17	17
指標・実績⑧	成人祭実行委員会開催数	回	6	6	6	6	6
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	成人祭参加率	%	66.8	57.2	64.0	67.0	67.0

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・実行委員会の企画、運営により時勢に合った成人祭を開催することができた。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・引き続き実行委員会を中心とし、時勢に合った成人祭を開催する。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		新成人を祝い励ますため、時勢に合った成人祭を開催する。	

事務事業名		子ども会活動振興助成金		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	昭和 62 年度
施策	3	青少年が健やかに地域で育つ環境づくり	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	地域との連携による青少年の健全育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	青少年の健全育成	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	子どもたちの「生きる力」と健全な心身の育成を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	-----------------------------------	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 子どもたちの健全育成のために活動する登別市子ども会育成連絡協議会を支援する	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・登別市子ども会育成連絡協議会からの助成金交付申請の内容を確認し、助成金を交付する。 ・同団体からの実績報告に基づき、助成金が目的に沿って活用されているか確認する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別市子ども会育成連絡協議会

P l a n D o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	830	830	830	830	830	830
	合計			830	830	830	830	830

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
子どもたちの健全育成のために活動する登別市子ども会育成連絡協議会に対して、その活動に要する経費の一部を助成した。 【協議会の自主事業実績】 ・加盟団体数 40団体（7地区連） ・主な活動内容 育成者研修会 11月18日（土） 参加人数 50人 かるた大会 1月14日（日） 参加人数 40人	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	育成者研修会 参加人数	人	0	0	30	50	50
指標・実績②	かるた大会 参加人数	人	12	40	40	40	40
指標・実績③	機関誌「登子連紙」発行回数	回	2	2	3	3	3
指標・実績④	子ども会事業参加者数	人	148	265	181	172	190
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	子ども会加入者数	人	2,227	2,214	2,071	2,025	2,300

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・本助成金に係る交付要綱がないため、助成対象事項が明確でないほか、事務決裁等に時間を要した。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	・事務の負担軽減と、より適切な助成金の交付を図るため、助成金の交付要綱を策定する。
【3次評価】	行政評価会議及び総合
継続	記載のとおり助成金の交付要綱を策定してください。
	今後の方向性【Plan】
	子どもたちに生きる力と健全な心身の育成を図るため、登別市子ども会育成連絡協議会を支援する。

事務事業名 登別市学校支援地域本部事業

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む	開始年度	平成 23 年度
施策	3	青少年が健やかに地域で育つ環境づくり	終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	1	地域との連携による青少年の健全育成	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	青少年の健全育成	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	地域で学校をサポートするシステムを構築することにより、地域教育力の向上を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目 標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 地域の特色を生かし、各校の要望に合わせた支援活動を実施する	
	計 画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・登別市学校支援地域本部実行委員会への委託により、各中学校区において地域の特色を生かした学校支援を行う。	
	根 拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 「学校支援地域本部事業」実施委託要綱	対 象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 市内小中学生

P l a n D o (財源内訳)	名 称		単 位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	学校支援地域本部事業補助金		千円					
道支出金			千円	1,426	1,144	1,425	1,425	1,104	1,374
地方債			千円						
その他			千円						
一般財源			千円	1,615	1,524	1,614	1,614	1,660	1,588
合 計				3,041	2,668	3,039	3,039	2,764	2,962

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

学校支援地域本部実行委員会を中心に、学校・家庭・地域が連携して各中学校区で地域の特色を生かした学校支援事業を実施した。

【実施内容】  
ふれあい農園、世代間交流、音楽を楽しむ会等

指標の状況【Check】									
指標の区分	指標の名称	単 位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標		
指標・実績①	ボランティア登録者数	人	43	103	125	132	150		
指標・実績②	年間活動日数	日		118	206	294	300		
指標・実績③	世代間交流実施回数	回		8	7	8	8		
指標・実績④									
指標・実績⑤									
指標・実績⑥									
指標・実績⑦									
指標・実績⑧									
指標・実績⑨									
指標・実績⑩									
成果指標	学校支援地域事業参加者数	人	4,231	5,049	6,012	5,620	5,200		

**課題等の状況【Check】**

(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討(補助金・交付金の活用等)

【1次評価】	・学校、家庭、地域の連携により、学校支援活動の充実が図られている。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	・多くの地域の方の協力のもと、引き続き学校支援活動の充実を図るとともに、支援から連携・協働へ発展するよう取り組みを進める。	地域が協力し、より学校支援活動の充実が図れるよう事業内容を検討してください。
【3次評価】	・地域学校協働活動を実施、継続するためにはコーディネーターを核として活動を推進することになる。今後はよりきめ細かに地域の実情を把握し、将来を見据えて取り組みを進める必要があることから、コーディネーターをサポートする人材の確保、育成が急務である。	今後の方向性【Plan】 地域の特色を生かし、各校の要望に合わせた支援活動を実施する。
拡大		

事務事業名		青少年育成指導経費				
区分	No.	名称				部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち				教育委員会社会教育G
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む				会計種別 一般会計
施策	3	青少年が健やかに地域で育つ環境づくり				開始年度 昭和 37 年度
基本的な方向	1	地域との連携による青少年の健全育成				終了年度 平成 ー 年度
主要な施策	2	非行などの未然防止				事業区分 ソフト事業 大型事業推進プラン 非登載事業

目的	青少年非行の未然防止を図り、青少年が健やかに育つ環境を構築するとともに、模範となる青少年の健全育成を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目 標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 青少年非行防止を図るため青少年センターを運営する							
	計 画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・地域ごとに計画的な指導活動を実施する。 ・地域、関係機関、団体との連携を強め、青少年非行防止、早期発見などに努める。 ・有害環境の把握に努めるとともに地域との連携を図り、浄化活動を推進する。 ・関係機関等との青少年の問題行動に関する情報共有を図る。 ・不審者、変質者に対する情報収集、連絡体制及び巡回体制の強化を図る。 ・「こども110番スタディちゃんの家」の拡充							
	根 拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 地方青少年問題協議会法、登別市青少年問題協議会設置条例、登別市青少年問題協議会設置条例施行規則、登別市青少年センター設置及び運営に関する要綱	対 象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 青少年センター					
P l a n D o (財源内訳) 事業費	名 称		単 位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
	道支出金		千円						
	地方債		千円						
	その他		千円						
	一般財源		千円	790	636	782	782	625	785
合 計				790	636	782	782	625	785

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
青少年センターを運営し、専任指導員や青少年指導委員による巡回等を行った。 鷺別・緑陽中学校区、明日・西陵・幌別・登別中学校区の2区分による通常巡回。 【事業実績】 ・青少年センター 青少年支援員 1人 専任指導員 1人 青少年指導委員 58人 ・青少年問題協議会委員 13人 ・活動内容 青少年センター巡回活動 371日 特別巡回 54日 こども110番スタディちゃんの家登録数 459件	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単 位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	通常巡回回数	日	394	435	417	371	415
指標・実績②	特別巡回回数	日	42	57	66	54	55
指標・実績③	児童生徒の街頭指導件数	件	231	153	110	119	164
指標・実績④	不審者等出没件数及び児童生徒被害件数	件	22	29	30	12	27
指標・実績⑤	万引き件数（小・中学生）	件	5	14	10	10	9
指標・実績⑥	こども110番スタディちゃんの家登録数	件	470	472	462	459	468
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	青少年センターによる巡回回数（平成32年目標：900回）	回	889	936	906	673	910

課題等の状況【Check】		
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	・地域、関係機関、団体との連携により、青少年非行や犯罪被害等の未然防止が図られている。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	青少年非行や犯罪被害等の未然防止に向け、地域や関係団体と連携を図りながら引き続き巡回等を実施する。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
継続		青少年非行防止を図るため青少年センターを運営する



事務事業名	登別市文化振興助成金
-------	------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む	開始年度	昭和 45 年度
施策	1	市民の文化・芸術活動の育成・支援	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	市民文化活動の活性化	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	多様な文化活動の機会の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	地域に根ざした文化振興活動を行う文化団体を支援することにより、市民が文化に親しむことのできるまちづくりの推進を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 登別市文化協会を支援することで、市民が文化に親しむことのできるまちづくりを目指す。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・登別市文化協会からの申請に対し、内容の精査を行い、助成金を交付する。 ・同団体からの実績報告に基づき、助成金が目的に沿って活用されているかを精査し、助成額を確定する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別市文化協会

P l a n D o 事業費 (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	800	800	800	800	800	800
	合計		800	800	800	800	800	800

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
登別市における文化の振興と裾野拡大のために活動を行う登別市文化協会に対して、その活動に要する経費の一部を助成した。 【登別市文化協会の活動】 ・加盟団体数：29団体 1,107人 ・事業内容：主催・主管事業：機関誌・文芸誌の発刊（年1回）等 共催事業：第53回市民文化祭等 企画事業：市民活動センターへの企画（のぼりん文化講座への協力）等	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	登別市文化協会 会員数	人	1,340	1,188	1,211	1,107	1,100
指標・実績②	市民文化祭参加団体数	団体	18	22	20	23	19
指標・実績③	文芸「のぼりべつ」発刊部数	部	300	300	300	300	300
指標・実績④	登別市文化協会機関誌発行回数	回	1	1	1	1	1
指標・実績⑤	日本工学院観光ビジネス科「日本文化講座」実施数	回	0	0	0	15	15
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	登別市文化協会 加盟団体数	団体	32	29	29	29	29

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・本助成金に係る交付要綱がないため、助成対象事項が明確でないほか、事務決裁等に時間を要した。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・交付要綱を策定する。	本助成金に関する交付要綱を策定してください。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		登別市文化協会を支援することで、市民が文化に親しむことのできるまちづくりを目指す。	

事務事業名	西いぶり定住自立圏文化事業負担金	
-------	------------------	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む	開始年度	平成 9 年度
施策	1	市民の文化・芸術活動の育成・支援	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	市民文化活動の活性化	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	多様な鑑賞事業等の実施	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	市民がより質の高い文化に触れる機会を設けることにより、地域文化の振興を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 平成29年度は室蘭市が主管市として文化事業を実施するため、事業を通して多くの市民に文化に触れる機会を提供する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・4月にいきいきふるさと推進事業助成金の申請を行う。・5月に第1回実行委員会総会を開催する。 ・7月に開催要項を作成する。・8月に市民や関係団体へポスター、チラシ等により周知し、市内販売所へチケットを配布する。 ・9月に第3回定例会においていきいきふるさと推進事業助成金の補正予算要求を行う。 ・10月に公演を実施する ・12月に第2回実行委員会を開催し、共催市へ余剰金を返還する。 ・1月にいきいきふるさと推進事業助成金に係る実績報告書を行う。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 西いぶり定住自立圏文化事業実行委員会会則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 西胆振地域住民

P l a n d o (財源内訳)	事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
		国庫支出金	千円						
道支出金	千円								
地方債	千円								
その他	千円	いきいきふるさと推進事業助成金			470		500	450	500
一般財源	千円			1,000	474	1,000	500	456	500
合計				1,000	944	1,000	1,000	906	1,000

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
西いぶり定住自立圏（登別・室蘭・伊達・豊浦・壮瞥・洞爺湖）で実行委員会を組織し、3市の負担金により輪番で文化事業を行った。	
【事業実績】	
・主管市：室蘭市	
・演目：札幌交響楽団 室蘭公演	
・日程：10月22日	
・会場：室蘭市文化センター大ホール	
・チケット販売実績数：1,260枚（うち来場者：1,175人）	

指標の状況【Check】								
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標	
指標・実績①	実行委員会 開催回数	回	2	2	2	2	2	
指標・実績②	文化事業 広報用ポスター配布数	枚	100	103	100	182	82	
指標・実績③	文化事業 広報用チラシ配布数	枚	25,000	25,000	12,000	8,380	2,500	
指標・実績④	チケット販売実績数	枚	486	381	575	1,260	1,000	
指標・実績⑤	チケット販売実績数（登別市内）	枚	26	26	406	88	90	
指標・実績⑥	来場者数	人	442	381	479	1,175	1,200	
指標・実績⑦								
指標・実績⑧								
指標・実績⑨								
指標・実績⑩								
成果指標	来場者比率(来場者数/座席数)	%	74.0	46.0	45.0	90.0	92.0	

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
【1次評価】	他市が主管市となるため、情報に行き違いがないよう、より連携を取る必要がある。
継続	財源の検討（補助金・交付金の活用等） ・いきいきふるさと推進事業助成金 ・いきいきふるさと推進事業助成金の3年目以降の利用について北海道市町村振興協会に確認したが、事業規模の拡大が条件となっていることから難しいという回答を得た。
	行政評価会議及び総合
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	・主管市と細かに連携を取る。
【3次評価】	今後の方向性【Plan】
継続	事業を通して多くの市民に文化に触れる機会を提供する。

事務事業名		市民会館整備事業				
区分	No.	名称			部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち			会計種別	一般会計
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む			開始年度	平成 22 年度
施策	1	市民の文化・芸術活動の育成・支援			終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	1	市民文化活動の活性化			事業区分	ハード事業
主要な施策	3	文化施設の確保と充実			大型事業推進プラン	登録事業

目的	市民会館の修繕を行うことにより、市民が安全・安心に文化活動を行うことのできる環境の整備を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民が安全・安心に文化活動を行うことのできる環境の整備を図るために、市民会館の修繕を行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 日常点検の結果や利用者のニーズ、施設の老朽化等に対応するために改修等を実施する。 【改修箇所】 市民会館屋外キュービクル	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市民会館条例、登別市民会館条例施行規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別市民会館

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初	H28決算	H29当初	H29最終	H29決算	H30当初
			予算		予算	予算		予算
国庫支出金		千円						
道支出金		千円						
地方債		千円			8,600	6,700	6,700	
その他		千円						
一般財源		千円			2,989	2,297	2,297	28,000
合 計			0	0	11,589	8,997	8,997	28,000

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
老朽化している屋外高圧受電設備内の更新工事を実施した。 【改修箇所】 市民会館屋外キュービクル	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	開館日数	日	359	360	359	359	359
指標・実績②	1日当たりの延べ利用人数	人	186	199	175	151	160
指標・実績③	年間利用件数	件	2,429	2,562	2,234	2,052	2,100
指標・実績④	1日当たりの利用件数	件	6	7	6	5	6
指標・実績⑤	年間減額利用件数	件	384	366	941	887	900
指標・実績⑥	年間免除利用件数	件	1,744	1,882	1,012	902	900
指標・実績⑦	減額・免除率	%	87.0	87.0	87.0	87.0	85.0
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	市民会館年間利用者数	人	67,084	71,806	63,126	54,404	54,000

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
【1次評価】	<p>これまで、緊急的な修繕については公共施設営繕費、老朽化等による交換・修繕については整備事業費で維持管理を行ってきましたが、昭和58年の開館以来33年が経過しており、当初からの設備が更新されていないものもあることから、継続的に施設の長寿命化を図るため計画的な改修が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大ホール音響設備の更新</li> <li>・大ホール舞台照明負荷設備更新</li> <li>・非常照明用蓄電池設備改修</li> </ul>		
【2次評価】	<p>今後の取組【Action】</p>	行政評価会議及び総合	
【3次評価】	<p>これまでの管理状況や修繕状況、市民ニーズなどを踏まえ、緊急性や必要性を考慮し、施設の長寿命化に向けた検討を行う。</p>		
		<p>今後の方向性【Plan】</p> <p>市民が安全・安心に文化活動を行うことのできる環境の整備を図るために、市民会館の修繕を行う。</p>	

事務事業名	児童・生徒文化振興助成金	
-------	--------------	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む	開始年度	平成 7 年度
施策	1	市民の文化・芸術活動の育成・支援	終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	2	文化活動を担う人づくり	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	文化活動との出会いの場づくり	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	文化活動を行う児童生徒の保護者の負担の軽減と、児童生徒の文化の振興を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 児童・生徒の文化振興を図るため、文化活動に係る大会に参加する児童・生徒の支援を行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・申請者からの交付申請に対し、内容の精査を行い、助成金の交付決定または不交付決定を通知する。 ・申請者からの実績報告に基づき、助成金が目的に沿って活用されているかを精査し、助成額を確定する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市児童、生徒文化振興助成金交付要綱	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 市内の小、中学校、高等学校等に在籍する児童生徒又は市内に居住する児童生徒

P l a n D o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	800	797	800	800	493	800
	合 計		800	797	800	800	493	800

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
市内の小・中学校、高等学校等に通う児童生徒又は市内に居住する児童生徒が、全国大会及び全道大会に参加する場合に要する経費の一部を助成した。 【助成実績】 全道大会：13件 全国大会：2件	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	助成件数（全道大会）	件	10	14	9	13	12
指標・実績②	助成件数（全国大会）	件	1	1	1	2	2
指標・実績③	助成件数（国際大会）	件	0	0	0	0	0
指標・実績④	助成人数（全道大会）	人	83	192	140	169	146
指標・実績⑤	助成人数（国際大会）	人	0	0	0	0	0
指標・実績⑥	助成金額（全道大会）	千円	249	576	420	435	423
指標・実績⑦	助成金額（全国大会）	千円	257	33	377	58	166
指標・実績⑧	助成金額（国際大会）	千円	0	0	0	0	0
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	全国大会参加者数（引率含む）	人	18	2	23	5	12

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・申請者からの申請時や実績報告時に提出書類が不足するなど、事務手続きに時間を要した。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	・助成金の手続きについて、市広報紙や市ホームページに改めて掲載し、周知を図るほか、申請者へ交付決定の通知文を送付する際に、実績報告時の手続きに関する通知文を作成し、併せて送付する。
【3次評価】	
継続	今後の方向性【Plan】 児童・生徒の文化振興を図るため、文化活動に係る大会に参加する児童・生徒の支援を行う。

事務事業名	郷土資料館運営管理経費
-------	-------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む	開始年度	昭和 56 年度
施策	2	文化の保存・継承	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	歴史の伝承と活用	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	郷土の歴史を学ぶ場の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	郷土に関する資料を市民に供することにより、ふるさと登別を愛する心を育てることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市内外から郷土に関する資料を収集し、市民が利用しやすい様に整理・保管し、また特別展・企画展を通して郷土の歴史・文化を普及・啓発する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・郷土に関する資料を収集し、目録の作成等整理を行い、適切に保存・管理する。 ・時勢に合わせた特別展を企画・開催する（3回）。 ・郷土資料館ボランティアグループSLGと共同で企画展を開催する。 ・事業の開催にあたってポスター・チラシを作成・配布し、市広報紙及び市ホームページ等を通じて周知を図る。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 郷土資料館条例、郷土資料館条例施行規則	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 郷土資料館利用者

P l a n n o （財源内訳）	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他	郷土資料館入館料	千円	205	178	211	211	181	199
一般財源		千円	2,007	1,815	2,292	2,292	2,242	1,961
	合計		2,212	1,993	2,503	2,503	2,423	2,160

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
郷土の歴史、民俗、産業、文化に関する資料を収集、保管、展示する郷土資料館の運営管理を行った。常設展示の一部入れ替え（アイヌ文化）を行った。 【収集資料】1,008点 【特別展】3回 【企画展】3回 【イベント】わんぱくサムライ体験 【その他】 ・市内外の小中学生の見学受入れ ・さくらウィーク（無料開放期間） ・北海道みんなの日の設定 ・民具等の貸出し 等	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	特別展の開催	回	4	2	2	3	2
指標・実績②	企画展（資料館ボランティアSLG主導）の開催	回	3	3	3	3	3
指標・実績③	特別展来場者数	人	1,982	1,055	877	1,397	1,000
指標・実績④	さくらウィーク中入館者数（桜開花時期の無料入館期間を設定、平成28年度から開催）	人			897	522	557
指標・実績⑤	わんぱくサムライ体験参加者数	人	300	300	200	250	70
指標・実績⑥	北海道みんなの日（1日無料入館）入館者数（平成29年度から設定）	人				33	20
指標・実績⑦	収集資料点数	点	130	1,149	828	1,008	300
指標・実績⑧	博物館実習等の受入人数	人	0	0	1	0	1
指標・実績⑨	民具等貸出し回数（臼・杵等除く）	回	5	6	7	7	7
指標・実績⑩							
成果指標	入館者数	人	3,643	3,437	3,852	3,017	3,500

課題等の状況【Check】			
（事務事業の実施における課題点等）		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・収蔵庫が飽和状態にあることから、寄贈者不明または寄贈者は分かっている資料で、資料の収集基準に合わないものを整理する必要がある。	なし	
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】 ・寄贈者の意向も確認しながら、資料の収集基準に合わない資料の整理を進める。	行政評価会議及び総合	
継続			
【3次評価】		今後の方向性【Plan】 市内外から郷土に関する資料を収集し、市民が利用しやすい様に整理・保管し、また特別展・企画展を通して郷土の歴史・文化を普及・啓発する。	
継続			

事務事業名 文化伝承館運営管理経費

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む	開始年度	平成 8 年度
施策	2	文化の保存・継承	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	歴史の伝承と活用	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	郷土の歴史を学ぶ場の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	郷土の歴史や文化を伝承することにより、市民の教育・文化の向上を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 郷土の歴史や文化を伝承するため、体験事業を実施する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・月に1回程度、郷土資料館ボランティアグループSLGを講師に体験事業を実施する。 ・事業実施にあたって市広報紙で周知を図る。 ・郷土資料館ボランティアグループとともに市内外の小・中学生の体験・見学を受入れる。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市文化伝承館条例、登別市文化伝承館条例施行規則	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 文化伝承館利用者

P l a n n o (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金			千円					
道支出金			千円						
地方債			千円						
その他	文化伝承館体験学習等教材費負担金		千円	64	49	60	60	50	57
一般財源			千円	231	236	259	259	266	870
	合計			295	285	319	319	316	927

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

郷土資料館ボランティアグループSLGの協力を得て郷土の歴史や文化に関する学習会等を開催するなど、文化伝承館の運営管理を行った。

【体験事業】17回  
 ・布ぞうり作り  
 ・べこもち作り  
 ・らくがん作り  
 ・おひな様人形作り 等

指標の状況【Check】		指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	体験事業実施数		回	17	17	15	17	17
指標・実績②	資料館ボランティア数 (SLG会員数)		人	22	19	19	20	20
指標・実績③	ボランティア対応体験・見学受入れ団体数		団体	22	29	21	25	25
指標・実績④	ボランティア対応体験・見学受入れ団体に係る受入れ者数		人	359	554	442	364	430
指標・実績⑤	ボランティア対応体験・見学受入れ小・中学校数		校	10	12	13	10	12
指標・実績⑥	ボランティア対応体験・見学受入れ小・中学校(市外含む)に係る受入れ者数		人	406	534	551	401	475
指標・実績⑦								
指標・実績⑧								
指標・実績⑨								
指標・実績⑩								
成果指標	体験事業参加者		人	242	256	228	254	240

課題等の状況【Check】		課題等の状況	財源の検討 (補助金・交付金の活用等)
【1次評価】	継続	・今後も目的に沿った体験事業を企画し、実施する必要がある。 ・屋上の防水修繕を行う必要がある。	
【2次評価】	継続	今後の取組【Action】 ・郷土資料館ボランティアグループSLGとともに、郷土の歴史や文化を伝承するための体験事業の内容の充実を図る。 ・屋上の防水修繕を実施する。	行政評価会議及び総合
【3次評価】	継続		今後の方向性【Plan】 郷土の歴史や文化を伝承するため、体験事業を実施する。

事務事業名		郷土資料館整備事業				
区分	No.	名称				部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち				教育委員会社会教育G
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む				会計種別 一般会計
施策	2	文化の保存・継承				開始年度 平成 23 年度
基本的な方向	1	歴史の伝承と活用				終了年度 平成 一 年度
主要な施策	1	郷土の歴史を学ぶ場の充実				事業区分 ハード事業 大型事業推進プラン 非登載事業

目的	郷土資料館の整備を行なうことにより、市民が安全・安心に見学することができるとともに、資料を適切に保管することのできる環境の整備を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目 標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民が安全・安心に見学できるよう、老朽化が進む郷土資料館を計画的に整備する。	
	計 画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・昭和56年の開館以来、屋根・外壁等の改修を行っていない状況にあり、利用者の安全性の確保や、開館40年を目標に、利用者の安心・安全及び市民から寄贈・寄託いただいた資料を適切に管理するため、適切な改修を図る。	
	根 拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 郷土資料館条例、郷土資料館条例施行規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 郷土資料館

P l a n D o (財源内訳) 事業費	名 称	単 位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円						
合 計			0	0	0	0	0	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
未実施	

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	特別展の開催	回	4	2	2	3	2
指標・実績②	企画展（資料館ボランティアSLG主導）の開催	回	3	3	3	3	3
指標・実績③	特別展来場者数	人	1,982	1,055	877	1,397	1,000
指標・実績④	さくらウィーク中入館者数（桜開花時期の無料入館期間を設定、平成28年度から開催）	人			897	522	557
指標・実績⑤	わんぱくサムライ体験参加者数	人	300	300	200	250	70
指標・実績⑥	北海道みんなの日（1日無料入館）入館者数（平成29年度から設定）	人				33	20
指標・実績⑦	収集資料点数	点	130	1,149	828	1,008	300
指標・実績⑧	博物館実習等の受入人数	人	0	0	1	0	1
指標・実績⑨	民具等貸出し回数（臼・杵等除く）	回	5	6	7	7	7
指標・実績⑩							
成果指標	入館者数	人	3,643	3,437	3,852	3,017	3,500

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
(事務事業の実施における課題点等)		
【1次評価】	・昭和56年の開館以来、屋根・外壁等の改修を行っていない状況にあり、利用者の安全性の確保や、開館40年を目標に、利用者の安心・安全及び市民から寄贈・寄託いただいた資料を適切に管理するため、適切な改修を図る必要がある。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	・これまでの管理状況や修繕状況、市民ニーズなどを踏まえ、緊急性や必要性を考慮し、施設の長寿命化に向けた検討を行う。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
継続		市民が安全・安心に見学できるよう、老朽化が進む郷土資料館を計画的に整備する。

事務事業名	のぼりべつ文化交流館整備事業
-------	----------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む	開始年度	平成 24 年度
施策	2	文化の保存・継承	終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	1	歴史の伝承と活用	事業区分	ハード事業
主要な施策	1	郷土の歴史を学ぶ場の充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	施設の改修を図ることにより、埋蔵文化財の展示・体験や絵画などの展示、及び集会施設として安全・安心に市民が利用できるよう、環境の整備を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください)	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください)	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入)
		のぼりべつ文化交流館条例、のぼりべつ文化交流館条例施行規則	のぼりべつ文化交流館

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円						
	合 計		0	0	0	0	0	0

事務事業の成果・改善の状況【Do】

未実施

指標の状況【Check】

指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	開館日数	日	199	204	199	200	200
指標・実績②	見学者数	人	1,847	1,579	1,517	1,759	1,600
指標・実績③	貸館利用者数	人	1,058	1,735	1,555	1,923	1,700
指標・実績④	ガイド対応件数（団体）	件	6	8	8	8	8
指標・実績⑤	ガイド対応件数（学校）	件	8	6	8	4	6
指標・実績⑥	体験学習等開催回数	回	8	7	7	8	8
指標・実績⑦	体験学習等参加者数	人	195	111	222	389	200
指標・実績⑧	ホームページ掲載回数	回	14	20	3	19	15
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	のぼりべつ文化交流館利用者数	人	2,905	3,314	3,072	3,682	3,300

課題等の状況【Check】

（事務事業の実施における課題点等）		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
【1次評価】	<p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常点検等で確認された温泉地区特有の腐食または老朽化等による施設の劣化への対処については、必要性及び緊急性を考慮し最低限の改修を実施し、また緊急を要する場合には公共施設管理費をもって対処してきた。</li> <li>・今後の施設の整備については、緊急を要する状況に迅速に対応するほか、劣化への対応を先送りすることによって事業費が増加することのないよう、施設の状況を見ながら優先順位を判断し適切に整備を進めていく必要がある。</li> </ul>	<p>行政評価会議及び総合</p>
【2次評価】		
【3次評価】		
継続	<p>今後の取組【Action】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの管理状況や修繕状況、市民ニーズなどを踏まえ、緊急性や必要性を考慮し、施設の長寿命化に向けた検討を行う。</li> </ul>	<p>今後の方向性【Plan】</p> <p>埋蔵文化財の展示・体験や絵画などの展示、及び集会施設として安全・安心に市民が利用できるよう施設の改修を行う。</p>



事務事業名	のぼりべつ文化交流館運営管理経費	
-------	------------------	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む	開始年度	平成 19 年度
施策	2	文化の保存・継承	終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	1	歴史の伝承と活用	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	埋蔵文化財の保管、展示施設の整備と学習会の開催	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	埋蔵文化財に接する機会を設けることにより、郷土に対する理解を深めるとともに、作品展示の場を設けることで市民の文化活動を推進することを目的とする。	前回評価	維持
----	--	------	----

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) イベントの開催や作品展示の場を設けることで埋蔵文化財及び文化に触れる機会を提供する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・市内で発掘・出土した埋蔵文化財を適切に保管する。 ・博物館施設として入館者に分かりやすい展示を提供する。 ・各月に縄文文化に触れる体験学習を実施する。 ・市広報紙への掲載のほか、ホームページを充実させ、施設及び事業の周知を図る。 ・補修が必要な箇所を日常的に把握し計画的に補修する。 ・市内外からの施設利用（貸館）に日常的に対応する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) のぼりべつ文化交流館条例、のぼりべつ文化交流館条例施行規則	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 文化交流館利用者、体験学習参加者

Plan Do (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
道支出金		千円							
地方債		千円							
その他	のぼりべつ文化交流館使用料・のぼりべつ文化交流館体験学習等教材費負担金	千円	274	332	274	274	234	241	
一般財源		千円	2,994	2,467	3,198	3,198	3,023	2,605	
	合計		3,268	2,799	3,472	3,472	3,257	2,846	

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
<p>市内で発掘・出土した埋蔵文化財の保管・展示、体験学習、市民の作品展示などを行った。                  【体験学習等】8回                  【ガイド対応】団体8件、市内外学校4件                  【市民による作品展示】登別美術協会主催「会員作品展」開催</p>	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	開館日数	日	199	204	199	200	200
指標・実績②	見学者数	人	1,847	1,579	1,517	1,759	1,600
指標・実績③	貸館利用者数	人	1,058	1,735	1,555	1,923	1,700
指標・実績④	ガイド対応件数（団体）	件	6	8	8	8	8
指標・実績⑤	ガイド対応件数（学校）	件	8	6	8	4	6
指標・実績⑥	体験学習等開催回数	回	8	7	7	8	8
指標・実績⑦	体験学習等参加者数	人	195	111	222	389	200
指標・実績⑧	ホームページ掲載回数	回	14	20	3	19	15
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	のぼりべつ文化交流館利用者数	人	2,905	3,314	3,072	3,682	3,300

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・施設及び事業について徹底した周知が必要。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	・魅力ある博物館づくりのため、事業内容の充実に努めるほか、市広報紙への掲載のほか、ホームページの充実に努め、施設及び事業の周知を図る。
【3次評価】	
継続	今後の方向性【Plan】 イベントの開催や作品展示の場を設けることで埋蔵文化財及び文化に触れる機会を提供する。

事務事業名		市史編さん事業			部・グループ		総務部市史編さんG	
区分	No.	名称			会計種別	一般会計		
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち			開始年度	平成 28 年度		
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む			終了年度	平成 32 年度		
施策	2	文化の保存・継承			事業区分	ソフト事業		
基本的な方向	1	歴史の伝承と活用			大型事業推進プラン	非登載事業		
主要な施策	3	郷土文化・郷土芸能に触れる機会の充実						

目的	郷土に関する有形無形の歴史資料を整理保存するとともに、先人の足跡を長く後世に継承する市史を刊行することにより、郷土・登別に対する市民の理解と関心を深め、今後のまちづくりに資することを目的とする。	前回評価	拡大
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 登別市史編さん委員会において市史の刊行の方法について協議する。また、市史の原稿執筆に向けて有形無形の資料の収集を進める。		
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・登別市史編さん委員会の開催 ・有形無形の資料の収集 ・石碑等に関する情報の収集		
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市史編さん委員会条例（平成28年条例第5号）	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 市内外の団体及び個人

P l a n n o	事業費 (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
		国庫支出金	千円						
道支出金	千円								
地方債	千円								
その他	千円								
一般財源	千円		396	250	1,710	886	665	1,566	
合 計				396	250	1,710	886	665	1,566

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登別市史編さん委員会の会議を開催した。 委員数 10人 開催回数 3回 会議内容 市史の刊行形態、市史の題名等</li> <li>・市史編さんの原稿執筆に要する有形無形の資料を収集した。 市民等に対する個別の聞き取り 延べ98人 市民による昔を語る座談会 10回、69人 写真、文献等の有形資料の収集 331件</li> <li>・石碑等に関する情報の収集 市内にある石碑等の由来等に関する調査を実施した。</li> <li>・市史編さんだよりを発行した。（発行回数：5回）</li> <li>・自然科学分野を中心に原稿の執筆依頼を行った。</li> </ul>	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	市史編さん委員会の年間開催回数	回		-	3	3	4
指標・実績②	市史編さんグループ職員数（正職員）※H27.28実績は総務グループ内での実績	人		3	3	2	2
指標・実績③	市史編さんグループ職員数（臨時・嘱託等）※H27.28実績は総務グループ内での実績	人		1	2	3	3
指標・実績④	市民等に対する聞き取り件数	人		0	148	98	50
指標・実績⑤	市民による昔を語る座談会の開催回数（開催回数）	回		0	6	10	3
指標・実績⑥	市民による昔を語る座談会の開催回数（参加者）	人		0	78	69	15
指標・実績⑦	写真、文献等の有形資料の収集件数	件		58	291	331	100
指標・実績⑧	石碑等に関する調査件数	件		0	108	84	10
指標・実績⑨	市史編さんだよりの発行回数	回		0	1	5	4
指標・実績⑩	市広報紙、新聞等での記事掲載回数	回		0	4	8	12
成果指標	ホームページを活用した情報発信	回		0	2	4	4

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
財源の検討（補助金・交付金の活用等）	

【1次評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が市史編さん事業に取り組んでいることを知らない市民が少なからずいる。</li> <li>・収集した資料を基に平成30年度で原稿の大部分を執筆する必要がある。</li> <li>・すでに原稿執筆を依頼した以外の分野についても、原稿内容の充実を図るため、適任者への原稿執筆や執筆すべき事項についての助言を受ける必要がある。</li> <li>・有形無形の資料の収集は、今後も継続する必要がある。</li> <li>・石碑等の由来等に関する調査は、今後も継続する必要がある。</li> <li>・収集した資料の保管や活用の方法を検討する必要がある。</li> </ul>	地域づくり総合交付金、いきいきふるさと推進事業助成金などの活用を検討する。
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
【3次評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市史編さん事業の取組の周知については、登別市史編さんだよりの発行や市広報紙への連載、市公式ホームページ等を活用した情報発信により引き続き行う。</li> <li>・原稿の執筆については、着手可能な分野から順次取り掛かる。</li> <li>・原稿の執筆や執筆内容への助言については、当該分野に関係する団体等から適任者に関する情報を収集し、適任者に対して原稿の執筆や執筆内容への助言を依頼する。</li> <li>・有形無形の資料の収集については、今後も継続して行う。</li> <li>・石碑等の由来等に関する調査を継続して行う。</li> <li>・教育委員会と資料の保管や活用の方法を協議する。</li> </ul>	<b>今後の方向性【Plan】</b> 市史編さん事業の取組について周知する。また、有形無形の資料の収集を進めるとともに、それに基づいて原稿の執筆を行う。

事務事業名		文化財保護経費		
区分	No.	名称		部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち		教育委員会社会教育G
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む		一般会計
施策	2	文化の保存・継承		開始年度 昭和 45 年度
基本的な方向	1	歴史の伝承と活用		終了年度 平成 ー 年度
主要な施策	3	郷土文化・郷土芸能に触れる機会の充実		事業区分 ソフト事業
				大型事業推進プラン 非登載事業

目的	郷土を形作る文化財の保護と活用を図ることにより、ふるさと登別に対する理解を深め、大切にすることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民がふるさと登別に対する理解を深めることができるよう、文化財の保護と活用を図る。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・市指定文化財の指定に係る事務処理を行う。 ・歴史的つながりのあるマチとの交流の促進事業として宮城県白石市より学芸員2名が来市し、資料調査や講演会を行う。 ・市内の文化財の保護・管理を適宜行う。 ・講座及び講演会を実施する。 ・開発に係る埋蔵文化財の事前協議を行う。 ・天然記念物「登別原始林」等に係る事務手続きを行う。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 文化財保護法、登別市文化財保護条例、登別市文化財保護条例施行規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 市民

P l a n n o (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
道支支出金		千円							
地方債		千円							
その他		千円							
一般財源		千円		407	305	400	400	210	514
	合計			407	305	400	400	210	514

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
市民に対し指定文化財等の周知を図るほか、文化財に関する調査・研究や保護活動を実施するとともに、文化財の活用等を図った。 【実施事業】 ・歴史的つながりのあるマチとの交流の促進 ・市内の文化財の保護・管理 ・講座（縄文文化・アイヌ文化・古文書）・講演 ・埋蔵文化財事前協議 ・史跡名勝天然記念物等の事務手続き 等	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	古文書教室回数	回	4	4	4	4	4
指標・実績②	縄文出前講座回数	回	5	4	4	5	5
指標・実績③	講演等件数	回	7	10	10	6	4
指標・実績④	埋蔵文化財包蔵地数	箇所	33	33	33	33	33
指標・実績⑤	埋蔵文化財保護のための事前協議数	件	2	3	6	6	6
指標・実績⑥	埋蔵文化財包蔵地の照会数	件		12	24	32	25
指標・実績⑦	史跡名勝天然記念物の事務手続き	件	1	1	3	4	4
指標・実績⑧	市内文化財看板数	件	19	19	19	19	19
指標・実績⑨	文化財・歴史に関する問い合わせ対応（調査等）	件			18	11	10
指標・実績⑩							
成果指標	国、道及び市が指定・登録する文化財の数（平成37年目標：13件）	件	7	7	8	8	9

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・市の指定文化財について「旧行政文書」の指定を検討する必要がある。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・市の指定文化財の指定について調書の作成や調査を行い、指定に向けて事務を進める。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		市民がふるさと登別に対する理解を深めることができるよう、文化財の保護と活用を図る。	

事務事業名		アイヌ文化講座経費				
区分	No.	名称			部・グループ	教育部社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち			会計種別	一般会計
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む			開始年度	平成 9 年度
施策	2	文化の保存・継承			終了年度	平成 - 年度
基本的な方向	2	アイヌ文化の振興と連携した取組			事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	伝統芸能、工芸に触れる機会の充実			大型事業推進プラン	非登載事業

目的	アイヌ文化に触れ、学ぶ機会を設けることにより、アイヌ文化に対する理解・関心を深めることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民がアイヌ民族の伝統文化を体験できる場を提供することにより、アイヌ文化への理解・関心を高める。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・ 広報紙によりアイヌ文化講座への参加者を募集する。 ・ 計10回の講座を実施する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 市民

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	280	280	280	280	280	320
合 計			280	280	280	280	320	

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
市民を対象にアイヌ文化講座を開催した。 【アイヌ文化講座の内容】 ・ 内容：アイヌ文様刺繍 ・ 定員25名 ・ 実施回数：10回	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	アイヌ文化講座（制作）開催数	回	10	10	10	10	10
指標・実績②	アイヌ文化講座（制作）参加後のアイヌ文化への関心が高まったか（アンケートより）	%					100
指標・実績③							
指標・実績④							
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	アイヌ文化講座（制作）延参加者	人	134	135	139	238	135

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・ 事業効果を高めるために、他のアイヌ文化関連事業への参加を促す必要がある。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
拡大	・ 参加者へ市で実施する他のアイヌ文化関連事業を案内する。
【3次評価】	行政評価会議及び総合 民族共生象徴空間の開設に合わせ、アイヌ文化への尊重、理解促進に資する事業を検討し、拡大してください。
拡大	今後の方向性【Plan】 引き続き、事業を実施する。

事務事業名		アイヌ民族文化祭補助金				
区分	No.	名称				部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち				教育部社会教育G
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む				会計種別 一般会計
施策	2	文化の保存・継承				開始年度 昭和 63 年度
基本的な方向	2	アイヌ文化の振興と連携した取組				終了年度 平成 ー 年度
主要な施策	2	伝統芸能、工芸に触れる機会の充実				事業区分 ソフト事業 大型事業推進プラン 非登載事業

目的	アイヌ民族の尊厳の確立と文化の保存及び伝承を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	-----------------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 公益社団法人北海道アイヌ協会が主催するアイヌ民族文化祭の経費を一部補助することにより、アイヌ民族の文化を広く道民に紹介し、アイヌ文化の伝承を進める。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・アイヌ民族文化祭2018に係る補助金の交付申請書等を審査し、交付決定する。 ・アイヌ民族文化祭2018に係る補助金の実績報告書等により補助金が適正に処理されているか審査し、補助金額を確定する。 ・交付決定に基づいた請求に対し、補助金を交付する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 公益社団法人北海道アイヌ協会

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	30	30	30	30	30	30
	合計			30	30	30	30	30

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
公益社団法人北海道アイヌ協会に対して、アイヌ民族の文化伝承等を目的に開催されたアイヌ民族文化祭の開催経費の一部を補助した。	
【開催内容】	
・開催日 11月4日	
・開催場所 旭川市	
・内容 アイヌ文化講演、古式舞踊等	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	アイヌ民族文化祭	回			1	1	1
指標・実績②	アイヌ民族文化祭参加人数	人			600	180	180
指標・実績③							
指標・実績④							
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	参加者延人数	人	300	280	600	180	180

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
【1次評価】	アイヌ民族の伝統文化とその継承活動の一端を広く一般的に紹介したことにより、正しい理解が深められ、アイヌ民族の伝統文化の保存と保護思想の普及が図られている。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	アイヌ民族の文化の保存及び伝承を図るため、引き続き公益社団法人北海道アイヌ協会が主催するアイヌ民族文化祭を支援する。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		引き続き支援を行う。	

事務事業名		アイヌ文化普及啓発事業補助金				
区分	No.	名称				部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち				保健福祉部社会福祉G
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む				一般会計
施策	2	文化の保存・継承				開始年度
基本的な方向	2	アイヌ文化の振興と連携した取組				昭和 58 年度
主要な施策	3	市民講座の開催、小・中学校への情報提供				終了年度
						平成 ー 年度
						事業区分
						ソフト事業
						大型事業推進プラン
						非登載事業

目的	アイヌ民族の社会的地位向上と文化の保存及び伝承を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	-------------------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) アイヌ文化の保存・伝承及び発展のため活動する登別アイヌ協会を支援することにより、アイヌ文化の普及啓発を促進する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・平成2728年度アイヌ文化普及啓発事業に係る補助金の実績報告書等により補助金が適正に処理されているか審査し、補助金額を確定する。 ・平成2829年度アイヌ文化普及啓発事業に係る補助金の交付申請書等を審査し、交付決定する。 ・交付決定に基づいた請求に対し、補助金を交付する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別アイヌ協会

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	200	200	200	200	200	200
	合計			200	200	200	200	200

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
アイヌ民族の社会的地位の向上と文化保存伝承活動を行う登別アイヌ協会に対して、運営費の一部を補助した。	
【主な事業】	
・アイヌ民族の文化伝承活動に係る各種行事の開催や文化実践講座の実施等	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	北海道アイヌ協会総会	回	1	1	1	1	1
指標・実績②	胆振地区アイヌ協会総会	回	1	1	1	1	1
指標・実績③	登別アイヌ協会総会	回	1	1	1	1	1
指標・実績④	アイヌ文化普及啓発事業	回	10	10	10	10	10
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	アイヌ民族祭、古式舞踊参加者のべ人数	人	637	605	600	180	180

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・アイヌ民族の社会的地位の向上と文化保存伝承活動を行う登別アイヌ協会に対して、運営費の一部を補助することにより、アイヌ民族の文化の保存及び伝承が図られている。	行政評価会議及び総合	
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】		
【3次評価】	・アイヌ民族の文化の保存及び伝承を図るため、引き続き登別アイヌ協会の活動を支援する。	今後の方向性【Plan】 アイヌ文化の保存・伝承及び発展のため活動する登別アイヌ協会を支援することにより、アイヌ文化の普及啓発を促進する。	
継続			

事務事業名	登別市体育協会助成金
-------	------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	昭和 45 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	スポーツ・レクリエーション活動の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	各団体とのネットワーク化、情報提供	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	市民の健全なスポーツ活動の普及及び発展を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---------------------------------	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民の健全なスポーツ活動の普及及び発展を図るため、登別市体育協会の活動を支援する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・登別市体育協会からの交付申請に対し、内容の精査を行い、助成金を交付する。 ・同団体からの実績報告に基づき、助成金が目的に沿って活用されているかを精査し、助成額を確定する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別市体育協会

P l a n D o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	800	800	800	800	800	800
	合計		800	800	800	800	800	800

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
スポーツ団体の育成、スポーツの推進と裾野拡大のために活動を行っている登別市体育協会に対し、その活動に要する経費の一部を助成した。 【主な事業】 スポーツ指導者の育成、スポーツ表彰、胆振管内軽スポーツフェスタへの参加	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	加盟団体数	団体	15	15	15	15	15
指標・実績②	加盟チーム数	チーム	89	98	81	72	84
指標・実績③	登別市体育協会 活動予算額（決算ベース）	千円	2,130	1,699	1,485	1,814	1,876
指標・実績④	登別市体育協会 加盟団体事業への援助の件数	件		32	28	30	30
指標・実績⑤	登別市体育協会 加盟団体事業への援助金額	千円	672	621	622	657	660
指標・実績⑥	登別市体育協会 スポーツ指導者育成研修派遣回数	回		2	1	1	1
指標・実績⑦	登別市体育協会 スポーツ表彰の被表彰者数	人(団体)	13	8	10	9	9
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	加盟人数	人	2,583	2,750	2,328	2,114	2,114

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・本助成金に係る交付要綱がないため、助成の対象事項が明確でないほか、事務決裁等に時間を要していた。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・事務の負担軽減と、より適切な助成金の交付を図るため、登別市体育協会助成金の交付要綱を作成する。	本助成金に係る交付要綱を策定してください。	
【3次評価】			
継続		今後の方向性【Plan】 市民の健全なスポーツ活動の普及及び発展を図るため、登別市体育協会の活動を支援する。	

事務事業名	スポーツ推進委員会経費
-------	-------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	昭和 37 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	1	スポーツ・レクリエーション活動の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	生涯スポーツ指導者の育成	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	スポーツ行事への参画や軽スポーツなどの普及活動を行うスポーツ推進委員会の活動を支援することにより、体育・スポーツの振興を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 体育・スポーツの振興を図るため、スポーツ推進委員会の活動を支援する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・スポーツ推進委員に関連する情報について、委員へ速やかに情報提供を行う。 ・開催事業の計画や研修会の参加報告等のため、スポーツ推進委員会を開催するとともに、出席委員に対する、報酬の支払い事務を行う。 ・スポーツ推進委員会に関する分科会・意見交換等を行う北海道スポーツ推進委員研究協議会や胆振管内スポーツ推進委員研修会に委員を派遣する。 ・スポーツ推進委員の選出、委嘱事務を行う。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) スポーツ基本法、登別市スポーツ推進委員会設置条例	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) スポーツ推進委員

Plan D (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	446	335	476	476	405	567
	合計		446	335	476	476	405	567

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
各種スポーツイベントへの協力や軽スポーツの普及等を行った。 【委員数】15名 【委員の活動内容】 市民ラジオ体操会における体操指導、市民スポーツ・健康フェスティバルへの参画、軽スポーツの指導員としての派遣 など	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	開催回数	回	3	3	3	3	3
指標・実績②	委員数	人	15	15	15	15	15
指標・実績③	体育振興事業実施回数	回	2	2	2	2	2
指標・実績④	胆振管内スポーツ推進委員会参加者数	人	2	1	2	2	3
指標・実績⑤	北海道スポーツ推進委員会参加者数	人	5	1	2	1	1
指標・実績⑥	胆振管内スポーツ推進委員研修会参加者数	人	5	2	7	10	2
指標・実績⑦	各種スポーツ指導員派遣事業	回	5	8	3	2	3
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	事業等に参画した回数	回	14	17	12	11	12

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
【1次評価】	・委員の退任にあたり、後任者が見つからず、選出までに時間を要した。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	行政評価会議及び総合
【3次評価】	・体育協会等のスポーツ関係団体や委員のスポーツ活動基盤を通じて、委員の選出、委嘱事務にあたる。
継続	今後の方向性【Plan】 体育・スポーツの振興を図るため、スポーツ推進委員会の活動を支援する。



事務事業名		生涯スポーツ振興及びスポーツ関連団体の育成事業		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	平成 ー 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	健康・体力づくりの推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	関係機関の連携	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	生涯スポーツの振興と市民の健康増進及び体力向上を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	-------------------------------------	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 生涯スポーツの振興と市民の健康増進を図るため、スポーツイベントを開催するほか、スポーツに関する説明会等へ参加する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・市民ラジオ体操会の開催にあたり、関係団体に協力・協賛依頼を行うほか、周知用ポスターの作成・配布や参加者記念品の手配等を行う。 ・市民スポーツ・健康フェスティバルの開催にあたり、スポーツ関係団体と会議を実施し、開催内容の調整を図るとともに、周知用ポスターや大会プログラム等の作成・配布、交通指導員の手配等、イベント開催に必要な態勢を整備する。 ・スポーツ振興くじ助成金の活用を検討するため、同助成金の説明会に参加する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) スポーツ基本法、登別市スポーツ推進基本計画	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 市民

P l a n n o	事業費 (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
		国庫支出金	千円						
道支出金	千円								
地方債	千円								
その他	千円								
一般財源	千円			147	131	540	540	467	252
合計				147	131	540	540	467	252

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
市民ラジオ体操会を実施するとともに、市民スポーツ・健康フェスティバルに要する経費の一部を負担した。 【市民ラジオ体操会】 会場：市内小学校 2校 【市民スポーツ・健康フェスティバル】 会場：岡志別の森運動公園、市民プール	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	市民スポーツ・健康フェスティバル 参加者数(運動公園)	人	266	293	308	253	294
指標・実績②	市民スポーツ・健康フェスティバル 参加者数(市民プール)	人	223	256	269	516	310
指標・実績③	市民ラジオ体操会 実施会場数	校	2	2	2	2	2
指標・実績④	市民ラジオ体操会実施回数	回	1	1	1	1	1
指標・実績⑤	市民スポーツ・健康フェスティバル参加団体数	団体	6	6	6	6	4
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	市民ラジオ体操会 参加者数	人	239	168	214	282	230

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
【1次評価】	・ラジオ体操会が雨天決行であることの周知を徹底する必要があった。 ・市民スポーツ・健康フェスティバルをスポーツに触れる場とするだけでなく、スポーツ関係団体の活動を、市民に周知する機会として活用するべきであった。 ・スポーツ団体同士が相互に交流できる貴重な機会となっているため、今後も事業を継続したいと考えているが、参加者を増加させる取り組みを講じていきたい。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
改善	・市民ラジオ体操会については、市広報紙及びポスターにて雨天決行であることの周知を徹底する。 ・市民スポーツ・健康フェスティバルについては、会場への団員募集チラシ等の設置を奨励するとともに、プログラムに団体の活動紹介ページ等を掲載する。	課題にあるとおりフェスティバルを活用し、スポーツ団体の活動周知、加入者増加に資する取り組みを検討し、事業改善してください。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
改善		生涯スポーツの振興と市民の健康増進を図るため、スポーツイベントを開催するほか、スポーツに関する説明会等へ参加する。	

事務事業名	市民プール運営管理経費
-------	-------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	平成 ー 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	健康・体力づくりの推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	温水を利用した健康づくり	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	プール施設を活用することにより、市民の健康増進と余暇活動の充実を図ることを目的とする。	前回評価	維持
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民プールを運営管理することにより、市民の健康増進と余暇活動の場を提供する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 指定管理者への委託により市民プールの運営管理を行う。 次の箇所の修繕、点検等を行う。 【主な修繕箇所】 給湯配管、空気調和器、オペレーター、トレーニングマシン 等 【主な点検箇所】 高所作業台、可動床、冷却塔	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市民プール条例、登別市民プール条例施行規則	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 市民プール利用者

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他	行政財産使用料	千円	266	258	258	258	262	254
一般財源		千円	61,601	61,451	62,270	62,270	62,169	62,158
	合計		61,867	61,709	62,528	62,528	62,431	62,412

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
指定管理者への委託により市民プールの運営管理を行ったほか、次の箇所の点検・修繕等を実施した。 【指定管理者】 (一財) 登別市文化・スポーツ振興財団 【委託期間】 平成28年度～平成32年度 【主な修繕箇所】 給湯配管、空気調和機、オペレーター、トレーニングマシン 等 【主な点検箇所】 高所作業台、可動床、冷却塔	

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標の区分	指標の名称						
指標・実績①	開館日数	日	339	341	340	338	339
指標・実績②	一般利用者数（プール及びトレーニングルーム）	人	89,517	91,569	92,214	86,196	87,000
指標・実績③	一般利用者数（トレーニングルーム）	人	22,389	22,833	23,152	24,171	25,000
指標・実績④	水中運動・水中教室利用者数（キッズわくわくスイミング）	人	662	665	608	688	700
指標・実績⑤	水中運動・水中教室利用者数（マスターズ）	人	286	324	252	321	350
指標・実績⑥	水中運動・水中教室利用者数（ジュニア）	人			473	872	900
指標・実績⑦	水中運動・水中教室利用者数（ヨガ）	人	648	572	571	628	650
指標・実績⑧	水中運動・水中教室利用者数（水中ウォーキング）	人	198	184	153	200	250
指標・実績⑨	水中運動・水中教室利用者数（リハビリ）	人	31	29	30	35	40
指標・実績⑩	体力測定会	人	45	40	46	43	50
成果指標	市民プール利用人数	人	118,028	118,687	119,868	114,743	115,000

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
(事務事業の実施における課題点等)			
【1次評価】	施設の経年劣化に伴い、計画的な点検・修繕を行う必要がある。 【修繕箇所】 熱交換器プレート、地下ピット換気設備、トレーニングマシン 等 【点検箇所】 空調機自動制御設備、可動床		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	施設建設から10年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、計画的な修繕について検討していく。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		市民プールを運営管理することにより、市民の健康増進と余暇活動の場として、スポーツ振興を図る。	

事務事業名		市民プールバスパック事業		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	平成 17 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 29 年度
基本的な方向	2	健康・体力づくりの推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	温水を利用した健康づくり	大型事業推進プラン	非登録事業

目的	市民が市民プールを利用しやすい環境を整えることを目的とする。	前回評価	廃止
----	--------------------------------	------	----

P l a n 概 要	目 標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民が市民プールを利用しやすい環境を整える。	
	計 画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・市民プールの指定管理者である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団に業務委託を行う。 ・同団体から毎月提出される収入状況報告の内容を確認をする。 ・広報紙により情報を周知する。 ・市民プール館内に周知用チラシを設置する。 ・市民プールホームページに情報を掲載する。	
	根 拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 市民プールバスパック事業実施要領	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 市民プール利用者

P l a n D o 事業費 (財源内訳)	名 称	単 位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金	千円						
	道支支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	30	8	30	30	10	0
	合 計			30	8	30	30	10

事務事業の成果・改善の状況【Do】

路線バス運賃と入館料を組み合わせた市民プールバスパックを販売した。

【委託先】  
一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団

【販売場所】7箇所  
市民プール、鷺別公民館、市役所売店、市民会館、川西燃料店、道南バス若山営業所、道南バス登別温泉ターミナル

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標の区分	指標の名称						
指標・実績①	市広報紙を利用した周知の回数	回	3	3	3	3	
指標・実績②	販売箇所	か所	7	7	7	7	
指標・実績③	販売枚数（一般）	枚	19	21	26	14	
指標・実績④	販売枚数（高齢者）	枚	19	21	18	24	
指標・実績⑤	販売枚数（高校生）	枚	2	0	2	0	
指標・実績⑥	販売枚数（中学生）	枚	0	0	0	4	
指標・実績⑦	販売枚数（小学生）	枚	7	9	7	19	
指標・実績⑧	市民プール利用人数	人	118,028	118,687	119,868	114,743	
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	バスパック利用人数	人	47	51	53	61	

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
(事務事業の実施における課題点等)		
【1次評価】	利用状況や行政評価会議の結果を踏まえ、事業が一定の役割を果たしたものと判断。	
廃止		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
廃止	・平成29年度をもって事業を廃止する。 ・市民が市民プールを利用しやすい環境を整える目的の一環として、夏休み期間中に小、中学生を対象とした無料開放日を設け、その際に小、中学生を送迎するなどのバス活用について検討を進める。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
廃止		

事務事業名 若山浄化センターパークゴルフ場維持管理経費

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	平成 27 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	2	健康・体力づくりの推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	3	豊かな自然を利用した健康づくり	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	市民がパークゴルフに親しめる環境づくりを進めることで、生涯スポーツを推進し、市民の健康増進及び体力向上を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民がパークゴルフに親しめる環境を維持する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 若緑町内会への委託によりパークゴルフ場の維持管理を行う。 施設整備のため芝生、目土等を購入する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 若山浄化センターパークゴルフ場利用者

P l a n D o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	368	197	238	238	226	247
	合 計		368	197	238	238	226	247

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
芝生や目土等を購入し、若緑町内会への委託によりパークゴルフ場の維持管理を行った。	

指標の状況【Check】		単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標の区分	指標の名称						
指標・実績①	利用人数のうち市内在住者	人	9,663	7,716	7,615	7,833	7,000
指標・実績②	利用人数のうち市外在住者	人	566	485	261	351	350
指標・実績③	利用日数	日	188	183	169	206	180
指標・実績④							
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	利用人数	人	10,229	8,201	7,876	8,184	7,350

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	パークゴルフ場の整備に必要な備品の経年劣化が進んでいる。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	利用者がパークゴルフを安心・安全に楽しむための整備に必要な備品の定期的な点検を実施する。
【3次評価】	
継続	今後の方向性【Plan】 若緑町内会への委託により、市民がパークゴルフに親しめる環境づくりを進める。

事務事業名	登別市スポーツ少年団育成助成金		
-------	-----------------	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	昭和 45 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	3	競技スポーツの推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	選手の育成	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	子どもたちの体力づくり及びスポーツ技術の向上を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	------------------------------------	------	----

P l a n 概 要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 少年たちの体力づくりやスポーツ技術の向上を図るため、登別市スポーツ少年団本部の活動を支援する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・登別市スポーツ少年団本部からの交付申請に対し、内容の精査を行い、助成金を交付する。 ・同団体からの実績報告に基づき、助成金が目的に沿って活用されているかを精査し、助成額を確定する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 登別市スポーツ少年団本部

P l a n D o (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	500	500	500	500	500	500
	合計		500	500	500	500	500	500

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
<p>スポーツを通じて少年の心身を鍛えるために、市内のスポーツ少年団を指導育成する登別市スポーツ少年団本部に対して、その活動に要する経費の一部を助成した。</p> <p>【主な事業】 スポーツ少年団育成事業、リーダー養成事業（各種交流会・研修会への参加）、競技別交流会、指導者・母集団養成事業、加盟団体への助成、姉妹都市交流事業支援</p>	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	加盟団体人数	人	314	314	324	301	301
指標・実績②	リーダー養成事業 参加回数	回	2	2	2	2	2
指標・実績③	競技別交流会 参加回数	回	3	3	3	3	3
指標・実績④	指導者・母集団養成事業 参加回数	回	3	3	2	1	1
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	加盟単位団体数	団体	21	21	21	21	21

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	本助成金に係る交付要綱がないため、助成の対象事項が明確でないほか、事務決裁等に時間を要していた。		
継続			
	【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
改善	・事務の負担軽減と、より適切な助成金の交付を図るため、登別市スポーツ少年団育成助成金の交付要綱を作成する。	記載のとおり登別市スポーツ少年団育成助成金の交付要綱を作成し、事業内容を改善してください。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
改善		少年たちの体力づくりやスポーツ技術の向上を図るため、登別市スポーツ少年団本部の活動を支援する。	

事務事業名		児童生徒スポーツ振興助成金		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	平成 14 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	3	競技スポーツの推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	選手の育成	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	スポーツ活動を行う児童生徒の保護者の負担を軽減と、児童生徒のスポーツ活動の推進を図ることを目的とする。	前回評価	維持
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 児童・生徒のスポーツ振興を図るため、各種スポーツ大会に参加する児童・生徒の支援を行う。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・申請者からの交付申請に基づき、内容の精査を行い、助成金の交付決定または不交付決定を通知する。 ・申請者からの実績報告に基づき、助成金が目的に沿って活用されているか精査し、助成額を確定する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市児童生徒スポーツ振興助成金交付要綱	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 市内の小、中学校、高等学校に在籍する児童生徒又は市内に居住する児童生徒

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初	H28決算	H29当初	H29最終	H29決算	H30当初
			予算		予算	予算		予算
	国庫支出金	千円						
	道支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	2,500	1,751	2,500	2,500	2,281	2,500
	合計		2,500	1,751	2,500	2,500	2,281	2,500

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
市内の小、中学校、高等学校に在籍する児童生徒及び市内に居住する児童生徒が、国際大会、全国大会及び全道大会に参加する場合に、要する経費の一部を助成した。 国際大会：1件 全国大会：12件 全道大会：75件	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	助成件数（全道大会）	件	67	61	62	75	66
指標・実績②	助成件数（全国大会）	件	11	10	12	12	11
指標・実績③	助成件数（国際大会）	件	1	0	0	1	1
指標・実績④	助成人数（全道大会）	人	441	460	426	590	479
指標・実績⑤	助成人数（国際大会）	人	2	0	0	1	1
指標・実績⑥	助成金額（全道大会）	千円	1,323	1,440	1,317	1,770	1,447
指標・実績⑦	助成金額（全国大会）	千円	302	266	434	496	390
指標・実績⑧	助成金額（国際大会）	千円	20	0	0	17	9
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	全国大会出場者数（引率者含む）	人	10	40	36	52	35

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・申請者からの申請時や実績報告時に提出書類が不足するなど、事務手続きに時間を要した。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・助成金の手続きについて、市広報紙や市ホームページに改めて掲載し、周知を図るほか、申請者へ交付決定の通知文を送付する際に、実績報告時の手続きに関する通知文を作成し、併せて送付する。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		児童・生徒のスポーツ振興を図るため、スポーツ活動に係る大会に参加する児童・生徒の支援を行う。	

事務事業名		2020東京オリパラで夢を育むスポーツ推進事業		
区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	平成 28 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	3	競技スポーツの推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	選手の育成	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機として、子どもたちの夢を育み、スポーツの活性化を図ることを目的とする。	前回評価	
----	---	------	--

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 講演会や実技指導を通して、子どもたちの夢を育み、スポーツの活性化を図る。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・東京オリンピック実施競技のうち、リオデジャネイロでの日本人選手の功績が著しく、本市の競技人口が多い種目である「バドミントン」の元日本代表 小椋 久美子 氏を招へいし、トークショー及び実技指導の講師として依頼する。 ・周知用ポスターやチラシを作成のうえ、事前周知する。 ・申込みのあった参加者へ、入場整理券を送付する。 ・参加者へアンケートを行い、次年度以降の事業の参考とする。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 2020東京オリパラで夢を育むスポーツ推進事業開催要項	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 対象 小学生以上の市民等

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初	H28決算	H29当初	H29最終	H29決算	H30当初
			予算		予算	予算		予算
国庫支出金		千円						
道支出金	地域づくり総合交付金	千円	600	600				600
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	650	600	1,000	1,000	918	620
	合 計		1,250	1,200	1,000	1,000	918	1,220

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>元オリンピック選手である小椋 久美子 氏を招へいし、講演会や実技指導を実施した。</li> <li>○小椋久美子さんトークショー&amp;実技指導 開催日 10月1日(日) 会場 登別市総合体育館 対象者 (1)トークショー 制限なし (2)実技指導 小学生以上 参加者数 486人(うち実技指導受講者 217人)</li> </ul>	

指標の状況【Check】									
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標		
指標・実績①	講演会参加割合(市内)	%			78.57	65.57	70.00		
指標・実績②	講演会参加割合(市外)	%			21.43	34.43	30.00		
指標・実績③	実技指導参加人数	人				217	120		
指標・実績④	実技指導参加割合(市内)	%				69.19	70.00		
指標・実績⑤	実技指導参加割合(市外)	%				30.81	30.00		
指標・実績⑥									
指標・実績⑦									
指標・実績⑧									
指標・実績⑨									
指標・実績⑩									
成果指標	講演会参加人数	人			200	486	400		

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
【1次評価】	実技指導の検討及び準備に手間取り、周知が遅れたため、スポーツ関連団体と連携・協力のうえ、開催要項や実技指導等の事前調整を行う必要がある。
【2次評価】	今後の取組【Action】
【3次評価】	スポーツ関係団体との連携・協力により、事業を実施する。
継続	「地域づくり総合交付金」の利用を検討したが、同事業に3回までの利用制限があり、前年に一度利用していることと次年度以降の開催を考慮し、見送ることとなった。 その代わりに、講師の派遣に係る経費を北海道が負担する「広域スポーツセンター指導者派遣事業」を活用した。
拡大	行政評価会議及び総合オリパラの前年、当該年である平成31年度以降の事業内容について、拡大及びパラリンピック分野での事業を検討してください。
拡大	今後の方向性【Plan】 リオデジャネイロオリンピック等での日本人の活躍を踏まえ、実施種目として卓球を選択し、スポーツ講演会や実技指導等を実施する。

事務事業名		6市町スポーツ交流会事業		
区分	No.	名称		部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち		教育委員会社会教育G
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす		会計種別 一般会計
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進		開始年度 昭和 54 年度
基本的な方向	3	競技スポーツの推進		終了年度 平成 一 年度
主要な施策	3	交流を通じて豊かな心の育成		事業区分 ソフト事業
				大型事業推進プラン 非登載事業

目的	6市町（登別・室蘭・伊達・洞爺湖・豊浦・壮瞥）の小学生のスポーツ交流を推進することにより、児童の健全育成を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 児童の健全育成を図るため、6市町の小学生を対象としたスポーツ大会の開催を支援する。		
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・室蘭市、登別市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町及び（一財）室蘭市体育協会で構成される、西胆振6市町小学生スポーツ交流会実行委員会として西胆振6市町小学生スポーツ交流会を開催する。 ・開催にあたり、会議へ参加し、予算の決定や決算の承認を行う。		
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 西胆振6市町小学生スポーツ交流会実行委員会規約	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 市内小学校3～6年生

P l a n n o	事業費 (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
		国庫支出金	千円						
道支出金	千円								
地方債	千円								
その他	千円								
一般財源	千円			138	138	140	140	140	140
合計				138	138	140	140	140	140

**事務事業の成果・改善の状況【Do】**

6市町の小学生を対象としたスポーツ大会の開催を支援した。  
 【陸上競技大会】  
 開催日：平成29年5月27日（土）  
 場所：入江運動公園陸上競技場（室蘭市）  
 対象：小学校3～6年生

本事業は西いぶり定住自立圏共生ビジョンに位置づけられており、広域社会教育推進事業として実施している。人口割で負担金を決定しており、3年ごとに見直しを行っている。

指標の区分		指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	参加人数（全体）		人	510	477	501	492	441
指標・実績②	第6回西胆振6市町小学生スポーツ交流会 参加人数（室蘭市）		人	271	239	241	226	184
指標・実績③	第6回西胆振6市町小学生スポーツ交流会 参加人数（伊達市）		人	79	77	94	87	96
指標・実績④	第6回西胆振6市町小学生スポーツ交流会 参加人数（壮瞥町）		人	32	25	35	44	33
指標・実績⑤	第6回西胆振6市町小学生スポーツ交流会 参加人数（洞爺湖町）		人	20	20	12	7	6
指標・実績⑥	第6回西胆振6市町小学生スポーツ交流会 参加人数（豊浦町）		人	4	7	8	5	16
指標・実績⑦								
指標・実績⑧								
指標・実績⑨								
指標・実績⑩								
成果指標	第6回西胆振7市町小学生スポーツ交流会 参加人数（登別市）		人	104	109	111	123	106

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
(事務事業の実施における課題点等)		
【1次評価】	・西胆振6市町小学生スポーツ交流会実行委員会規約に基づき、適切に実施されている。 ・大会参加者数が増加していることから、地域における大会の定着化がうかがえる。	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】 6市町の児童の交流と健全育成を図るため、継続して事業を行う。	行政評価会議及び総合 人口割で負担金額が決定しております。費用対効果を高める意味でも、参加者の増加に取り組んでください。
継続		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】 児童の健全育成を図るため、6市町の小学生を対象としたスポーツ大会の開催を支援する。
継続		



事務事業名	青少年会館運営管理経費
-------	-------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	平成 ー 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	4	施設整備の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	スポーツ施設の確保と充実	大型事業推進プラン	非登録事業

目的	レクリエーション活動等を推進することにより、青少年の健全な育成を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 青少年の健全育成を推進する場としての活用のほか、市民のスポーツ振興の場の一つとして、安心・安全に利用できる場を提供する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 市内2箇所（中央・富岸）の青少年会館の運営管理を委託により行う。 【運営管理業務委託先】 公益社団法人登別市シルバー人材センター  指定管理者制度の導入を含め、事業の見直しを検討する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市青少年会館設置条例、登別市青少年会館運営規則	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 青少年会館利用者

P l a n n o (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金			千円					
道支出金			千円						
地方債			千円						
その他	行政財産使用料、青少年会館使用料、私用電話料収入		千円	852	848	813	813	829	833
一般財源			千円	9,762	9,686	9,905	10,041	10,020	10,445
	合計			10,614	10,534	10,718	10,854	10,849	11,278

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
市内2箇所（中央・富岸）の青少年会館の運営管理を委託により行った。 【運営管理業務委託先】 公益社団法人登別市シルバー人材センター  指定管理者制度の導入について施設の性質や財政効果額を検討した結果、指定管理者制度は導入しないこととした。	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	利用者団体登録数（青少年団体）	団体	18	18	29	34	34
指標・実績②	利用者団体登録数（一般団体）	団体	64	88	67	66	63
指標・実績③	利用者団体加盟者数（青少年団体）	人	608	440	665	1,193	810
指標・実績④	利用者団体加盟者数（一般団体）	人	2,361	2,669	2,364	2,050	2,240
指標・実績⑤	開館日数	日	359	359	360	359	359
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	青少年会館使用人数	人	48,619	49,465	45,315	44,724	44,724

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	施設及び備品の老朽化に伴い、点検及び修繕を行う必要がある。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	施設の状況を適宜把握し、必要な修繕等を実施する。
【3次評価】	
継続	今後の方向性【Plan】 青少年の健全育成を推進する場としての活用のほか、市民のスポーツ振興の場の一つとして、安心・安全に利用できる施設環境を維持する。

事務事業名	陸上競技場整備事業
-------	-----------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	平成 一 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 一 年度
基本的な方向	4	施設整備の推進	事業区分	ハード事業
主要な施策	1	スポーツ施設の確保と充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	市営陸上競技場を安全・快適に使用できるよう整備することにより、市民のスポーツを行う環境を充実させ、スポーツの振興を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) スポーツの振興を図るため、市営陸上競技場を安全・快適に使用できるよう整備することにより、市民のスポーツを行う環境を充実させる。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・市営陸上競技場のフィールド及びトラックの敷均し、転圧等整備を委託する。 ・市営陸上競技場周辺の樹木伐採を実施する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市体育施設設置条例	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 陸上競技場利用者

P l a n n o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	741	732	799	799	796	920
	合 計		741	732	799	799	796	920

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>市営陸上競技場のフィールド及びトラックの敷均し、転圧等整備を委託により行った。</li> </ul> <p>【委託先】 NPO法人おにスポ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市営陸上競技場敷地内の樹木の伐採を実施した。</li> </ul>	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	利用日数	日	206	235	203	156	150
指標・実績②	利用日数当たりの利用人数	人	73	57	40	25	26
指標・実績③							
指標・実績④							
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	利用人数	人	15,130	13,397	8,192	3,963	4,000

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
【1次評価】	・市営陸上競技場内の排水設備の改修が必要。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	施設を安心・快適に使用するため、割れている側溝の整備や排水溝を清掃するなど引き続き整備を行っていく。
【3次評価】	今後の方向性【Plan】
継続	スポーツの振興を図るため、市営陸上競技場を安全・快適に使用できるよう整備することにより、市民のスポーツを行う環境を充実させる。

事務事業名	岡志別の森運動公園等運営管理経費		
-------	------------------	--	--

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	平成 ー 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	4	施設整備の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	スポーツ施設の確保と充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	岡志別の森運動公園及び川上公園（Bゾーン）を活用することにより、市民の健康増進と余暇活動の充実を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民の健康増進と余暇活動の充実を図る施設として、安心・安全に利用できる場を提供する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 指定管理者への委託により、岡志別の森運動公園及び川上公園（Bゾーン）の運営管理を行う。 パークゴルフ場の運営に必要である老朽化した芝刈機の更新を行う。 【指定管理者】北海道曹達（株）幌別事業所 【指定期間】平成28年度～平成32年度	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市都市公園条例、登別市有料公園施設管理規則	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 岡志別の森運動公園及び川上公園利用者

Plan Do (財源内訳) 事業費	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	14,223	14,173	13,601	13,601	13,570	13,570
	合計		14,223	14,173	13,601	13,601	13,570	13,570

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
指定管理者への委託により、岡志別の森運動公園及び川上公園（Bゾーン）の運営管理を行った。	
【指定管理者】北海道曹達（株）幌別事業所 【指定期間】平成28年度～平成32年度	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	岡志別の森運動公園（パークゴルフ）利用日数	日	213	211	201	210	210
指標・実績②	岡志別の森運動公園（パークゴルフ）延べ利用人数	人	18,647	18,735	15,629	14,901	15,000
指標・実績③	岡志別の森運動公園（テニスコート）利用日数	日	207	203	187	189	190
指標・実績④	岡志別の森運動公園（テニスコート）延べ利用人数	人	9,090	9,676	9,211	10,178	9,600
指標・実績⑤	岡志別の森運動公園（野球場）利用日数	日	52	90	70	66	70
指標・実績⑥	岡志別の森運動公園（野球場）延べ利用人数	人	2,492	2,587	2,635	1,622	2,000
指標・実績⑦	川上公園（Bゾーン 野球場）利用日数	日	72	113	96	107	100
指標・実績⑧	川上公園（Bゾーン 野球場）延べ利用人数	人	4,446	4,648	5,288	4,163	4,500
指標・実績⑨	指定管理者主催事業 実施数	回	6	6	6	6	6
指標・実績⑩	指定管理者主催事業 延べ参加人数	人	345	363	334	366	400
成果指標	岡志別の森運動公園利用人数	人	30,574	31,361	27,809	27,067	27,000

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等)	
財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	施設の老朽化に伴い、計画的な修繕を行う必要がある。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】
継続	施設の老朽化が進んでいることから、計画的な修繕について検討していく。
【3次評価】	
継続	今後の方向性【Plan】 指定管理者への委託により、引き続き施設の運営管理を行う。

事務事業名		登山道維持管理経費			部・グループ	教育委員会社会教育G
区分	No.	名称			会計種別	一般会計
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち			開始年度	平成 ー 年度
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす			終了年度	平成 ー 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進			事業区分	ソフト事業
基本的な方向	4	施設整備の推進			大型事業推進プラン	非登載事業
主要な施策	1	スポーツ施設の確保と充実				

目的	安心・安全な登山のため登山道を維持管理することにより、豊かな自然を利用した市民のスポーツ振興や健康増進を促進することを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 登山道の整備を行い、利用者が安心・安全に登山できる場を維持する。	
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 安心・安全な登山道の維持を図るため、登別山岳会などに委託し、登山道の笹刈りなどの整備を行う。 【実施登山道】 カムイヌプリ登山道（幌別ダムコース） 来馬岳登山道（カルルス・鉱山コース） カムイヌプリ登山道の鎖場の整備を実施する。	
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入)	対象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) カムイヌプリ登山者及び来馬岳登山者

Plan D 事業費 (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他		千円						
一般財源		千円	627	624	626	626	626	660
	合計		627	624	626	626	626	660

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
安心・安全な登山道の維持を図るため、登別山岳会などに委託し、登山道の笹刈りなどの整備を行った。 【実施登山道】 カムイヌプリ登山道（幌別ダムコース） 来馬岳登山道（カルルス・鉱山コース）	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	カムイヌプリ 登山者数	人	1,355	1,504	1,531	1,313	1,500
指標・実績②	来馬岳 登山者数	人	516	584	551	394	500
指標・実績③	登別山岳会主催事業 実施回数	回	59	63	62	58	60
指標・実績④							
指標・実績⑤							
指標・実績⑥							
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	登山道整備実施回数	回	3	3	5	5	5

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	登山者が安全・安心に登山道を利用できるよう、笹刈りなどの整備を継続して行う必要がある。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	引き続き安心・安全な登山道の維持を図るため、登別山岳会などに委託し、登山道の笹刈りなどの整備を行う。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		登山道の整備を行い、利用者が安心・安全に登山を楽しめるようにする。	

事務事業名		市民プール整備事業		
区分	No.	名称		部・グループ
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち		教育委員会社会教育G
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす		会計種別 一般会計
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進		開始年度 平成25年度
基本的な方向	4	施設整備の推進		終了年度 平成 一 年度
主要な施策	1	スポーツ施設の確保と充実		事業区分 ハード事業
				大型事業推進プラン 登録事業

目的	市民プールの設備等を整備することにより、市民が安全・安心にプールを利用できるよう、施設環境の改善を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

Plan 概要	目標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 日常点検の結果や市民ニーズを把握し、施設の設備等の改修を行う。		
	計画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 日常点検や定期点検の結果などを踏まえ、設備等の大規模改修を実施する。 【改修箇所】 リラクゼーションプール・プールの床		
	根拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市民プール条例、登別市民プール条例施行規則	対象	(ハード事業の場合は、施設名を記入) 登別市民プール

Plan 事業費 (財源内訳)	名称		単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円						
道支出金		千円							
地方債		千円		2,200	2,200	4,700	4,500	4,500	
その他		千円							
一般財源		千円		3,552	3,433	2,256	2,196	2,196	4,796
	合計			5,752	5,633	6,956	6,696	6,696	4,796

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
日常点検や定期点検の結果などを踏まえ、設備等の大規模改修を実施した。 【改修箇所】 リラクゼーションプール・床	

指標の状況【Check】								
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標	
指標・実績①	開館日数	日	339	341	340	338	339	
指標・実績②	一般利用者数（プール及びトレーニングルーム）	人	89,517	91,569	92,214	86,196	87,000	
指標・実績③	一般利用者数（トレーニングルーム）	人	22,389	22,833	23,152	24,171	25,000	
指標・実績④	水中運動・水中教室利用者数（キッズわくわくスイミング）	人	662	665	608	688	700	
指標・実績⑤	水中運動・水中教室利用者数（マスターズ）	人	286	324	252	321	350	
指標・実績⑥	水中運動・水中教室利用者数（ジュニア）	人			473	872	900	
指標・実績⑦	水中運動・水中教室利用者数（ヨガ）	人	648	572	571	628	650	
指標・実績⑧	水中運動・水中教室利用者数（水中ウォーキング）	人	198	184	153	200	250	
指標・実績⑨	水中運動・水中教室利用者数（リハビリ）	人	31	29	30	35	40	
指標・実績⑩	体力測定会	人	45	40	46	43	50	
成果指標	市民プール利用人数	人	118,028	118,687	119,868	114,743	115,000	

課題等の状況【Check】		財源の検討（補助金・交付金の活用等）
(事務事業の実施における課題点等)		
【1次評価】	施設建設から10年以上経過し、経年劣化していることから、計画的な改修等について引き続き実施していく必要がある。 【改修箇所】 軒天 【工事箇所】 機械室防火戸	
継続		
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合
継続	必要な修繕箇所を把握し、計画的な改修等を実施する。	
【3次評価】		今後の方向性【Plan】
継続		日常点検の結果や市民ニーズを把握し、施設の設備等の改修を行う。

事務事業名	総合体育館維持管理経費
-------	-------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	平成 27 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	4	施設整備の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	1	スポーツ施設の確保と充実	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	総合体育館の維持管理等を行うことにより、生涯スポーツの振興と市民の健康増進を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	---	------	----

P l a n 概 要	目 標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 利用者が安心・快適に利用できるスポーツ環境の維持に努め、生涯スポーツの振興と市民の健康増進を支援する。	
	計 画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) ・利用者が安心して施設を利用することができるよう、AEDを設置する。 ・防災資機材譲渡代金償還年次表に基づき、バスケットゴールの購入費用を償還する。 ・スポーツ振興くじ助成金を活用し、バスケットゴールを購入する。	
	根 拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市総合体育館条例、登別市総合体育館条例施行規則	対 象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 総合体育館利用者

P l a n D o ( 財 源 内 訳 費 )	名 称		単 位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金			千円					
道支出金			千円						
地方債			千円						
その他	行政財産使用料、スポーツ振興くじ助成金※平成28年度のみ		千円	5,244	4,182	60	60	63	54
一般財源			千円	2,815	3,875	1,918	1,918	1,813	1,164
	合 計			8,059	8,057	1,978	1,978	1,876	1,218

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
施設に設置するAEDのリースや平成25年度に購入したバスケットゴール（1対）の費用の償還を行ったほか、総合体育館の駐車場看板を新たに設置した。 (AEDリース期間：平成30年度まで) (バスケットゴール償還期間：平成29年度まで)	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単 位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	利用者数（大人）	人	6,159	2,187	5,336	5,405	6,000
指標・実績②	利用者数（高校）	人	2,236	657	1,692	2,975	2,000
指標・実績③	利用者数（小人）	人	2,621	1,316	3,511	3,407	2,700
指標・実績④	利用者数（団体）	人	29,534	11,231	27,587	26,741	28,000
指標・実績⑤	利用者数（競技会）	人	15,460	6,728	15,946	17,561	15,000
指標・実績⑥	総合体育館主催事業参加者数	人	305	144	301	349	300
指標・実績⑦	利用者数（会議利用）	人	2,093	661	1,377	2,298	3,000
指標・実績⑧	開館日数	日	358	147	358	358	358
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	利用者数	人	58,408	22,924	55,750	58,736	57,000

課題等の状況【Check】			
(事務事業の実施における課題点等)		財源の検討（補助金・交付金の活用等）	
【1次評価】	・平成27年度に施設の大規模改修工事を実施したものの、設備や備品は更新されていないため、計画的な更新が必要である。		
継続			
【2次評価】	今後の取組【Action】	行政評価会議及び総合	
継続	・設備や備品の状態等について把握を行い、今後、必要に応じて更新を検討する。		
【3次評価】		今後の方向性【Plan】	
継続		利用者が安心・快適に利用できるスポーツ環境の維持に努め、生涯スポーツの振興と市民の健康増進を支援する。	

事務事業名	学校体育施設開放事業
-------	------------

区分	No.	名称	部・グループ	教育委員会社会教育G
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち	会計種別	一般会計
節	4	スポーツを通じて健康で活力ある生活をめざす	開始年度	昭和 54 年度
施策	1	生涯にわたるスポーツ振興の推進	終了年度	平成 ー 年度
基本的な方向	4	施設整備の推進	事業区分	ソフト事業
主要な施策	2	スポーツ施設の有効活用	大型事業推進プラン	非登載事業

目的	学校の屋内運動場を開放することにより、地域におけるスポーツ活動を促進し、市民の健康・体力づくりの増進を図ることを目的とする。	前回評価	継続
----	--	------	----

P l a n 概 要	目 標	(平成29年度で特に目指すべき目標を記入してください) 市民の健康・体力づくりの増進を図るために必要なスポーツ活動の場を提供する。	
	計 画	(目標を達成するために平成29年度で実施した事務事業の計画を記入してください) 市内小、中学校等の体育施設を市民に開放する。 また、すべての開放校にて、利用団体による自主管理を実施する。 【開放校】 (小学校) 青葉、登別、幌別、幌別東、幌別西、富岸、若草、鷺別、(中学校) 登別、(公共施設) のほりべつ文化交流館 計10校 【開放期間】 4月1日～2月28日(のほりべつ文化交流館は11月30日まで)	
	根 拠	(根拠となる法令・条例・規則・要綱等を全て記入) 登別市立学校体育施設開放事業の管理運営に関する規則、登別市立学校体育施設(屋内運動場)開放事業実施要綱	対 象 (ハード事業の場合は、施設名を記入) 学校開放事業利用者

P l a n d o (財源内訳)	名称	単位	H28当初 予算	H28決算	H29当初 予算	H29最終 予算	H29決算	H30当初 予算
	国庫支出金		千円					
道支出金		千円						
地方債		千円						
その他	学校開放事業利用団体実費負担金	千円	342	39	337	201	51	319
一般財源		千円						
	合 計		342	39	337	201	51	319

事務事業の成果・改善の状況【Do】	
市内小、中学校等の体育施設を市民に開放した。 また、すべての開放校にて、利用団体による自主管理を実施した。 【開放校】 (小学校) 青葉、登別、幌別、幌別東、幌別西、富岸、若草、鷺別、(中学校) 登別、(公共施設) のほりべつ文化交流館 計10校	

指標の状況【Check】							
指標の区分	指標の名称	単位	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30目標
指標・実績①	利用人数	人	25,414	24,370	23,195	21,061	23,000
指標・実績②	年間利用団体数	団体	1,779	1,714	1,568	1,456	1,500
指標・実績③	団体登録数	団体	70	79	77	70	75
指標・実績④	学校体育施設開放事業 小学校開放施設	施設	8	8	8	8	8
指標・実績⑤	学校体育施設開放事業 中学校開放施設	施設	1	1	1	1	1
指標・実績⑥	学校体育施設開放事業 そのほかの公共施設	施設	1	1	1	1	1
指標・実績⑦							
指標・実績⑧							
指標・実績⑨							
指標・実績⑩							
成果指標	開放日数(年度延べ)	日	1,561	1,510	1,535	1,607	1,500

課題等の状況【Check】	
(事務事業の実施における課題点等) 財源の検討(補助金・交付金の活用等)	
【1次評価】	平成26年度より実施している団体の自主管理により、運営の効率化が図られている。 利用団体からは、自主管理に移行したことによる問題や不都合について報告は上がっていないが、適宜必要な対応を行う。
継続	
【2次評価】	今後の取組【Action】 行政評価会議及び総合
継続	運営の効率化を図るため、団体の自主管理を引き続き行う。
【3次評価】	今後の方向性【Plan】 学校の屋内運動場を開放し、スポーツ振興を図るとともに、利用団体による自主管理が適切に行われるよう、引き続き管理する。
継続	